

立命館



父母教育後援会だより

A Magazine for Parents' Association Members
of Ritsumeikan University

2008年 夏号 | Summer Issue

父母教育後援会より～行事報告など～

- 2 オープンカレッジ・総会
- 12 都道府県父母教育懇談会 一福井県一
- 14 父母教育後援会表彰制度 2007年度表彰者
- 24 CAMPUS LANDSCAPE

勉学・学生生活について

- 26 学部だより
- 40 学生部から父母の皆様へ
- 42 1回生の半年間
- 44 学生部による父母教育後援会だより「誌上相談室」
- 46 保健センター 健康通信
- 48 学生のスポーツ&イベント

進路・就職について

- 50 キャリアセンター部長に聞く「就職活動の本質」
- 52 就職内定者座談会

学園よりお知らせ

- 56 学園トピックス
- 58 こんな場合はここへ

2008年度

オープンカレッジ 衣笠・BKCにて同時開催

五月十八日(日)、汗ばむほどの好天のなか「二〇〇八年度オープンカレッジ」が開催されました。

例年は、衣笠・BKCいずれかのキャンパスでの土曜開催でしたが、今年は日曜に両キャンパスで実施。そのため、参加者数がほぼ倍増の約二千三百名となる大盛況となりました。

プログラムは、「学生生活講演会」「大学院進学説明会」「進路・就職講演会」「就職相談会」

「留学説明会」「スキルアップ説明会」「キャンパス&課外活動見学会」が用意され、

父母は希望のプログラムに参加しました。

また、前日には「父母教育後援会総会」が開催され、今年度の事業計画と予算案が承認されました。

Schedule

◆5月17日
父母教育後援会総会

◆5月18日
オープンカレッジ

10:00~10:50	学生生活講演会 大学院進学説明会 キャンパス&課外活動見学会
11:00~11:50	進路・就職説明会(1~3回生対象) 留学説明会 キャンパス&課外活動見学会
12:00~12:50	スキルアップ説明会 就職相談会(4回生以上対象) キャンパス&課外活動見学会



学生生活講演会

衣笠



社会での青少年の凶悪犯罪が深刻化しています。今回は、過去十八年間にわたり家庭裁判所調査官として数千例の少年事件の臨床実践に携わってこられた、立命館大学文学部 廣井亮一教授に、「現代の青少年に向き合うために——非行臨床の実践から」と題し、実践経験を元に、大学生活を送る今の子どもたちの様子や、親の立場から子どもたちとどう接していけばいいのかをお話いただきました。その内容を抜粋してご報告します。

時代の変化とともに 変わる非行のタイプ

青少年の非行の特徴は、時代や社会を映し出します。今、大学に来ている子どもたちは、平成生まれになってきましたが、保護者の方たちの多くは昭和三十〜五十年代に青少年期を迎えた世代です。私はこれまでの臨床実践の経験や調査から、昭和二十年代から現代まで、時代に照らし合わせて非行のタイプを見てきているのですが、昭和五十八年前後を境に非行のタイプがガラッと変わっていることに着目しています。つまり、子どもたちが生きて成長



する現在と親世代の頃とは、一口に非行といってもタイプが全く異なります。



昭和五十八年という時代といつとファミコンと東京デイズニールランドができた年です。これらに象徴されるように、それ以降、子どもたちは室内やテーマパークなどきれいなところで遊ぶようになりました。そして、その頃から凶悪事件を犯して家庭裁判所に来る子どもたちのタイプも、それまでの非行少年とは明らかに異なるようになりました。

現代型凶悪事件を犯す子 その家族は、学校では

昭和五十八年以前の非行少年は明らかに「ワル」の顔や服装をしていました。

リーダーがいるピラミッド型のワルグループに属し、万引き、傷害、窃盗と犯罪のレベルがアップするようにワルの階段を昇っていたタイプです。それが五十八年以降は、おとなしい優等生、これまで家庭でも学校でも何の問題も無かった子が、単独で強盗、婦女暴行、殺人を犯して家庭裁判所にやってくるようになりました。

私は凶悪事件を犯した青少年の臨床実践を通して、その結果から現代の非行少年とその家族、学校での関わりの変化を分析しました。ここでは簡単に述べますが、彼らは優等生で、おとなしく目立たず、表情に乏しく、喜怒哀楽の感情表現が無いのが特徴です。そして家族との情感のこもったコミュニケーション経験に乏しい傾向があります。また、傍目から見ると幸せそうな家庭に育った子では、その幸せを壊さないように自分の怒りや悲しみの感情を抑えてきたというケースもありました。学校では教師から見れば手のからないう子、友だちとの交友関係はメールで済ませるなど表面的です。

大学生の子どもたちと どう関わって欲しいか

今の大学生を見ていると、以上の結果と同じとは言わないまでも、共通点があると感じます。そこで皆さんに子どもたちとどう関わっていただきたいかをお話します。

まず、大学生活の間に、小さな失敗とそれを修復・克服する経験をさせてく

ださい。彼らは大学に入るまでに小さな失敗を許されなかった世代です。その経験が無いままだと、いつかどこかで、ドロップアウトしてしまいう。それは仕事、結婚、中高年期になってからかもしれない。次に、過ちを自ら請け負う責任を付与してください。サポートという聞こえはいいですが、過剰な保護は長いスパンで見ると決していいとは思えないと私は考えます。また、メールやネットではない生身の人間関係の体験を促してください。そして最後に少し抽象的ですが、全身全霊で「伝える」ということを実践してください。



Parents' Voice

鹿内さん ご夫妻
政策科学部
1年生



娘はお話にあったような「きれいなところ」ではなく、野山を駆け回って遊んでいたタイプなので、現代の青少年とは少し違うかもしれませんが、逆に幼い面もあると思います。大学生活でいろいろな人と関わり、逞しさを身につけて欲しい。今日のお話しも参考に、親としてアドバイスしていきたいと思っています。

進路・就職講演会 (1～3 年生対象)

衣笠



衣笠会場では、世界的規模で事業展開している外資系経営コンサルタント会社、ワトソンワイアット株式会社の川上真史氏を講師に迎え、いま企業で起こりつつある変化、求められる人材、そして採用基準の鍵はどこにあるのか等について、お話を伺いました。

高まっている 仕事の難易度

川上氏は、新しい人事制度の構築や運用、また人材マネジメントや採用戦略等に精通した専門家として著名で、多くの企業に対するコンサルティング業務や、産業心理学の講義、講演、寄稿等に幅広く活躍されています。

川上氏はまず、現代の企業、特に大手の企業では、正社員の仕事の難易度が大きいが高まっていること、その原因は情報技術の飛躍的な進化にあることに言及されました。単純な仕事のかなりの部分をコンピュータで処理できるようになり、新入社員といえども、複雑で難しい仕事をこなす力量が求められているというわけです。この状況を認識しておくことが、就職を目指す学生、その親の双方にとって大切だと、川上氏は語りました。

現代の社会人基礎力は コンピテンシー

このような中で、企業が人材採用にあたって重視するポイントも、従来基

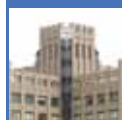


準とされていた学力・積極性・責任感・規律性といったものから、成果につながりやすい行動特性(コンピテンシー)をいかに持ち合わせているかとの観点に変化してきたことです。いま企業が求めるのは、達成意欲が高く、複数の要因を考慮して正しい判断ができ、かつ、自分と他者で相乗効果を生み出せる社会性を備えた人材であり、このような人ならば、高度な仕事にも前向きな姿勢で取り組み、やり遂げることができるのです。

川上氏は、社会人基礎力としてのコンピテンシーを培うには、自ら判断し行動する経験を学生時代に多く積むことが必要だと力説され、親は子を、自身自身の力で生きられる人間に育てることが重要だと締めくくりました。

進路・就職講演会 (1～3 年生対象)

BKC



BKC会場には、ワーク・ライフ・バランスの概念を日本に紹介し、コンサルタントとして活躍する、アパシヨナータInc. 代表のパク・ジョアン・スックチャ氏をお招きしました。氏はグローバルな視点を交えて、社会情勢・雇用状況の変化や、それに対する心構えを語られました。

雇用不安定な時代 冷静な現状認識を

米国系企業にて長く人事・教育畑の仕事を手がけてきたパク氏。八年前に日本初のワーク／ライフ・コンサルタントとして独立し、豊富な海外経験をもとに広く企業・社会に向けて仕事と私生活のバランスをとることの利点を説き、その実現を支援されています。

パク氏は、一九九〇年代に進んだIT革命とグローバル化がリストラや非正規雇用の増加を招いていること、終身雇用・年功序列の制度は経済の右上がりの成長が前提であるため、経済規模縮小が見込まれる今後の日本ではその維持が困難なことなど、押さえておくべき社会状況を解説されました。

仕事と私生活のバランスをとり 自己責任を果たせる人生を

その上で、二十一世紀のキーワードは「変化」であり、日本にとって最大の変化は急速な少子高齢化とそれに伴う人口減少、経済縮小であるとパク氏は指摘しました。収入確保のため職業人

として生きる期間が長くなる一方で、人件費の安い海外へ仕事の流出が進み、国内では能力の高い人材が必要



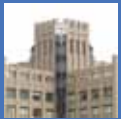
とされなくなるという厳しい現実も予想され、加えて、「キャリア」「ライフ」「老後」はすべて自己責任の時代へと突入してきているということです。

この事態に備えるには、各人が常に自己研鑽を心がけ、自分自身のスキルを高め続ける姿勢をもつことが不可欠であり、自分自身と向き合う時間を作り出すことが求められます。ワーク・ライフ・バランスを意識した生き方がそれを可能にするとパク氏は強調されました。仕事と私生活のトータルな質の向上を目指す生活へと転換を図り、より良い人生を生きるための、「働き方」に関する強いメッセージに、聴講した父母は一様に頷いていました。

就職相談会

(4回生以上対象)

BKC



全体会では二〇〇八年度の求人状況に加え、「今後の生き方をも含めたキャリアデザインの観点に立ったアドバイス」を展開するキャリアセンターの支援について具体的な説明がなされました。また学部ごとの懇談会では、就職活動で生じる疑問や不安などを踏まえ、質疑応答が活発に行われました。

就職後の生き方も含めた キャリアデザインを支援

キャリアセンターから「マスコミの報道に惑わされることなく、何をやりたいのか、どのような職種に就きたいのか」というところからスタートして、最終的に本人が納得できる進路を見つけていることが重要です。単に『この企業に入ったらハッピーになれる』という考えではなく、『職に就く』という意識を持って、本人が、その職を通してどのような人生を歩んでいくのかということまで考えることができるよう導いてあげてください」と、親が子どもの就職活動の相談に乗る際に踏まえるべきポイントが語られました。また、二〇〇八年度の就職状況や大学の支援については次のような報告がなされました。

大手の求人倍率は〇・七七倍

「求人倍率は二・一四倍でバブル期と同等の数値、求人数は過去最高水準の九五万人に達していますが、多くの学生が志望する従業員数千人以上の大手企業の求人倍率は〇・七七倍に留まって

いることを踏まえて活動することが大切です。民間企業戦線の特徴としては、大手の採用時期の集中化、準大手の採用意欲の拡大が挙げられます。」

一人ひとりを徹底サポート

「キャリアセンターでは「学生一人ひとりの希望進路の実現」をモットーに就職支援を実践しています。まずは電話やDMのほか、ゼミ・研究室の教員や課外活動団体の顧問などを通じて活動状況を把握。キャリアセンターに足を運ぶよう促し、じっくりと相談・カウンセリングを行ったうえで企業の求人情報とのマッチング機会の提供をしています。」

続いて、学部ごとに分かれて懇談会が実施されました。



Parents' Voice

鈴村さん ご夫妻
経営学部
4回生



就職活動中の息子へ、アドバイスのための情報を得るべく参加。ピークは秋とのことで安心しました。今日伺ったお話を踏まえ、絞り込んでごちんまりと活動するのではなく、広い視野で情報収集し、いろいろな業界・企業にエントリーするよう勧めたいと思います。

Parents' Voice

清水さん ご夫妻
政策科学部
3回生



企業の状況が具体的に分かる良いお話を聞けました。息子はこれまで勉強、サークル活動、アルバイト、どれも頑張っている様子です。就職に関しても、今日うかがったお話を参考にアドバイスしてやりたいと思います。父親も卒業生なので、大学のサポート体制については人一倍の信頼があります。

Parents' Voice

中谷さん ご夫妻
産業社会学部
1回生



娘は1回生で就職はまだ少し先ですが、他校に通う上の子が今年3回生で、ためになるかと思い参加しました。普段あまり聞けない内容で、難しいところもありましたが、川上氏が最後に述べられた「子どもが自分の力で生きていけるようにすること」は親として基本に立ち返ったような気持ちになれる言葉でした。

Parents' Voice

植村さん ご夫妻
理工学部
4回生



3月頃には面接での受け答えなどで悩んでいた息子も、つい先日、メーカーから内定をいただきました。唯一の不安は、まだ単位が足りていないこと。大丈夫なのかを確認したくて参加したのですが、学部別懇談会で質問すると「心配することはない」とのこと、ほっとしました。

Parents' Voice

林さん ご夫妻
国際関係学部
1回生



講演は、まだ現役の企業人である私たちの世代にも強く響く内容でした。受験説明会の印象が非常に良かったので娘は立命館を志望。その時対応してくれた学生さんが、立命館は就職のバックアップが手厚いと聞かせてくれたのですが、今日の講演を聞いて、サポートだけでなく意識の高さもうかがえました。

Parents' Voice

田中さん ご夫妻
産業社会学部
2回生



娘はサークルの話はよくしてくれるのですが、進路・就職に関してはまだ気にしていないようです。2回生なので仕方ないのですが、親にとっては「ちゃんと卒業して就職できるのか」が一番の関心事です。父親の母校である立命館大学に対しては信頼しています。

大学院進学説明会

衣笠



「研究者養成のための大学院」という、かつてのイメージは払拭され、これからの知識基盤社会が求める高度な専門能力を身につけるための大学院進学が注目されています。「文社系大学院」と「法科大学院（ロースクール）」に分かれて開かれた進学説明会には、数多くの父母が参加しました。

文社系大学院

まず、柳澤伸司教学部副部長が、「知識基盤社会、つまり知識・情報の重要性がますます高まる社会の到来で、国際紛争や環境問題、経済問題といった人文社会諸科学の分野においても、あらゆる問題がグローバル化してきています。このように複雑化・国際化する社会の担い手として求められる高度な専門知識を備えた人材の育成には、目的を明確化したカリキュラムによる大学院での専門教育が必要なのです」と、大学院進学の意味について述べました。また、「修了後は研究職だけでなく、民間企業や公務員への進路が増加しており、企業採用にも年齢的な不利はなく、むしろ大学院修了生の高い専門知識や論理的思考力、社会性が評価されています。きちんと就職活動を行えば就職の心配はありません」と進路にも言及。そして、院生の約四十%が奨学金を受給していることや、研究助成制度の充実など学費面にも触れました。

つぎに、二名の現役院生が大学院での学びを報告した後、大学院課職員か



ら、学内進学に必要な単位数や出願・入試時期、学費や奨学金について説明しました。

■学生の学び体験談

吉井千尋さん

国際関係研究科博士課程前期課程二回生



好きな中国のことをより深く学びたいと、飛び級進学しました。研究テーマは、「中国・農村の社会保障制度について」。所属ゼミでの研究だけでなく、他大学の研究会に参加したり、多くの中国人との交流から、中国の歴史や政治、日中関係などにも学びを広げています。「文系・女子・院生」という三重苦に臆することなく就職活動を行い、自分の能力を認めてくれた企業から内定をいただきました。

住田翔子さん

社会学研究科博士課程後期課程一回生



フランスの印象派画家、ポール・ゴーッランを研究しています。将来は研究職に就いて、芸術研究の素晴らしさを広めたいと思っており、現在は専門レベルの知識や語学の習得に励んでいます。大学院の魅力は、自分のペースで、関心のある研究を進められるところにあります。また、研究科内で他分野を研究する院生からも刺激を受けることができます。

法科大学院（ロースクール）

グローバルな視点と人権感覚を備えた「地球市民法曹」の養成をめざす本学法科大学院。会場では、山城光裕プロフェッショナルスクール事務室職員が進学説明を行いました。

「本学法科大学院には法学既修コース（二年制）と未修コース（三年制）があり、社会人も含め、さまざまなバックグラウンドをもつ学生が入学します。教員には現役の弁護士や裁判官、実務家、研究者などを揃え、『先端・企業法務』『国際・公共法務』『生活・人権法務』の三系統の教育プログラムで、体系的に学ぶことができます」と教学環境について話し、特徴的なカリキュラムとして、法律事務所などで研修する「エクスタインシップ」、実際の法律相談会を開く「リーガル・クリニック」を紹介しました。サポート体制については、「学習



環境は一人一台の学習机が用意されるなど充実しており、授業以外でも自主ゼミなどの各種サポートが実施されています」と述べました。

「入学試験には書類選考と二次選考があり、昨年度の合格率は約三十%で、うち内部進学者は三十二%。本学卒業生は入学金が免除になります。また、昨年度の本学の司法試験合格者数は全国七位。関関同立では一位と健闘しました」と、入試と合格状況について説明した後、質疑応答に移りました。

Parents' Voice

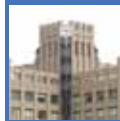
西野さん
政策科学部
3回生



子どもは進学希望ですが、親は何もわからないので参加しました。おかげで、進学に必要な単位や成績、また学費や奨学金のことがわかりました。データに基づいた就職状況などが聞ければ、より良かったと思います。何よりも本人の強い意志が必要ですが、応援してやりたいです。

大学院進学説明会

BKC



BKCでは、理工学研究科、テクノロジー・マネジメント研究科(MOT大学院)、経済学研究科、経営学研究科、経営管理研究科(経営大学院)の五つの研究科について、それぞれの特徴や進学の難易度、就職率の高さなど、父母の関心にそって解説が行われました。その中から「理工系・MOT大学院」と「経営管理研究科」の説明会での内容をご報告します。

理工系・MOT大学院

理工学系の大学院については、深川良一総合理工学大学院長補佐により、まずその教育組織から解説が始まりました。大学院では、理工学部十三学科と情報理工学部五学科の学びを統合し、理工学研究科として、博士課程前期課程・後期課程で学ぶことができます。

次に「二十一世紀COEプログラムなど、先進の研究が行われている高度な学びの環境があること」と、その特徴が説明されました。また「理工学系の大学院進学者は、より専門的な進路への就職率が高くなります。大学院で研究を究める過程で、自律的に研究する姿勢



が身につく、問題発見、分析、解決力やプレゼンテーション力、人脈形成力など、企業の求める高い能力



が磨かれるからです」と語られました。またMOT大学院も、新しい選択肢の一つとして、大きく注目されています。「専門知識や技術だけでなく、マネジメント力もつけることで、三十代、四十代のキャリアの転換点に生きる力を得ることができまう」と説明されました。また就職率が非常に高いことや、理工学研究科と合わせて、三年間で二つの修士号

を取ることも可能であるなど、MOT大学院の強みが解説されました。

■学生の学び体験談

里見 知昭さん

総合理工学専攻博士課程後期課程二回生



学部四回生の時、卒業研究をまとめる過程で初めて自発的な研究活動を体験し、その魅力に惹かれて大学院へ進学しました。大学院では、学部以上に専門性を高められるだけでなく、学会発表などを通して学外の人とのつながりも広がりました。修士一回生の時にはインターンシップも経験しました。研究の面白さを実感すると同時に、高い専門性を得て就職選択の幅が大きく広がったと感じています。

経営管理研究科

松村勝弘教授が解説に立ち、まず「経営管理研究科(経営大学院)では、経営者やコンサルタント、企業の第一線で働くプロフェッショナルを養成します。また公認会計士を目指す人にもお勧めしますし、さらにC.F.P.の受験資格など難関試験受験資格を得ることもできます」と概要が紹介されました。

経営管理研究科の特徴として、「実務(プラクティス)と学術(アカデミック)の両方を学べるプログラムを設定している」ことが挙げられました。「専門の教授陣が理論や専門知識を教えると同時に、ビジネスの最前線で活躍する実



務家教員を多数擁し、実践力を鍛えます。また京都を代表する企業経営者が来校して行うリレー講義などもあり、ビジネスの『今』に関する知識・経験とネットワークを手にすることができまう」と説明されました。

ご父母からも「文学部など他の専門学部からの進学も可能か」などの質問が出されました。他学部出身者を受け入れている実例や、受験勉強対策が紹介された後、個別にも丁寧な質疑応答が行われました。

※C.F.P.・ファイナンシャル・プランナーの国際ライセンス

Parents' Voice

光山さん ご夫妻
情報理工学部
3回生



息子は大学院へ進学するかどうか、迷っている様子。親として何かアドバイスしたいと思い、出席しました。今日は大学院のシステムがよく分かっただけでなく、専門分野への就職を目指すなら大学院進学は重要なことなど、参考になるお話をたくさん聞くことができました。帰ったら、ぜひ息子にも話してあげるつもりです。

スキルアップ説明会

衣笠



国家試験・資格・検定への挑戦や、キャリアアップを支援するエクステンションセンターが、各種講座や資格試験の合格状況について説明を行い、一回生時の正課授業の必要性も強調しました。CLA(言語習得センター)からは、高度な外国語運用能力を身につける語学講座や海外研修などが紹介されました。

エクステンション講座

東美江エクステンション事業課課長が、各種講座案内をもとに説明しました。「エクステンション講座は、立命館大学生向けにカスタマイズされたものです。公認会計士をめざす学生であれば、一・五年間と二年間の各受験コースがあり、昨年度の現役合格者は十五名でした。最も受講生が多いのは公務員講座です。昨年度の国家公務員I種合格者三十一名は、西日本の私立大学では一位の結果で、その八割が受講生でした」。

CLA講座

武藤千也言語教育企画課課長補佐が、「英語圏の大学・大学院留学に必要なTOEFL®講座や、就職やキャリア形成時にスコアが重要視されるTOEIC®講座は人気があり、その他の外国語検定対策講座や海外研修プログラムなども用意しています」と、授業外で外国語習得をめざす学生を支援する内容を紹介しました。

■学生の学び体験談

大館匠さん

法学部二回生



一回生時に初めて受けたTOEFL®の試験結果に納得できず、CLA講座を利用。正課後に学内の語学専門学校に通う感覚で、三時間(二コマ)を週二回受講しました。その結果、得点アップに成功しました。自らに試験を課してスキルアップする勉強方法は、自分に合っていたと思います。今後はESSで仲間と切磋琢磨しながら、TOEIC®の高得点にも挑戦したいです。

Parents' Voice

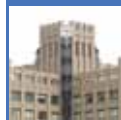
岩本さん ご夫妻
文学部
2回生



本人が留学を希望しており、CLA講座も受講しています。他にも音楽など、やりたいことがたくさんあるようですが、親としては何か資格を取って欲しいというのが本音です。積極的に自分から働きかけて、大学での学びが将来につながる糸口を見つけてくれることを望んでいます。

留学説明会

BKC



国内でも屈指といえる多彩な海外留学プログラムを用意している立命館大学。昨年度は全学生の二割近い千五百名以上が留学しています。説明会では、目的や語学力に応じてタイプ分けされた、さまざまな国・期間・テーマに及ぶプログラム全般について説明が行われました。

目的や語学力に合わせてセレクトできるのが魅力

小山昌久国際部長からのあいさつの後、国際センターから、目的や語学レベルに応じて大きく三タイプに分けられた各プログラムの特徴や応募資格をはじめ、準備すべき費用、二〇〇六年度実績で二億円を超えた奨学金など、海外留学プログラム全般について説明がありました。その中で「各プログラムには多くの先輩が参加している。情報の蓄積を進め、後輩への情報伝達を活性化して、年間二千名の参加をめざしたい」との意気込みが語られました。続いて、各タイプのプログラムを体験した学生から、留学の意義や自身の成長について発表がなされました。

■学生の学び体験談

前田有加さん

経営学部四回生
立命館・UBCジョイント・プログラム
UBC2年目派遣プログラム



「グローバルな仕事に就く」という夢を叶えるべく留学を決意。三回生の冬までカナダにいましたが、現地で積極

的に就職活

動に取り組

み、第一志望

の外資系投

資銀行から

内定をいた

だきました。

留学先で知

り合った友

人の中には

国連に勤め

ている人も

います。深

い信頼関係

で結ばれて

いるだけで

はなく、私

に刺激を

与えてくれる

貴重な存在

です。



Parents' Voice

蓮佛さん ご夫妻
経営学部
1回生



本人のモチベーション次第ですが、息子に、人生経験の一つとして留学を勧めたいと思い、その情報収集のために参加しました。体験談から、しっかりと目標を持って臨むことで意義深いものになることを実感。特に、現地で培われる人間関係は大きな財産になると感じます。息子にも、ぜひ話してあげたいですね。

衣笠



充光館

2007年に竣工した映像学部で、最新のコンピュータや映像関連機器が備わっています。



その他にも存心館や西側広場など、学生ナビゲーターの引率で、主な施設を見学しました。



以学館

2号ホールでは学生の課外活動の発表を見学しました。大学生日本一のダンスチームを目指す実力派ダンスサークル“舞style”による演技と、書道部によるパフォーマンスが披露されました。



末川会館法廷教室

京都地方裁判所で実際に使われていた陪審法廷を移築したもの。学生の模擬裁判の授業にも使用されます。



立命館その由来の碑

「立命」は、「生きている間はわが身の修養に努め、天命を待つのが人間の本分を全うすること」と説く『孟子』の一節からとった言葉です。

BKC



セントラルアーケ

1階、学生交流施設アートスクエアのステージでは、学生によるパフォーマンスが行われました。RDCダンスチームのエネルギッシュなダンスに目をみはり、ジャズクラブのメンバーによるスタンダードナンバーの演奏に聴き入りました。



学部生、大学院生のナビゲーターが学生生活について語りながら、キャンパスを案内しました。



アクロスウイング屋上

普段は学生も上がることのできない屋上へ。晴れやかな空の下、広大なキャンパスやグラウンド、さらには遠くに琵琶湖を望む、南草津一帯を見渡しました。



図書館

40万冊もの蔵書のある図書館を見学。ガイドの大学院生も活用するという学習スペースなどを見て回りました。



コラーニングハウスI

基礎科目や教養科目の開講される教室へ足を踏み入れました。700人収容可能な大教室で、学生たちが学ぶ雰囲気を感じました。

二〇〇八年度 父母教育後援会総会

オーブンカレッジ前日の五月十七日、「二〇〇八年度立命館大学父母教育後援会総会」が開催され、大学選出役員と父母委員総勢百三十一名が参加しました。今年度は総会に先立ち、「朱雀キャンパス見学会」と「総会記念講演会」が行われ、全国より参加した父母委員は、まだ新しいキャンパスや大学の学びの一端に触れました。

朱雀キャンパス見学会

法務研究科、経営管理研究科、公務研究科の三つの専門職業人養成大学院と、学園本部を擁する朱雀キャンパス。父母教育後援会事務局も設置されているこの朱雀キャンパスの見学会が、委員の希望者を対象に実施されました。参加者は裁判所の法廷を模した模擬法廷や、約五百名を収容可能な大ホール、大学院生全員に用意されている個人勉強スペースなどを見学しました。



総会記念講演会

「源氏物語」への親しみ
縮約・模倣という方法から

文学部中
西健治教授
による講演
会では、『源
氏物語』につ
いて斬新な
側面からア
プローチし、
その読み解
き方が語ら
れました。中
西教授は、源
氏物語の「あ
らすじ本」に
着目。五十四
帖という長編
小説を読破す
る難しさから
、江戸、明治
現代までの間
に、読む手立
てとして出版
された手引き
書をスライド
で紹介しまし
た。女性の立
場から読み解
いたあらすじ
や、年表や解
説の記された
ものなど、各
あらすじ本の
特徴を列挙し
た後、教授は
「筋だけを追
うては、こぼ
れおちてしま
う真実が、小
説にはありま
す。それをし
っかり読まな
いと本当に本
を読んだこと
にはなりません
」



総会・懇親会

と語りました。そして「小説を通して人生の真実や人間の課題を読む。それが文学を読む真髄です」と述べ、あらすじの面白さと、文学を読む意義についてまとめました。

講演会に続いて、父母教育後援会総会が行われました。まず父母教育後援会名誉会長を務める川口清史立命館大学学長が登壇。「大学、ご父母の方々、学生が一緒に、より質の高い教育作りを進めていきたい」と決意を述べました。



次いで、父母教育後援会の土野池正義副会長の議事進行で、二〇〇八年度に選出された委員・役員が紹介されました。

2008年度 役員(常任委員以上)			
役職	委員氏名	役職	委員氏名
会長	千 宗室(文3)	常任委員 (50音順)	小野 善三(政策3)
副会長	土野池正義(経営3)		小山美知子(経済3)
監事 (50音順)	桑原 淳子(経営3・経済2)		馬場 慶子(法3・産社1)
	中村 悦子(法4)		濱家 重信(国関3)
常任委員 (50音順)	井上 寿美(経営3)		日浦 良夫(理工3)
	今西 清裕(経済2)		日吉 由実(政策2)
	大矢須美子(文1)		

ての議案が承認されました。
総会の後は、懇親会が催され、各委員・役員が親交を深めるとともに、諸活動への意欲を確かめました。



2008年度事業計画

① 懇談会事業

1 総会

5月17日(土) @京都全日空ホテル 対象:都道府県父母委員

2 オープンカレッジ

5月18日(日) @衣笠・BKC 両キャンパス
「学生生活」「進路・就職」「大学院進学」「留学」「スキルアップ」のテーマ別講演会と、学生ナビゲーターによるキャンパス見学ツアー(学生課外活動見学会含む)を同時に実施する。

3 都道府県父母教育懇談会

6～7月 @全国47会場
昨年度は初の試みとして、地域別に区分けして32会場で父母教育懇談会を開催したが、全都道府県での開催を望む声が多く寄せられた。従って2008年度は全都道府県で開催する。

4 秋季全国父母教育懇談会

11月22日(土) @衣笠・BKC 両キャンパス
「学生生活」「進路・就職」関連の講演会、学部別に分かれての懇談会を開催する。

5 アカデミック京都ウォッチング

トワイライトコース:11月22日(土) / デイコース:11月23日(日)
深まる秋の京都ならびに滋賀の文化的・歴史的なお薦め名所を日帰りで楽しめるコースを設定し実施する。

② 学生教育支援

以下(1)～(5)に対する経費支援を行う。

1 正課等教育事業

- ① サブゼミアワー(基礎演習における学びをさらに充実させるための時間)における人員体制強化
- ② 表彰制度
創造的・個性的な取り組みや、優れた成果をおさめた取り組みを表彰する。
2008年度は全学表彰枠のありかたについて検討する。

2 課外活動

- ① 全学行事(応援グッズ作成、文化・スポーツ応援、学園祭等の企画)
- ② シャトルバス乗車料(衣笠-BKC間のシャトルバス乗車料の一部を援助)
- ③ 学生団体の地域交流や社会貢献活動
- ④ 入学式典

3 進路就職

- ① 就職活動支援
地域別就職合同セミナー(全国9会場)、SPI模試受験、「PLACEMENT GUIDE」発行、「父母向けキャリアデザインブック(仮称)」発行、その他企画
- ② 資格試験等図書支援
利用の多い図書の冊数確保。低回生のキャリア支援を意識した図書、最新図書、新学部・学科の進路・就職にふさわしい分野の図書整備。

4 国際交流

- ① 留学生支援(国民健康保険料支援)
- ② 国際交流事業
国際交流バスツアー(春・秋2回実施)、「立命館スポーツを応援しよう! (春・秋2回/野球・アメフト他)」、留学相談アドバイザー(仮称)

5 奨学金

- ① 修学援助奨学金
学費負担者の死亡により就学することが困難な学生を援助する。
- ② 家計急変奨学金
家計支持者の病气・解雇・倒産等により家計が急変し、就学が困難となった学生を援助する。

③ 広報・通信事業

1 父母教育後援会だより(会報)

年2回(夏号・冬号)発行予定。
2008年度は掲載コンテンツを含め、見やすくわかりやすい誌面作りを追求する。

2 ホームページ

父母教育後援会だよりWEB版、父母が参加できる行事や懇談会事業などを掲載する。

2008年度予算

(2008年4月1日～2009年3月31日)

■収入の部

(単位:円)

項目	予算額	説明
経常収入	361,065,000	
会費収入	360,000,000	07年度在籍者数(立命館大学財務部予想)を基礎に会費収入を計算
過年度会費収入	0	
卒業生父母資料費収入	200,000	
預金利息収入	150,000	
基金積立預金利息収入	50,000	
有価証券利息収入	665,000	学園債権利息をもとに計上
雑収入	0	
前年度繰越金	86,715,115	
合計	447,780,115	

■支出の部

(単位:円)

項目	予算額	説明
懇談会・講演会開催費支出	104,600,000	
懇談会郵送料支出	19,600,000	
懇談会印刷費支出(案内状等)	16,000,000	
懇談会場費支出(含茶菓)	50,000,000	
懇談会講演謝礼支出	2,000,000	
懇談会旅費・交通費支出	14,000,000	
懇談会その他雑費支出	3,000,000	
会報・学園案内広報支出	29,700,000	
会報等印刷費支出	16,000,000	
会報等郵送料支出	8,500,000	
広報旅費交通費支出	200,000	
IT広報支出	4,000,000	
会報等その他雑費支出	1,000,000	
学生教育支援事業支出	244,080,000	
サブゼミアワー活動支援支出	14,280,000	
父母教育後援会表彰制度支出	18,000,000	
課外活動支援支出	28,000,000	
就職活動支援支出	42,000,000	
資格試験等図書支援支出	5,000,000	
留学生支援支出	3,000,000	
国際交流事業支援支出	2,800,000	
修学援助奨学金支出	25,000,000	
家計急変奨学金支出	60,000,000	
麻疹予防接種支出	13,000,000	07年度からの継続事業
AED設置支出	33,000,000	各キャンパスに設置
災害見舞金支出	0	
学部10・30・50・70・100周年学生企画支援支出	0	08年度は執行予定なし
入学・卒業記念品作成費支出	11,400,000	08年度より新規項目
入学式記念品作成費支出	3,000,000	キャンパスカレンダー
卒業式記念品作成費支出	8,400,000	
会議費支出(総会・委員懇・常任委等)	15,000,000	
事務費支出(含弔慰金)	4,050,000	
人件費支出	21,000,000	
予備費支出	7,950,115	
父母教育後援会基金積立金繰入支出	10,000,000	
合計	447,780,115	



福井県

東尋坊・越前海岸・三方五湖の海岸美や、永平寺など由緒ある社寺を抱く自然と歴史ロマンに満ちた福井県からの報告です。



Fukui

白川静名誉教授ゆかりの福井県で父母と大学の交流を深める

都道府県父母教育懇談会は、父母の皆様が立命館大学の教育や学生支援の方針についてご理解いただくとともに、学生の生活や進路選択の状況をお知らせするために開催しています。今年度は、六月から七月にかけて、全都道府県で開催いたしました。

その先頭を切って六月一日(日)に開かれた福井県での懇談会の様子を、ここに紹介します。

全体会

会場の福井パレスホテルに、県内各地から約六十名の父母が集まりました。午後一時、前川彰男父母委員の司会により



全体会がスタート。川口清史総長の挨拶やキャンパスライフの様子などを収録した立命館大学放送局(RBC)制作のDVDが上映された後、以下のような挨拶・報告等が順に行われました。

◆大学代表挨拶

肥塚浩副学長(経営学部教授)が大学を代表して、父母からの厚い支援・理解に対する感謝の意を表しました。



そして「今春、衣笠キャンパスに小学校教員養成課程棟の「育友館」が竣工し、BKCには生命科学部と薬学部を開設しました。また文学部では来年度から、『京都学』ならびに『言語コミュニケーション』のプログラムが始まります」と、大学の最近の動きについて報告しました。続いて、「本学では学習者中心の教育をモットーに、高校から大学の学びに移る際の初年次教育に力を入れています。さらに、学部での教育が進路選

◆来賓挨拶

沢・就職につながるよう、キャリア教育にも努めます」と話しました。

古村隆一福井県校友会副会長が、「県庁・市役所、小学校から大学までの教育現場や県内の著名企業で、たくさんのお友が活躍しています。皆様の様子も後に続いて下さるよう心待ちにしています」と挨拶しました。また、福井県出身の校友で、文化勲章受章者、立命館名誉館友の、故・白川静本学名誉教授を称え、「福井県立図書館にある『白川文字学の室』を是非訪れてください」と語りました。



◆総会・オープンカレッジ報告

川口恭央父母委員から、去る五月十七日に父母教育後援会総会が京都で、翌十八日にはオープンカレッジが衣笠・BKC両キャンパスで行われ、約



二千三百人の父母が参加した旨の報告がありました。続いて、総会で採決された二〇〇八年度の父母教育後援会事業計画に触れ、「主な事業は、『懇談会』『学生教育支援』『広報』の三つです。学生教育支援事業では、正課、課外活動、奨学金、進路・就職などさまざまな分野での経費支援を計画しています。昨年度は、はしかの流行に対応して、予防接種の支援を緊急に行いました」と述べました。

◆就職活動体験談・就職状況報告

地元企業への内定を実現した二人の学生が来場して、就職活動体験を話しました。

池田亜侑美さん（産業社会学部四回生・株式会社福井銀行内定）は、インターシップ体験から銀行を志望するようになり、就職活動で最も苦労したのは自己分析だと伝えました。「自分の長所・短所や就職の目的などがわからなくなった時、友人に自分のことを聞いたり、キャリアセンターの模擬面接に参加してアドバイスをもらいました。アルバイトや水泳など、やりたいことだけをやってきたと自分では思っていました。そのなかでの成長やチャレンジ精神に気づき、面接にも自信をもって臨めるようになりました。『一生懸命取り組み、結果は必ずついてくる』と考え、社会人になっても頑張ります」。

河合章弘さん（経済学部四回生・セーレン株式会社内定）は、「就職を意識したのは、キャリアセンター主催の就職



合宿に参加し、社会人の卒業生（CA）や就職活動を経験した先輩（JA）と、自分のことや将来について語り合ったことがきっかけです」と話しました。「大阪や福井に通う就職活動と部活動との両立が大変でした。交通費もかかるので、効率よく動くためのスケジュール管理と体調管理に気をつけました。アルバイトも十以上経験し、いろいろな人と関わったり、さまざまなことにチャレンジする力がつきました」と、振り返りました。

続いて山田順一大学評価室次長が、文系・理系の別、おおまかな業種別に、近年の本学学生の進路決定状況や求人状況を報告しました。



◆履修・学生生活説明

林梨紗経営学部事務室職員が、個人別時間割表・成績通知表の見方についての説明と、海外留学制度やエクステンション講座の紹介を行いました。

●交流会・個別相談会

休憩を挟んで午後三時から「個別相談会」と「交流会」が並行して開かれ、

希望者が参加しました。

個別相談会では、ブースに分かれて大学教職員が父母と面談し、学生の勉強・生活に関する相談に応じました。

交流会は、ほとんどが初対面の父母同士ということで、初めはやや固さも見られましたが、前川・川口両父母委員や就職活動体験談を話した二人の学生が話の輪の中心となり、場がなごん

Parents' Voice

山村さん ご夫妻
経営学部
1回生



1回生なので、「まずは参加してみよう!」という気持ちで来ました。用意されていた資料も充実しており、大学の熱意が伝わって安心しました。しっかりするよにとの思いを込めて、娘を親元から出しました。大学時代という一番楽しい時間を、大切に過ごして欲しいと望んでいます。

Parents' Voice

片山さん ご夫妻
文学部
3回生



昨年は金沢が最寄りの会場でしたが、今回は近いので参加しました。このような内容なら、もっと早く参加すれば良かったですね。就職体験談は2人と言わず、もっと多くの話が聞きたいと思いました。本人が就職の方向性を決めれば、私たちからも地元企業の情報を伝えるつもりです。

Parents' Voice

高橋さん
政策科学部
3回生



5月のオープンカレッジにも参加しました。学生生活講演会が良かったですね。今日は学生の就職活動体験談がためになりました。親としてはUターン就職を希望していますが、本人は福井での就職は厳しいようなことを言っていますね。最後は、本人の意思に任せたいと思います。

Parents' Voice

山田さん ご夫妻
理工学部
2回生



学生生活紹介のビデオを制作したRBCに子どもが所属しているので、興味深く見ました。本人からはなかなか連絡がないので、このような機会に、親が大学のことを知ることができて有難いですね。大学はさまざまな機会を提供してくれている様子。活用してくれることを切に願います。

でいきました。大学教職員も交えた会話に花が咲き、打ち解けた参加者同士が閉会后も場所を移して歓談する姿も見られました。



2007年度表彰者

父母教育後援会では毎年、主として正課に関わる分野で顕著な成果をおさめた学生・団体を奨励し広く内容を公表することにより、学生が意欲的に目標に向かって研鑽する環境づくりに貢献することを目的として表彰制度を設けており、表彰者を本誌にて発表しています。

なお、2007年度表彰式は学部別にそれぞれの日程で挙行されました。

立命館大学父母教育後援会表彰制度の概要

①表彰対象

父母教育後援会会員を保証人とする学部学生を対象とし、他の学生の目標となる成果をおさめた個人・団体

②選考基準

選考基準は各学部で具体化し、決定する。

③表彰の種類

【学部長最優秀賞】

(個人) ……学習奨励金15万円および5万円相当の記念品

(団体) ……学習奨励金20万円

【学部長優秀賞】

(個人) ……学習奨励金9万円および1万円相当の記念品

(団体) ……学習奨励金10万円

【学部長教育賞】

(個人・団体) ……学習奨励金5万円

④募集と選考

◎募集の方法および募集時期は各学部で決定する。おおむね、1年間の成果が出揃い、選考可能な1月末を目処に行う。

◎選考は2月末を目処に各学部の選考委員会が行い、父母教育後援会幹事会で審議、決定する。

⑤表彰式

表彰式は各学部で行い、表彰状と学習奨励金(記念品)を授与する。

⑥その他

表彰者および表彰団体名、表彰内容について父母教育後援会報夏号に掲載する。



法学部

●法学部長優秀賞

2 柏木 大毅
特許権の効力と属地主義の原則——外国特許権者の保護のあり方を考える——

3 高木 志穂
税法の遡及適用の是非——平成16年税制改正による土地等の譲渡損益通算廃止を具体例として——

4 加賀山万理子
日本の学校教育における法教育導入の検討

4 佐伯 拓郎
錯誤論の展開——契約の拘束性とリスク分配を中心とした動機錯誤の考察——

●法学部長教育賞

2 石田 香織
地球温暖化と国際社会——温暖化の現状と京都議定書の効能——

2 井上真由香
有事法制と安全保障のあり方

2 小川 愛実
取調室可視化の必要性——刑事訴訟法198条1項但書きの解釈論と虚偽の自白の問題を中心に——

2 柏原 寛子
共同不法行為の射程範囲に関する一考察——狭義の共同不法行為と関連共同性——

2 川西麻美子
M & Aの交渉段階における基本合意書の法的拘束力——UFGグループ・住友信託銀行の一連の法廷紛争の考察——

2 木村 宏美
容器包装リサイクル法の現状と今後

2 小林 岬幹
高齢者虐待と人権

2 齋藤ゆかり
消費者契約法改正と消費者契約をめぐる最近の裁判例の動向——消費者団体訴訟の創設と更新料訴訟を中心に——

2 高橋 幸大
自治体職員の人材育成——豊中市の現状、課題、そして展望——

2 西出 龍太
共謀共同正犯理論——共同正犯と幫助犯の区別という観点からの考察——

3 足立有希奈
津地鎮祭事件における目的効果基準の評価
景観利益をめぐる訴訟の動向と今後の景観保全

3 上田 桜子
「疾病の範囲」？——TRIPS協定31条改正案を中心に——

3 梅原 梓
「300日問題はなぜ解決できなかったのか」
税法における権利濫用法理適用についての検討

3 櫻井 和哉
——外国税額排除余給枠控比流用事件——
京都議定書を離脱した米国の違法性について

3 清水 悦平
——条約法第18条と関連して——

3 住田 篤俊
不真正不作为犯の問題性——作為義務の考察と立法論——

3 津田 理絵
社外取締役・社外監査役

3 長坂 恵美
国際連合による「授権」方式の合法性

3 船迫 祥子
内部通報制度の法的構造とその理論的位置付け

3 増田 貴仁
高齢者の消費者被害救済と法の役割——高齢化に伴う消費者問題から見えてくるもの——

3 宮坂 美帆
判決理由中の判断における拘束力——争点効理論の是非を巡って——

3 村元 絢乃
中世における法

3 八木 康介
債務とは何か——瑕疵担保責任を素材として

3 山岡 萌
犯罪被害者の財産的損害の回復——加害者による損害賠償と国家補償のあり方——

3 山下 真由
児童扶養手当法13条の2は「児童福祉の増進」を守るか

4 門間 千津
出生前診断と選択的中絶——刑罰的視点から——
DV防止法の課題と展望——アジアのDV法と被害者の証言を通じて——

4 川端 弘美
年金受給権と年金の課税問題——福岡高等裁判所平成19年10月25日判決を題材にして——

4 小島隆太郎
書面によらないクーリング・オフ——口頭によるクーリング・オフの行使は可能か——

4 湖山 達哉
高齢犯罪者の社会内処遇向上の必要性和新法更正保護法の問題点

4 境 いらい
日本女性史研究とフェミニズム

4 鈴木 彩加
会計監査論考

4 トーマスアロン
裁判員制度の下における取調べの在り方——録音・録画記録制度の導入に向けて——

産業社会学部

- 4

前田龍之介

消費税仕入税額控除における帳簿等保存義務の再検討―最高裁判平成16年12月16日判決を素材として―
- 4

村岡 佑紀

生命保険契約における自殺免責期間経過後の自殺

●産業社会学部最優秀賞

- 3

木沢 久美
- 3

東 映里
- 3

今江亜佳里
- 3

實方 千曉

多文化社会から多文化共生社会へ
- 3

世古 俊介
- 3

高野真由香
- 3

實上 晃大
- 4

土井 亨

つながりを失う労働者―ホームレス社会にみる日本の労働市場の変容と歪み―

●産業社会学部最優秀賞

- 1

坂本 麻衣
- 1

吉田晃太郎
- 1

黒川 彰子
- 1

竹内 希
- 1

松尾 達
- 1

吉原 知里
- 1

藤林 美春
- 1

加藤 亮太

視聴者が読み取るべき「あるある」からのメッ
セージ
- 1

鷺見竜太郎
- 1

土手 基資
- 1

池田 恒太
- 1

高井絵理花
- 1

立道 陽平
- 1

岡本 雪乃
- 1

河北 英之
- 1

戦 蕾

- 1

賈 宇飛
- 1

服部 太郎
- 1

樋森 竜祐
- 1

徳田 夏美
- 1

発 友佳子
- 1

廣瀬 茜子
- 1

田中 麻季
- 1

平井あやか
- 1

田中 祥恵
- 1

稲田 光児
- 1

内山 寛士
- 1

神辺 創

視聴者が読み取るべき「あるある」からのメッ
セージ
- 1

村田 良祐
- 1

藤村 祐吾
- 1

岡田 裕謙
- 1

飯塚 麻由
- 1

桐山 貴文
- 1

湯谷 憲一
- 1

森田ひとみ
- 1

石村 直也
- 1

表 末沙子
- 1

津田 彩翔
- 1

岡村 俊貴
- 1

竹内絵梨奈

大学生によるCRM活動の試み―キットカッ
トの入荷・広報・販売の実践―
- 1

上嶋 詩織
- 1

田邊 建哉
- 3

大野 悠
- 3

塩谷 摩耶
- 3

増田 祐子

在日コリアンの権利保障をめぐる課題―多様
化するアイデンティティと新たな関係の構築―
- 3

柳沢 佳奈
- 3

田近 朱理
- 3

芦田真佑子
- 3

山東 美穂

老年期の発達―世代間交流における語り―
- 3

山本真理子
- 3

松本 結佳

- 4

橋本 真哉

ソーシャル・キャピタル論を用いた総合型地域ス
ポーツクラブの評価に関する一考察―京都府長
岡京市「長七みんなのスポーツクラブ」を事例に―
- 4

三木 智世

LOHASに見るライフスタイルの提案
- 4

谷保亜由子
- 4

花田 由子

日系南米人、ベトナム人の移住者集団から見た
日本における地域社会の現状分析―三重県伊
賀市、兵庫県神戸市の事例研究―
- 4

宇野茉莉子
- 4

岡河多佳子
- 4

中川優美子

- 1

栢 亜紗子
- 1

今泉 里美
- 1

谷木 亜衣
- 1

高木 彩
- 1

向井 千夏
- 1

新田 美帆
- 2

新田 笑子
- 2

酒井 宏和
- 2

片山 公輔
- 2

橋元 大和
- 2

久保友未穂
- 2

富田 晃代
- 2

平崎 友佳
- 2

大澤 一貴
- 2

澤田果那子
- 3

堀口 友恵
- 3

畑野 恵未
- 3

上原 麻理
- 3

猪狩万祐子
- 3

岡田 美帆
- 3

岡島 惟
- 3

白川 絵美
- 3

多田 有里
- 3

小林 夕華
- 3

山田 美希

●産業社会学部最優秀賞

- 1

遠藤 伊与

金ヶ崎から見る、野宿者のこれから

3	池田 実加	金ヶ崎から見る、野宿者のこれから
1	高木 愛美	京都市新景観政策と市民の在り方／既存不適格マンションの例を通して／
1	中島 航	
1	尾崎 文香	
1	上山 紗代	R 指定映画の教材化可能性に関する一試行
1	南 咲紀	
3	野々垣麻由美	企業とNPOは連携するの？／子育て支援における市民協力／
3	竹内 麻貴	なぜ恋人とはケンカをするのか？／現代大学生の友人関係と恋愛関係における対人葛藤のあり方の比較から／
3	外山 努	
3	岡田千菜津	外国人児童生徒にかかわる教育問題／聞き取り調査から見える現状／
3	松尾佳那子	
3	大坪 令奈	
3	林 宏行	
3	上村 尚規	
3	佐野 曜子	優れた予告編とは
3	田中 千尋	
3	田村 和	
3	若村 和輝	
3	谷尻 純子	外見コミュニケーション力／見た目と中身は一致するか？／
3	小川 翔	
3	前田 和彦	
3	大橋 良輔	
3	伊東佳奈子	少子化社会において広告はどういう役割を果たすか
3	小菅 美穂	
3	杉山 智穂	
3	小谷 友美	
3	大西 美穂	
3	山本 悦史	スポーツマネジメントとクラブの地域密着／スポーツが地域をつくり、地域がスポーツをつくる社会へ／
3	栗田 佳典	子ども兵と小型武器問題、その現実と課題
3	青木 陽平	
3	足立 誠愛	少子化社会の新卒リクルート広告

3	松村 実果	
3	白木 由記	
3	加藤 大地	少子化社会の新卒リクルート広告
3	丹野 亜美	
3	足立 紀久	
3	川村めぐみ	
3	四牟田 薫	ホームレス・コミュニティ／テントから新しい生活の場へ／
3	大塚 千恵	
3	加藤 由貴	
3	山本 奈央	
3	中井 恵理	同調行動から見る幼児期の発達
3	市村 麻子	
3	堂谷 由季	
3	尾上 結花	
3	林 加奈子	
3	鈴木 育実	みんなの大学つながる地域／大学を活かした地域づくりとは／
3	小野寺尊久	
3	竹仲 祥一	
4	藤澤 拓也	学生地域連携活動における一考察
4	政元 悠	
4	安藤佳珠子	現代社会とひきこもりー当事者から学ぶひきこもり施策の課題ー
4	入砂 文香	グスタフ・クリムト社会・人間・裸体像
4	福一 彰子	イ・ブルの表現する現代韓国の女性の「身体」
4	村田千津子	わが国における里親制度の可能性
4	平野瑠理子	青年期における時間的展望に関する一研究ー希望があれば生きてゆけるかー
4	雨宮 知美	オフィリアとアリスから現代へ／少女へのまなざし／
3	小野寺尊久	
3	植木 謙二	
3	鈴木 力	
3	山東 美穂	未来に可能性を求めて／障害のある学生と共に学んだこと／
3	福田 遊	
3	小谷 徹	
3	安西 陽香	
3	中西 貴子	

3	桐村由希子	
3	中村 周平	
3	吉川 満典	未来に可能性を求めて／障害のある学生と共に学んだこと／
3	亀山裕美子	
4	田中 亜美	
5	清水 将光	
3	野々垣麻由美	
3	加藤 泰裕	高齢者福祉施設紫野におけるよりよいボランティア受け入れ体制をめざして
3	野村 佳世	
4	松島 浩子	
4	山田 奈央	

国際関係学部

●国際関係学部長優秀賞		
4	新城 有輔	卒業論文
4	柘田 優子	卒業論文
4	齋藤登志紀	卒業論文
●国際関係学部長教育賞		
1	孝岡愛也佳	基礎演習ゼミナール大会での優勝(基礎演習Eクラス)
1	川原田 彩	
1	ルネ・マナ	
1	藤本 孔明	
1	栗井 亨	基礎演習ゼミナール大会での準優勝(基礎演習Kクラス)
1	萩野 麻美	
1	菅野 肇億	
4	草野 慶太	卒業論文
4	小島 現由	卒業論文
1	月見 友哉	
1	辻 友加里	
1	樋田 雄飛	GSG(グローバル・シミュレーション・ゲーム)の運営
1	藤井奈保子	
1	松浦 直哉	
1	森脇 崇弘	
1	水阪 浩之	

1	山口 由貴	
1	横関 愛	
1	吉田美砂代	
2	伊藤めぐみ	
2	垣内 萌	
2	羽尻 智子	
2	濱田 恵美	GS G(グローバル・コミュニケーション・ゲーミング)の運営
2	松本 陽介	
2	宗保 夏紀	
3	神林沙保里	
3	伊与田昌慶	
3	金田有香里	
3	柴田 直也	
3	堀 翔太	
2	垣内 萌	
2	松井 美晴	
2	齋藤 夢子	
3	宇田 洵子	
3	伊与田昌慶	
3	岩田 幸子	
3	上田ひろみ	オープンゼミナール大会の運営
3	志水 創一	
3	竹村真希子	
3	道前 泉美	
3	古屋 亜貴	
3	藤元雅菜恵	
3	森 貴之	
3	松岡実菜子	
3	李 明蘭	
3	小川奈緒美	オープンゼミナールでの優勝(大島ゼミ)
3	小濱 寛一	
3	小柳 聡	
4	佐野 祥太	

政策科学部

●政策科学部長優秀賞

2	秋本 翔太	
2	市村 徹也	
2	加護麻奈美	「研究入門フォーラム」研究発表大会優秀プロジェクト「戦後ベトナムの発展と弊害」ーストリートチルドレンについて」
2	土田 良介	
2	野崎 裕介	
2	吉永 祐佳	
2	遠藤 文晴	
3	御手洗貴弘	PSエキスポ優勝「農山村における一般廃棄物処理の現状と課題」長野県阿智村を事例に」
4	松本 一穂	公共政策フォーラム学生コンペ「京都府知事賞」市町村合併における農山村への「地域自治区」の導入成果と課題―上越市・安塚区を事例に」

●政策科学部長教育賞

1	劉 真衣	「基礎演習」リサーチプロポザルコンテスト優秀賞「地域メディアを活用した地域活性化」
2	二階 英生	
2	伊藤 奏美	
2	伊藤 あり	
2	今井 辰彦	
2	岩本 正輝	
2	阪口 彩子	政策系大学・大学院研究交流大会「京都コンソーシアム理事長賞」「木屋町うおーかー」外国人に優しい町に」
2	高嶋恵理子	
2	高畠 朋美	
2	丹羽 洋	
2	張 真也	
2	平岡 巳佳	
2	三好 竜也	
2	吉川 恵梨	
3	渡辺 直毅	政策系大学・大学院研究交流大会「京都市長賞」『新景観政策時代における建築協定の意義』
3	井上由香莉	
3	古郷 康介	

●政策科学部長教育賞(外国語作文)

3	高野 佳世	政策系大学・大学院研究交流大会「京都府知事賞」「京都市の新屋外広告物条例は遵守されるのか」
3	河内 詩織	
3	平盛 宏美	
3	榎田 諒	
3	岩崎 万季	京都まちづくりコンペ「優秀賞」「木屋町の違法駐輪問題解決政策」安心して歩ける町並みづくり」
4	更科 友美	公共政策フォーラム学生コンペ「京都府知事賞」「貧困緩和に向けた人間開発政策に関する基礎的研究」
1	日吉 夏子	外国語作文コンテスト「英語部門優秀賞」
2	伊藤 あり	外国語作文コンテスト「英語部門優秀賞」
2	植村 昌泰	外国語作文コンテスト「仏語部門優秀賞」
2	平岡 巳佳	外国語作文コンテスト「中国語部門優秀賞」
3	佐々木絵梨佳	外国語作文コンテスト「英語部門優秀賞」



文学部

●文学部長教育賞

1	小川 千文	源頼朝の馬である「いけすき」「あるすみ」の産地伝説についての研究を行い、ゼミナール大会において（一回生ながら）最優秀団体賞を受賞した。
1	岡橋 英子	「京都歴史回廊P」に積極的参加し、上七軒の歴史と現状について様々な手法を用いて分析した。文学部ゼミナール大会において「学生審査委員賞」を受賞。
2	中西紗也香	「京都歴史回廊P」に積極的に参加。西陣織産業に関する研究成果を積極的に発信し、学部内のみでなく地域の発展に大きく寄与している。
2	矢野えりか	「国際航業」インターンシップに積極的に参加し、専攻での学びへの理解を深めた。研修先からも高い評価を得ている。
2	河野 和樹	財団法人海外技術者支援協会でのインターンシップに参加し、日本語教室や日本文化の研修に参加し、研修先でも高い評価を得ている。
3	福永あやの	イノベーションP「学校教育臨床P」において自主的な学びのために様々な企画を実現させており、プログラム受講生全体の成長に寄与している。
3	石田 憲彰	
3	杉浦 翔	
3	富田 彩	
3	熊崎 裕子	
3	村山和香葉	
3	山本 岳	
3	古田奈津紀	
3	谷口 晴美	
3	喬 彬	高齢者インターンシップに参加、認知リハビリテーションのスタッフとして積極的に活動を行い、研修先からも高い評価を得た。
3	齋藤恵利佳	
3	山田 幸子	
3	片下 恵理	
3	稲田麻依子	文学部ゼミナール大会において「なぜ大川平荒馬踊りは半纏を羽織ったのか」についてフィールドワークの成果を中心に発表、最優秀個人賞を受賞した。
3	西嶋 一泰	

4	松枝 千世	
4	有本 香織	
4	伊藤 達俊	
4	今田多恵子	
4	宇陀 文香	
4	奥田 真友	
4	川畑 沙織	
4	小崎 絵美	
4	澁谷枝里子	
4	竹本 恵	
4	中尾衣利子	
4	中村健太郎	
4	久住 真穂	
4	日比真梨子	
4	堀之内陽子	
4	堀之内律佳	
4	山内 理恵	
4	湯浅 有希	
4	吉川 優美	
4	吉田 真澄	
4	渡邊壽緒美	
4	丹羽 宏文	イノベーションP「学校教育臨床P」に積極的に参加し、学校インターンシップ等にも精力的に取り組んだ。
4	越田 冬華	法と道德の弁証論—LegalitatとMoralitatは対立するか
4	吉田 大介	ワイトゲンシュタイン「論理哲学論考」における「純粹的實在論」
4	今西 彩	箱庭における受動的自己受容感の研究—新しい自己受容感の提案を指して—
4	亀山 治夫	公立小学校通常学級における特別支援教育の現状と課題—アスペルガー症候群の児童への指導—
4	泉谷 瞬	遠藤周作『深い河』における男女観
4	伊丹多恵子	宮沢賢治「よだかの星」
4	猪瀬 千尋	名前のつけられた楽器—連華王院宝蔵と中世音楽史—
4	梅田 知里	「南柯太守伝」における蟻の意味

4	荻原 絢嗣	結果構文と使役移動構文の考察
4	寺口 敬子	Witi Ihimera's 'The Whale Rider': what makes Koro's heart change? - the meaning of protecting tradition for the Maori -
4	熊谷 祐美	Harper Lee To Kill a Mockingbird 論
4	野木 雄大	武士の発生の二視点
4	久保田貴之	武田川の除普請—普請技術と人足動員に関わって
4	上野 義文	弥生・古墳時代における木製農耕具—直柄平鍬の機能的検討を中心に
4	鈴木 貴典	朱元璋政権における軍政について—翼から衛へ—
4	山崎 美保	古代ジャワとインドの交流—宗教建築チャンドイからの考察—
4	宇野真登香	グローバル化と歴史博物館—国民国家と時空間の変容—
4	山田 優理	アメリカ合衆国におけるアフアーマティブアクションをめぐる諸問題:「カラー・コンシャス」は差別を意味するか
4	木田 和海	タウン情報誌による「京都」の「街」の表象—新たな地理情報の空間分析—
4	米島乃有子	日本脳炎媒介蚊コガタアカイエカの捕集数にみられる時空間的变化—富山平野の気象と土地利用に着目して—
4	長島 雄毅	明治前期における京都市と近郊集落の第一次産業製品を介した結合関係—『京都府地誌』を中心として—
4	松田有紀子	多層エスニシティ都市京都—「あわい」の場としての四条河原—
4	杉岡 李乃	中世イベリア半島の金属工芸—「ビシャム2世の小箱」を読み解く—
4	室 恵莉奈	映画『ロード・オブ・ザ・リング』三部作における「目」の支配的構造
4	関口 達哉	BGM付き広告が商品評価と購買欲に及ぼす効果
4	高野 沙希	地域在宅高齢者における展望的記憶の評価—音読・計算課題の反復遂行による効果の検討まで—

4	本田 浩子	発達障害を持つ親の障害受容における対児感情及び自尊感情の心理的過程―半構造化面接による検討―
4	毛留 幸代	順序情報の記憶における加齢の影響
4	遠藤侑紀子	新規EU加盟国からの労働者受入れにみる英国の対EU姿勢
4	三橋 奈未	Ecotourism in Malaysia The Policy and the Current Situation
4	中山 悠子	メディアにおけるジェンダー表象の限界と可能性
4	渡邊 真実	Touch i South East Asia vol.1～3
4	北仲 英恵	UZBEKISTAN BLUE vol.1.vol.2.vol.3
4	加藤なおみ	NPO法人「まめもやし」インターンシップに参加し、生活支援員として精力的な活動を行い、研修先でも高い評価を得ている。
4	塩野 喬士	
4	田岡 拓	廃村「向ヶ倉」の調査
4	松下 諒子	
4	望月 裕介	
4	徳重 優	教育人間学専攻のオリター副団長・会計として専攻教学の発展に寄与し、そこで得た経験をJAとして文学部や他学部の学生に還元した。
4	岸田 光史	
4	肥後 孝行	
4	深堀 裕一	
4	加藤亜以子	
4	山本 有里	
4	高木 寛之	
4	西垣 順矢	
4	三浦 修司	Artong Project Vol.2 イベント企画ゼミ制作レポート
4	今出 友実	
4	増山絵理子	
4	浅野 隆昌	
4	吉村 悠樹	
4	島井 智絵	
4	高橋 亜士	
4	田原 有貴	
4	西村 仁子	

4	水野 里香	Artong Project Vol.2 イベント企画ゼミ制作レポート
5	石原 良成	
5	寺澤 哲	
2	村上 大樹	
2	植村 一敏	
2	栗田 愛絵	
2	西田 侑貴	
2	田中 徳将	
3	稲 慶子	「子供・青年の居場所づくり」インターンシップに参加、児童館での交流支援活動や近江兄弟者高校でのラーニングアシスタントとして積極的な活動を行った。
3	瀬嶋 里奈	
3	高橋ゆりな	
3	中島 彩杏	
4	大場 智紘	
3	岡田 健大	
3	豊田 あい	
3	佐藤 友香	「文化財修復・伝統工芸」インターンシップに参加し、高度な文化財修復や表装技術について学び、実習先からも高い評価を得た。
3	遠藤 詩織	
4	法寺岡宏枝	
2	足立 奈穂	
2	福岡 美蘭	「太秦映画村」インターンシップに参加した。前期間の研修を踏まえ、後期には4つのイベント企画を行い、高い評価を得た。
3	池浦 恵里	
3	安井 麻美	
1	佐藤 芽生	
1	石原 佳奈	基礎演習での発表課題「07年度オープンキャンパスでの企画・実行」
1	渡邊啓太郎	
1	西野 誠基	
1	豊福 昌仁	
1	瀧川 元気	
1	佐藤 芽生	教学に関する諸活動「自主映画の制作、学部映像祭の開催と出品」
1	岩本 拓磨	
1	松岡 真実	
1	大矢 侑輝	

映像学部

映像学部長教育賞

1	浅見 孟	
1	田川 佳祐	
1	石居 郁哉	
1	内海 麻有	教学に関する諸活動「自主映画の制作、学部映像祭の開催と出品」
1	中野 翠	
1	長谷川あずさ	
1	皆川 昭子	
1	村中なる美	
1	国関 鈴木 達也	
1	国関 森脇 崇弘	
1	国関 板谷 憲	国際インスティテュート・ゼミナール大
1	国関 山本 高裕	会優勝(会場A)
1	国関 大西清太郎	
1	国関 亘 直輝	
1	法 前田 宏朗	
1	法 大屋 祐子	
1	法 千葉 一真	国際インスティテュート・ゼミナール大
1	法 辻村 千尋	会優勝(会場B)
1	法 土山 由衣	
1	法 藤野 貴大	
2	山田 章広	発展途上国に対する海外直接投資と経済成長の実証分析
2	赤祖父智子	Liberalization of Airline Industry
2	安川加奈子	
2	渡辺 真弓	
2	佐藤 優	
2	松本早紀子	
2	松本早紀子	
2	佐藤 優	
2	赤祖父智子	Liberalization of Airline Industry
2	安川加奈子	
2	渡辺 真弓	
2	山田 章広	発展途上国に対する海外直接投資と経済成長の実証分析

国際インスティテュート

国際インスティテュート教学委員長教育賞

経済学部

経済学部長優秀賞(論文部門)

経営学部

●経営学部最優秀賞

- 4 玉記 悠吾
2030年、被雇用者の「見えざる手」は社会を救えるか？～未来の労働市場を通して新自由主義の限界を探る～

●経営学部最優秀賞

- 1 柴田 結香
1 白嶋 阿美
「善の循環」にみるCSR～サステイナブルな社会構築を求めて～
1 新田 里彩
1 吉田 有那
1 吉田友里恵
3 松井 一洋
美容業界発展のため～美容室経営の視点から～

- 3 中尾 明奈
3 青木 匡史
3 今西 亮平
3 漣 千帆
HOYAのペンタックス買収～企業買収における課題とは～

- 3 瀬古 夕佳
3 橋本 龍範
3 野村 真規
日本は「国際国家」となりうるのか？
4 河上 明広
エビ養殖ビジネスの発展～環境保護と食の安全の実現に向けて～

- 4 松井 基紘
モジュール生産の進展と新しい日本製造業のすがた～自動車産業における日本型モジュール生産の有効性～
4 泉 雄太
実質課税主義の限界の追究～租税回避の判例を基にして～

- 4 鈴木 花恵
世界の航空市場から見る日本の空の課題と展望～LCC市場の動向とその仕組みに学ぶべきこと～
4 高橋 隆太
郵政民営化と地方銀行の行方

●経営学部教育賞

- 1 吉野 由樹
マーケティングの観点からみる資生堂の改革

- 1 坪井 敦範
北越急行存続の方法～地域鉄道活性化を考える～

- 1 高橋 和也

- 1 森田 才雄

- 1 今富 圭

- 1 鈴木 美和
セブン&アイ・ホールディングスのグループフィナジー～流通戦略からの視点～

- 1 高崎 敬子

- 1 佐々木佑介

- 3 林 直哉

- 3 前田 健太
中小企業における有効な理念浸透策について～理念浸透度と理念浸透策の関係から～

- 3 岡田 康弘

- 3 道向 亮太

- 3 小笹 真実

- 3 中西 佳代
アパレル業界におけるリアル店舗とWeb店舗～クリック&モルタルの観点より～

- 3 中堀加奈絵

- 3 中野 文恵

- 3 中村 咲貴

- 3 谷 拓紀

- 3 山内 沙樹
無印良品・フランフランはなぜ成功したか～インストアマーケティングの視点

- 3 松本 鈴子

- 3 服巻 桂子

- 3 浅野 康行

- 4 北田 真紀

- 4 情家 拓馬
これからの税務戦略とリスクマネジメント
4 竹中 雅美
コマツのV字回復戦略とは？

- 4 嶋 えりか
異文化社会における食のマーケティング～食のポータリティを事例研究として～

- 2 田畑 藍
連結決算によるリストラの加速

- 2 陳 蒙

- 4 福住 卓磨

- 2 山本 雄人

- 2 中谷 剛

- 3 田中 亜依

- 3 李 東勲

- 2 上杉 達哉
2 川崎 直人
Threat of Indian Outsourcing
2 片山 圭太

- 2 桑原 侑希

- 2 金子 友美

- 3 伏見 貴之
特定保健用食品の健康効果に対する消費者評価
産業間別年齢労働代替性と定年延長における影響

- 3 小林 広和
住所付モデルでの新技術に対する対応について

●経済学部最優秀賞(論文部門)

- 3 岡本亜貴子
結婚すると年棒は上昇するのか？～プロ野球市場の計量分析～

- 3 日根野新祐
準双曲割引関数を用いた投票者の行動分析

- 3 川崎 貴嗣
業界再編～鉄鋼業界を事例として～

- 3 小西 未奈
大阪市24区における地域形成要因分析～都心集積による効果のシミュレーション～

- 3 鈴木 宏昌
技術供与の理論分析

- 3 浦口 烈
OECD加盟国の経済成長～成長のエンジン～

- 3 功野 智裕
労働組合が雇用調整に与える影響についての実証分析

- 3 原口 智

- 4 内山 香絵
地方財政と課税競争

- 4 森井 友美
著作権保護水準の理論分析

●経済学部最優秀賞(検定部門)

- 1 黒飛 早織
TOEIC P 835点

- 2 花田 綾子
TOEIC P 820点

- 2 饗庭 奨一
TOEIC 865点

- 2 濱 恭己
TOEIC P 780点

- 2 川辺 新也
TOEIC 810点

- 3 島田 真衣
TOEIC 795点

- 4 増井 友香
TOEIC 835点

- 5 杉山 夏子
中国語検定 2級

理工学部

●理工学部長最優秀賞

3 三瀧 雅俊 実験科目での意欲的な取り組み

●理工学部長優秀賞

2 森實 千恵
2 矢野 隼人
2 橋本 直哉
2 中園健太郎
2 馬場 容子
2 白木まゆみ
2 岡林 佳織
2 齋藤 麻未
3 神原 仁志
4 遠藤 皓介

①電気電子工学の実験および演習への意欲的な取り組み②到達度検証試験において優れた成績を修める③TOEFL・ITPにおいて高得点を取得

卒業研究の内容優秀者「都心部の学校跡地を活用した都市再生に関する研究」

●理工学部長教育賞

1 高田 雄介
1 庄慶 優輝
1 鈴木 悠史
1 高橋 賢
2 杉山 裕一

1 回生小集団「機械工学概論」3クラス合同プレゼンテーション大会最優秀賞の受賞（発電方法とその仕組み」2007.7.1）（Bクラス・プレゼン発電グループ4名で団体出願）

「環境管理調査実習Ⅰ」でのレポート課題

2 福島 有一
3 梁 セスン
3 尹 孝雄
3 岡本 淳子
3 鈴木 智美
3 山口 智美
4 徳野 昌己
4 山本 悠里

最適な負債・資本比率と財務政策についての研究（財務政策の理論的支柱）

「企業の不祥事は、地域ブランドを破壊する」京都の企業連携によるリスクマネジメントの取り組みから」

2 古川 光里
2 米田 友香
3 神田 大樹
3 木村ゆうき
3 大附 寛幸

インターンシップ「郡上八幡山と川の学校」

正課（非線形物理学Ⅱ）における発表

到達度検証において優れた成果を挙げた（化学生物工学科内で1位）。

到達度検証において優れた成果を挙げた（化学生物工学科内で1位）。

3 川本 康一
3 澤田 麻穂
3 酒向 沙織
3 岡本 千寛
3 森本 健太
3 吉田 薫
3 山下 修平
3 堀 哲理
3 林 宏樹
3 西澤 真一

到達度検証2位（193人中、18点／24点）

到達度検証6位（193人中、13点／24点）。

到達度検証12位（193人中、12点／24点）

TOEIC85.5点。

①到達度検証1位（193人中、19点／24点）②飛び級進学者（大学院試験36.5点／40.0点）

実験科目での意欲的な取り組み

実験科目での意欲的な取り組み

実験科目での意欲的な取り組み

実験科目での意欲的な取り組み

実験科目での意欲的な取り組み

TOEIC73.5点②ソフトウェア開発技術者試験合格

3 田口 博之
3 西川 裕輔
3 宅間 耕平
3 瀧上 義朗
3 土田 誠
3 廣野 和也
3 道場 智史
3 萩原 勇太
3 耕 俊之
3 阿部 弘明

①機械システム実験Ⅰ、ⅡともにA＋②ロボット技術研究会（プロジェクト団体）会長として活動③勉学に精励（3回生前期まででA＋16科目 修得単位数111、GPA 3.66）

実験科目「ロボット実験Ⅲ」で最優秀賞を受賞

3 岩崎 信賢
3 位田 崇彰
3 上本 宏明
3 梅津 聡
3 高岡 理
3 濱松 和秀
3 岩崎 信賢

実験科目「ロボット実験Ⅲ」で最優秀賞を受賞

到達度検証試験1位（66人中）②累積GPA 学科1位

3 岩澤 圭佑
3 谷口 琢哉
3 吉見 尚子
4 吉光 奈奈
4 渡邊 啓太
4 鈴江 寛史
4 高橋 俊介

プロジェクトマネジメント演習において「草津市における生ごみの有効利用を提案」しており、地球環境問題の解決方法の1つとしてCO₂の削減手法について纏めた。

物理学に関する分野でのプレゼンテーション優秀者

物理学に関する分野でのプレゼンテーション優秀者

物理学に関する分野でのプレゼンテーション優秀者

物理学に関する分野でのプレゼンテーション優秀者

①国際シンポジウム「International Symposium on Biosynthesis of Tetrapyrroles (BSP07)」においてポスターと英語によるショートプレゼンテーション②国内学会での発表。

4 深井 一弘
4 木澤 真美
4 下林 義明
4 西山 欣材

①国際シンポジウム「Korean-Japan Bilateral Symposium on Frontier Photoscience (2007KJFP)」での発表。その他国際会議で英語によるポスター発表②国内学会での発表。

優秀な卒業研究を行った

優秀な卒業研究を行った

優秀な卒業研究を行った

優秀な卒業研究を行った

4 中野 皓太
4 竹内 亮太

①卒業研究の研究会発表と研究発表優秀賞の受賞（鉄鋼協会・金属学会関西支部材料開発研究会「ERSプロセスにより作製したSUS316Lナノ・メドハイブリット組織材料の機械特性」2007.12.6）

①卒業研究の学会発表——化学工学会第73年会講演会（磁気ベナール対流の力オス特性」2008.3.17～19）

4 松原 克
卒業研究に研究会発表―第45回燃焼シンポジウム(浮力により誘起される火炎振動に及ぼす酸素濃度の影響) 2007.12.5〜7)

4 酒井 孝康
①国際会議での研究発表(英語) ②第5回環境調和型設計とインバースマニユファクチャリングに関する国際会議(Statistical Fatigue Property of SCM435 Steels in Ultra-long Life Regime in Rotating Bending", 2007.12.10〜12)

4 太田 剛士
卒業研究(つまみ滑り動作による布地の動的な展開)を学外の講演会(計測自動制御学会システムインテグレーション部門学術講演会)で発表。

4 三輪 純一
学会・研究会での優秀者。〔第16回化学とマイクロ・ナノシステム研究会(CHEMAS)〕におけるポスタープレゼンテーション等。

4 今成 優海
難関試験である国家公務員採用I種試験合格

情報理工学部

●情報理工学部長最優秀賞

4 中村 政義
ACM国際大学対抗プログラミングコンテスト(ACM/ICPC) J2007年度アジア地区予選東京大会

●情報理工学部長優秀賞

1 倉見晋太郎
プログラミング演習2「プログラミング課題」

2 明本 学
「知能情報学実験1」レポート課題優秀者

1 西出 恭平
プログラミング演習2「プログラミング課題」

1 岡田 裕規
「情報」コミュニケーション学序論におけるプロジェクトの優秀グループ

1 今井 裕人
「情報」コミュニケーション学序論におけるプロジェクトの優秀グループ

1 海本 篤志
「情報」コミュニケーション学序論におけるプロジェクトの優秀グループ

1 森 尚平
「情報」コミュニケーション学序論におけるプロジェクトの優秀グループ

1 山本 剛史
「メディアプロジェクト演習1」優秀グループ

1 松田 洸一
「メディアプロジェクト演習1」優秀グループ

1 澤開 貴博
「メディアプロジェクト演習1」優秀グループ

1 小島 史久
「生命情報学通論」における優秀グループ

1 小野 匠嗣
「生命情報学通論」における優秀グループ

1 岡嶋 大樹
BMB2007学会発表「ホヤ糖脂質プロジェクト」
Machalocynthia riebeckii

●情報理工学部長教育賞

4 浅野 省吾
「情報」コミュニケーション学実験2「実験課題」

1 奥平 竜司
「情報」コミュニケーション学実験2「実験課題」

1 村上 誠治
「情報」コミュニケーション学実験2「実験課題」

2 水野 勝史
「情報」コミュニケーション学実験2「実験課題」

2 岡村 哲史
「情報」コミュニケーション学実験2「実験課題」

2 足立 幸祐
「情報」コミュニケーション学実験2「実験課題」

3 溝口 遊
「メディアプロジェクト演習2」

3 中川 智史
到達度検証試験「基礎情報理工学」課題

3 山根 史高
情報処理技術者試験「ソフトウェア開発技術者試験」合格

3 鉄井 崇仁
卒業研究1などの学習を通して成長したこと

4 尾藤 幸司
第11回バタイン認識・メディア理解アルゴリズムコンテスト優秀賞受賞 研究会

4 佐古 祐
バタイン認識・メディア理解研究会アルゴリズムコンテスト入賞

文理総合インスティテュート

●文理総合インスティテュート教育賞

1 経営 西 結利花
多様化する決済方法と現金主義社会日本における電子マネーの現状とこれから

1 経営 橋本 貴子
多様化する決済方法と現金主義社会日本における電子マネーの現状とこれから

1 経営 倉垣 友紀
多様化する決済方法と現金主義社会日本における電子マネーの現状とこれから

1 経営 米原 京美
多様化する決済方法と現金主義社会日本における電子マネーの現状とこれから

1 経済 小林 佳奈
タルク缶のデザインは消費者に受け入れられるか?

1 経済 花岡 沙織
タルク缶のデザインは消費者に受け入れられるか?

1 経済 川崎 智予
タルク缶のデザインは消費者に受け入れられるか?

2 経済 廣川 朋子
容器減量化プロジェクト

2 経営 西浦 恵
容器減量化プロジェクト

2 経営 川井 明子
容器減量化プロジェクト

2 経済 津島 尚史
容器減量化プロジェクト

2 経営 坂口 礼
容器減量化プロジェクト

2 経営 小野 純平
容器減量化プロジェクト

2 経営 八田 由紀
容器減量化プロジェクト

3 経営 吉田佳那子
経営戦略としてのM&A

3 経営 芳之内史也
経営戦略としてのM&A

3 経済 田中 賢太
経営戦略としてのM&A

3 経済 廣田 洗平
経営戦略としてのM&A

3 理工 鳴滝 翔吾
機関投資家の運用のあるべき姿と人々の豊かな生活のために

3 経済 安原 学
機関投資家の運用のあるべき姿と人々の豊かな生活のために

3 経営 八木 悠介
機関投資家の運用のあるべき姿と人々の豊かな生活のために

3 経済 寺田真梨子
機関投資家の運用のあるべき姿と人々の豊かな生活のために

3 経済 小田 将大
機関投資家の運用のあるべき姿と人々の豊かな生活のために

3 経営 水木 大輔
機関投資家の運用のあるべき姿と人々の豊かな生活のために

3 理工 神庭 洋平
機関投資家の運用のあるべき姿と人々の豊かな生活のために

3 経済 佐藤 直人
日本における企業の社会的責任と社会的責任投資のあり方

3 経営 高須 映至
日本における企業の社会的責任と社会的責任投資のあり方

3 経営 田中奈々穂
日本における企業の社会的責任と社会的責任投資のあり方

3 経済 山口 剛久
日本における企業の社会的責任と社会的責任投資のあり方

3 経済 福良 剛司
日本における企業の社会的責任と社会的責任投資のあり方

3 経済 藤沼 拓史
日本における企業の社会的責任と社会的責任投資のあり方

3 経済 鈴木 勝也
日本における企業の社会的責任と社会的責任投資のあり方

3 経済 大南真一郎
日本における企業の社会的責任と社会的責任投資のあり方

3 経済 荒川内悠太
日本における企業の社会的責任と社会的責任投資のあり方

3 経済 西機 友也
環境配慮行動の要因分析

3 経済 加藤 和裕
環境配慮行動の要因分析

3 経済 永田 太
環境配慮行動の要因分析

3 経営 河野 脩
現代日本における消費文化の研究

3 経営 加藤 マリ
現代日本における消費文化の研究

3 経営 白井 涉湖
現代日本における消費文化の研究

3 経営 折原進太郎
現代日本における消費文化の研究

3 経営 生藤 里沙
現代日本における消費文化の研究

3 経営 行岡 大佑
現代日本における消費文化の研究

3 経営 西野 正章
現代日本における消費文化の研究

3	経営	乾 佐知子	立命館大学と明治学院大学のヴィジュアル・アイデンティティの考察〜大学における理想のデザイン戦略〜
3	経営	芦高 紘至	現代日本における消費文化の研究
3	経営	服部 雄太	
3	経営	森田 浩行	
3	経営	齊藤有梨子	
3	経済	吉居 裕美	
3	経済	高橋 里弥	
3	経済	高野 安代	
3	経済	高野 俊亮	
3	経済	末松 亜希	
3	経済	城内美貴子	
3	経済	釘宮 里枝	
3	経済	金子真梨子	
3	経済	井手 涼子	
4	経営	鈴木 晴之	食器洗剤市場のリーダーは誰か〜ライオンはなぜ転落し、花王はなぜとどまったのか〜
4	経済	樋口亜由美	コンジョイント分析による水産エコラベルの経済評価〜MSC認証制度を事例として〜
4	経済	小川 敬史	環境税とエネルギー需要の価格弾力性
4	経営	米山 充規	MSCOを利用した効果的なマーケティング及びマネジメント〜暗黙知と形式知の相互変換の活用〜
4	経済	増井 友香	
3	経営	大久保 悠	小学生を対象にしたスポーツイベントの実施報告
2	経済	比嘉麻衣子	
2	経済	吉村 栄里	
3	経営	本田 纈司	
3	経営	白石 琴美	自動車多国籍産業から見る二極化市場への対応
3	経営	富樫 優香	
3	経営	松本 麻里	
3	経済	三木慎太郎	
3	経営	乃村 紘平	米原市観光活性化プロジェクト
3	経営	松本 麻里	

4	経済	山田 敬太	フォースプレートを用いた跳躍動作のバイオメカニクスの考察〜地面反力から見るドロップジャンプのパフォーマンス評価〜
4	経済	今津 貴雄	観光開発とこれからの観光
4	経営	宇佐美友基	滋賀陸上競技協会登録クラブチームの調査から考察するアマチュアスポーツ現状と課題について
4	経営	大神 陽佳	大学生を主役とした京都観光の考察
4	経営	大林 千絵	ビジュアルマーチャンダイジング（VMD）を活用した「まちづくり」
●教育賞			
2	理工	道上 啓亮	難関度の高いCAD利用技術者試験（機械部門）一級合格
3	文	四宮 知子	留学先（アメリカン大学）で、成績優秀者に与えられる名誉賞の取得。TOEIC 990点。フランス語検定3級取得。
1	政策	矢島 優子	第4回京都学生人間力大賞（環境ものづくりラボの代表として出場）にて、奨励賞を受賞。京都府美山と滋賀県を対象として、里山の荒廃に関する研究活動を実施。第3回政策系大学・大学院交流大会や、第5回大学生環境活動コンテストでの発表を通し、広く社会に還元できるよう努めた。
1	政策	古賀菜友美	
1	政策	袴田 恵石	
1	政策	柳瀬 顕	
2	政策	乾 優里	
3	政策	可知健太郎	
3	政策	岡田 道明	
3	政策	田村 将人	
3	政策	服部 和希	
1	理工	今井 政廣	身近なものを使用して科学実験をサイエンスショーや体験教室などの形式で行う「公開実験」を主とした活動としているライフサイエンス研究会が、対象年齢を中学生にした高度な内容の実験の開発に取り組んだ。特に貢献度が高かった実験は「ペンホルカメラ作り」（小学6年生対象）、「イヤホン作り」（中学3年生対象）で、奈良育英西中学・高等学校の入試説明会での公開実験で行った。
1	理工	中崎 亮介	
1	理工	松下 智治	
1	理工	松田 太志	
1	理工	森 勇輝	
1	理工	森 彩葉	
1	理工	安田 修平	
1	理工	山本 有香	

全学 梓

1	理工	吉田 憲悟	身近なものを使用して科学実験をサイエンスショーや体験教室などの形式で行う「公開実験」を主とした活動としているライフサイエンス研究会が、対象年齢を中学生にした高度な内容の実験の開発に取り組んだ。特に貢献度が高かった実験は「ペンホルカメラ作り」（小学6年生対象）、「イヤホン作り」（中学3年生対象）で、奈良育英西中学・高等学校の入試説明会での公開実験で行った。
2	理工	山置 佑大	
2	理工	伊賀真由美	
2	理工	大津 裕亮	
2	理工	小川 麗香	
2	理工	谷岡 芳史	
2	理工	長尾明日香	
2	理工	藤本 寛子	
2	理工	扶蘇 雄大	
2	経営	松谷 彩加	
3	情理	中嶋 純也	
3	情理	小谷伸太郎	
3	理工	三瀧 雅俊	
4	理工	荒川 高範	
4	理工	金子 智史	
4	理工	木下 宗	
4	理工	堀川 太志	



CAMPUS LANDSCAPE



新年度がスタートし、キャンパスは多くの学生たちで活気づいています。

入学式での新生の緊張した面持ち、そんな新生を新歓祭典であたたかく迎える先輩学生、
日々勉学やクラブ活動にいそむ学生…

春から初夏にかけてのキャンパスと学生たちの様子をご覧ください。

2008
入学式

オープン
キャンパス



新歓祭典





衣笠
キャンパス
にて



びわこ・くさつ
キャンパス
にて



授業風景



法 学 部

現代社会を主体的に切り拓く法のスペシャリストを育てる。

社会が高度化し、社会関係が複雑化する現代。私たちの生活のなかで法や裁判の果たす役割が増してきています。法学は、紛争を予防・解決し、正義と公正を実現するための実践的学問として、今後ますます重視されていきます。法学部では、現代社会の諸問題に鋭く切り込む「6つの専門化プログラム」、明確な目標を持った学生の進路実現にむけてサポートする「3つの特修課程」を設けています。法学部での学びを通じて、論理的思考力を養い、現代社会のさまざまな問題に対処し、社会を切り拓くための力を身につけてください。

現代的テーマに応える6つの専門化プログラム、進路・目的に応える3つの特修課程。

2回生後期からはじまる
6つの専門化プログラム。
2回生後期に6つのプログラムから
関心のある分野を選択。

ビジネス・金融法務プログラム

民間企業において必要な法律の知識を修得し、ビジネスシーンで活かせる法の実践力を養います。

環境・生活法プログラム

日常の市民生活における、環境や家族をめぐる法的問題に対処する力を身につけます。

法と人権プログラム

国家・行政機関と国民との間の法的問題について考察し、この分野の法の専門知識を修得します。

法文化プログラム

現代社会の法的課題について、歴史的・理論的観点からアプローチし、法律の専門知識を養います。

マスコミ・市民活動プログラム

国民・市民として「公益」を追求する観点から、政治行政の仕組みや法についての専門知識を学びます。

政治と社会プログラム

国家や政治の活動と権力の機構を、歴史的・理論的に理解し、政治学の観点から学びます。

民間企業

大学院

法学研究科

法科大学院
(ロースクール/
法務研究科)

公共政策大学院
(公務研究科)

法学部
法学科

1回生

基礎演習

法学ライティング

2回生

プログラム演習

3回生

3回生演習

4回生

4回生卒業研究・論文

1回生から専門を学べる、3つの特修課程。

学習・進路目標が明確な学生は、入学時から3つの特修課程に分かれて専門分野を学習。

司法特修課程

法曹(裁判官・検察官・弁護士)や司法書士をめざす学生を対象とした特修課程。高度な専門領域を早期から集中的に学び、法科大学院進学レベルの力を養います。

公務行政特修課程

国家公務員・地方公務員をめざす学生が対象です。社会に生起する多様な課題に対応する法律の知識と政策立案能力を修得します。

国際法務特修課程

(国際インスティテュート・国際法務プログラム)

国際企業の法務担当、企業の国際部、外交官、各種国際機関のスタッフなど、法知識と国際感覚に富み、世界で活躍できる法の専門家を育てます。

法学部の学びを CLOSE UP !

現役の弁護士から指導を受け、模擬裁判で法律の現場を体験。

● 法曹フィールドワーク演習

法曹(裁判官・検察官・弁護士)をめざす学生を対象とした少人数制の演習科目です。受講生は、裁判官や弁護士、証人などの役に分かれて模擬裁判を体験。現役弁護士の指導を受けながら、結審までのプロセスを体験し、訴訟実務の基本を理解します。成績優秀な学生は、法律事務所での実習に参加可能。机上の学問になりがちな法律を体験的に学べる、立命館大学法学部ならではのプログラムです。



TOPICS

公開模擬裁判をおこないました

法学部では、2回生を対象に実際の裁判手続きを体験する「訴訟実務入門」(2009年度から「法曹フィールドワーク演習」に名称変更)という科目があります。この科目は、立命館大学OBの現役弁護士を講師にむかえ、受講生が裁判官、検察官、弁護士などの役割を担当して訴訟実務の基本や裁判制度の社会的な意義を理解するとともに、最終的に模擬裁判(民事・刑事)を行うことを目的としています。将来、法曹や司法書士などの法律専門職を志望する学生に非常に人気の科目です。

去る7月8日(火)に、今年度の受講生が公開模擬裁判にのぞみました。前日の夜遅くまで、裁判で争点になりそうな疑問点や矛盾点について、それぞれの役割ごとにグループで話し合い、悔いのないようにと一生懸命に準備をしていました。

当日は受講生の他に、来年度の受講を希望する1回生や、受講生の晴れの舞台を見に来た友人で、末川記念会館の陪臣法廷が満席になりました。張り詰めた空気の中で、着慣れないスーツで緊張しながら演じる弁護士役、初めて着る法服に興奮を隠せない裁判官役、4人の弁護士にアドバイスを受けながら、これまでの授業の成果を全力で発揮しました。

模擬裁判は昼の1時からおこなわれましたが、白熱した攻防は夜にまで及び、ようやく判決が出たのは7時でした。6時間にわたる授業でしたが、役割を演じきった受講生は皆満足感と達成感で興奮が冷めない様子で、そのあとも感想や意見を述べ合っていました。

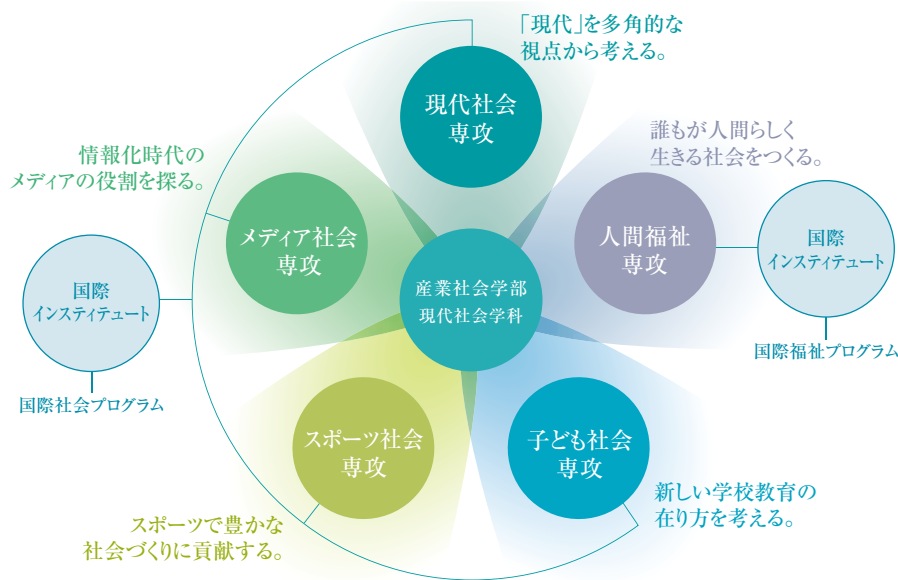
また、「訴訟実務入門」を受講した60人の学生の中で、25人がこの夏休みに弁護士事務所に実習に行く「法務実習」に参加の予定です。

産業社会学部

アクティブな学びで現代の社会を解き明かす。

産業社会学部の学びの対象は、現代社会そのもの。そのため、実社会の現場に身を置いて学ぶアクティブ・ラーニングを重視しています。さらに5専攻制で専門テーマに深くアプローチできるとともに、他の専攻も学べる柔軟なカリキュラムにより、複雑化する社会を捉えるための多角的な視点も養成。高い専門性と、実社会に不可欠な実践力・総合力を身につけます。

高い専門性と多角的な視野を養う5専攻。



産業社会学部の学びを CLOSE UP !

現場での農業体験や住民の声に触れ地域の再生・活性化をめざす。

● 京北プロジェクト

頭で考え、心で感じ、足で調べる—産業社会学部ではフィールドワークが充実しています。そのひとつが、京北プロジェクト。京都市の京北地域で実際に農業体験を行い、山間地における農業の在り方を考えるほか、森林再生や歴史古道の整備など、地域資源の再生を通じた地域活性化に取り組みます。地域の声や実際の体験から新たな刺激を受け、今までと違う観点や発想を獲得するのがこの学びの醍醐味。現場から社会を編み上げる〈社会形成〉の力を磨きます。



TOPICS

さんしゃスポーツフェスタ「すぼるた」開催 産業社会学部は、学生たちが元気です！

6月7日、西京極総合運動公園体育館にて、第1回さんしゃスポーツフェスタ「すぼるた」が開催されました。主催は産業社会学部自治会スポリッツ団。スポーツを通して産社の学生の交流を深めようと、今年立ち上がった新しい団体です。バレーボールとドッチボールの2種目に32チーム500人が参加。初めての大きなスポーツイベントにもかかわらず、最後まで大いに盛り上がりしました。

このほか、初の公募実行委員による英語スピーチコンテストが7月1日に、子どもたちと一緒に平和の絵をつくる「さんしゃゲルニカ」が6月22日に、初の学部版学園祭「Paradise Party Project」が7月3日に各々開催されるなど、様々な産社学生の手によるイベントが実施されました。



プロジェクト活動も活発に アクティブで实际的な「学び」が進行中！

産業社会学部では、アクティブに学ぶスタイルを特色の一つとしています。上述の京北プロジェクトの一環として、7月10日には「納豆の日」にちなんで「京北納豆フェスタ」を開催しました。

また同日、以学館2号ホールでは、映画監督・是枝裕和氏、ビデオジャーナリスト・神保哲生氏、京都シネマ代表・神谷雅子氏（3氏とも産業社会学部教員）をパネリストに、シンポジウム「演出・やらせ・真実をめぐる〜デジタル時代の映像社会学ガイド」を開催。450席の会場はほぼ満席の大盛況でした。

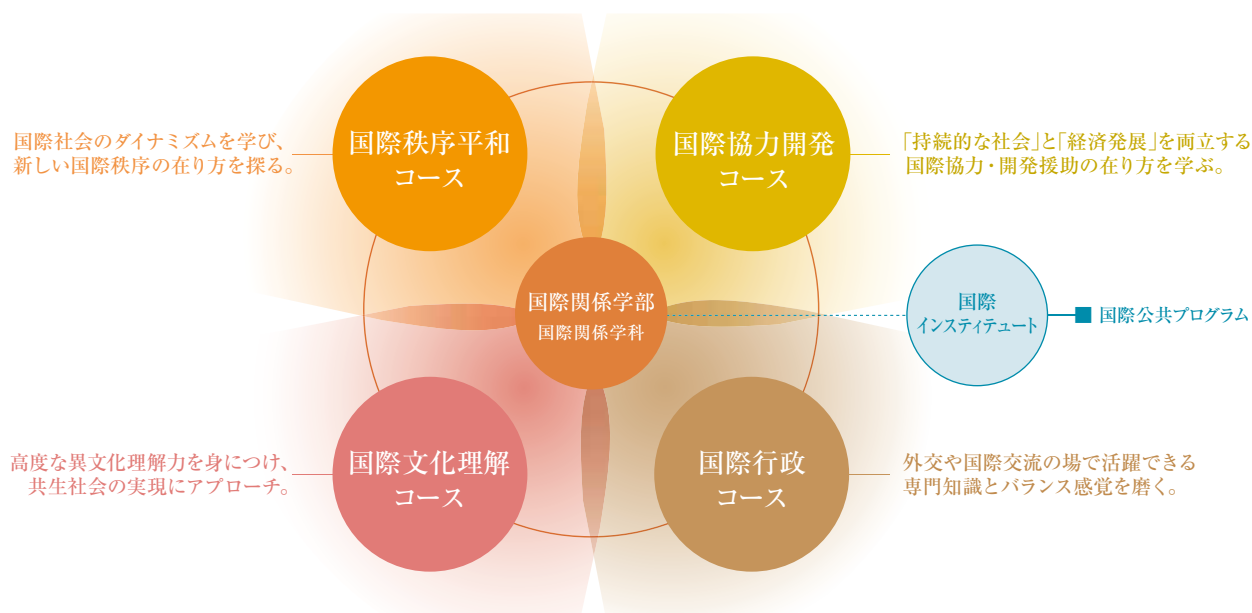
さらにこの日は、身近な「恋愛」をキーワードに、若者のコミュニケーションの問題に取り組む「恋愛ismプロジェクト」による「恋愛カフェ」も開催されるなど、学生・院生と教職員や様々なつながりの人々とのコラボレーションで、産業社会学部ではアクティブ・ラーニング進行中です！

国際関係学部

国境を超えるグローバルリーダーへ。

国境を越えた交流が盛んになる一方、民族の対立や紛争が続く現代。国際関係学部では、こうした問題を解決に導く、次世代のリーダーを育成。国際社会の課題に対応した4コースと充実した英語教育で、実践力と未来へのビジョンを身につけます。多くの卒業生が、外交、国際協力、国際ジャーナリズム、国際ビジネスの分野で活躍しています。

現代の国際問題に対応する4つのコース。



国際関係学部は国際関係学を教育・研究し、国際関係への深い知見と国際社会における行動力を有する人材を養成することを目的とします。

国際関係学部の学びを CLOSE UP !

各国首脳や国連事務総長になり、国際問題の解決に挑戦。

● グローバル・シミュレーション・ゲーミング(GSG)

国際的な外交舞台を疑似体験するプログラム。学生一人ひとりが国連事務総長や米国大統領、世界銀行総裁、難民NGO代表などを演じ、実際の国際政治・経済をシミュレーション。国際関係学への問題意識を深め、理想と現実、国益と人類の利益の狭間で葛藤しながら外交政策の本質を学び、交渉スキルやバランス感覚を養います。GSGをはじめ、国際関係学部では、国際舞台を体験できる実践教育を展開しています。



TOPICS

進路支援企画「がんばれ!未来の自分!」開催!

国連等の国際機関で働くためには修士号の取得が必須であるため、国際関係学部には卒業後の進路として大学院進学が就職かで迷う多くの学生がいます。こうした学生の支援を行うため、学部内の2つの学生団体(プレスメントリーダー、国際関係学会学生委員会)を中心として標記の企画が2008年7月4日に実施されました。具体的には、社会人大学院生である本学部卒業生、考えた末に大学院進学を選択した本学国際関係研究科生、そして就職を選択した本学部4回生をパネリストとして、なぜそのような選択をしたかを中心に語っていただきました。

夕刻遅くからの実施にもかかわらず、60名もの参加があり、「素晴らしい先輩方から貴重なお話をいただけてとてもためになった。」「これからの学生生活をどのように過ごしていけばいいのかの手がかりをつかめた。」との感想が多く寄せられました。



国際関係・交流パーティー ☆～☆IR-Night☆～☆ 開催!

留学プログラムに参加する学生も年々増えており、異文化に対する学生の関心は非常に高まっているといえます。現在、国際関係学部および国際関係研究科には、合わせて約140名の外国人留学生在が学んでいます。今年入学した学部の留学生は32名で、1回生の1割を超えました。学部内にあるこのような環境を活用していくためにも、日常的な交流のきっかけを作りたいと考え、交流パーティー「IR-Night」を開催。2008年7月11日(金)の夕方、諒友館の地下食堂にて、学生、院生、教職員180名が集結し、食事を取りながら、歌、DJ、ダンス、ゲームを楽しみました。

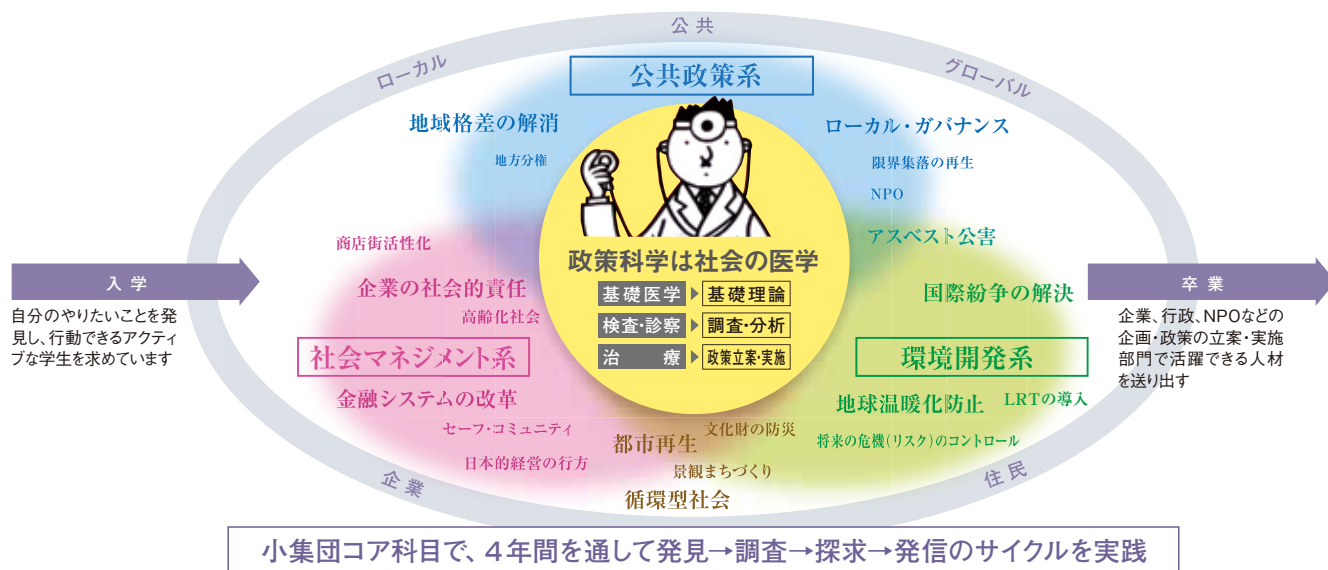


政策科学部

社会にあふれる問題、その解決策を考え、実践する。

政策科学とは、現実に行き詰っている問題の解決方法＝政策を考え、それを実践する学問です。国際的な環境問題から、地域の都市問題、民間の企業経営、公共の行政組織まで、あらゆる分野の問題を対象にしています。政治、法律、経済、経営、情報などを総合的に学びとともに、フィールドワークなど現場重視の学びを通して、政策立案力・実践力を身につけます。

公共政策、環境開発、社会マネジメント、現代の課題を見つめる3つの視点。



政策科学部の学びを CLOSE UP !

立案した政策を競い合う、研究の集大成の場

● アカデミック・フェスタ

アカデミック・フェスタは、年に1度開催される、各回生別の研究発表会。1週間程度をかけて、1回生は基礎演習の研究計画書、2回生は研究入門フォーラムの研究結果、3・4回生はゼミナールの研究成果を競い合います。立案した政策を競い合うだけでなく、政策を実現に導く説得力のあるプレゼンテーション力、グループワークによるチームワークも試される、まさに政策科学部の学びが凝縮されたイベントです。

報告テーマ

- 貧困緩和に向けた人間開発政策の評価指標に関する基礎的研究
- 京都市北西部における自転車観光ルート検索システムに関する研究
- 農山村における一般廃棄物の現状と課題 ―長野県阿智村を事例に―



TOPICS

政策実践の現場で学び、成果を発信する学生たち

政策科学とは、いま現実に行き詰っている社会問題に対して、どんな解決方法があるかを提示する「問題対応・現場主義」の学問です。政策科学部は、現在世界に広がる深刻な社会問題に教育・研究の面から取り組んでいます。近年では、文部科学省「魅力ある大学院教育イニシアティブ」(大学院GP)による「ローカル・ガバナンスの政策実践研究」、日本学術振興会「科学研究補助金」による「アスベスト災害・公害の政策科学」などを推進し、学部・大学院教育へも積極的に取り入れています。とくに現在政策科学部では「オンライン・プログラム」を柱にした教学改革を進めており、学生たちが地域や自治体の現場に入り込んで「参与観察」を行うことによって、現実から政策を考える重要性和面白さを学ぶ機会をつくっています。海外での研究プロジェクトも充実させており、毎年度多くの学生が世界の政策

実践の現場で問題解決へ向けた研究を行っています。

政策科学部での学びの成果は、学生自らが様々な発表機会を通じて学内外へ発信しています。学内では、毎年12月に「アカデミック・フェスタ」を開催し、1回生から4回生までの研究の中から優れたものの発表を通じて互いに学び合うための研究イベントを行っています。学外でも、毎年12月に実施される京都の政策系大学・大学院研究交流大会「京都から発信する都市政策」(大学コンソーシアム京都主催)で多くの学生が研究成果の発表を行い、数多くの賞を受けています。

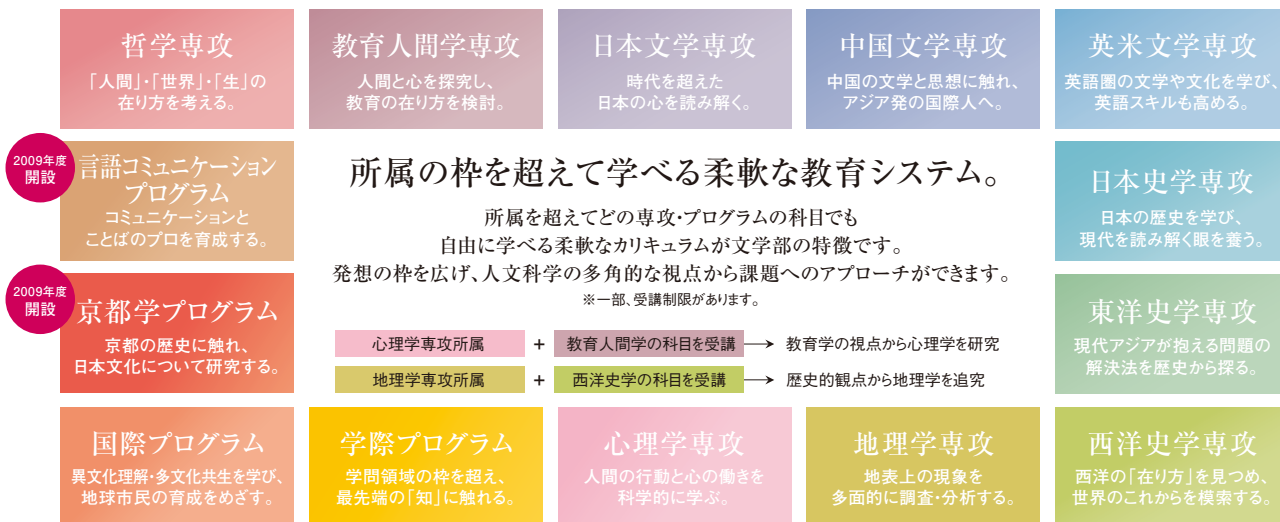
また、政策科学部では2007年度から教学のためのコミュニケーション・ツールとして「政策科学部SNS(ソーシャル・ネットワーキング・サービス)」を運用し、学生同士や教員と学生との間の多様なコミュニケーションを可能にし、日常的な教学改善システムとして積極的に活用されています。

文 学 部

文化を探り、人間を考える。 「本質」とは何か、その普遍的テーマに立ち向かう。

「人間」とは何か。時代を超えて共通する、この根源的なテーマを探究するのが人文科学です。複雑化する社会に対応し、文学部では、多面的で総合的な人間理解をめざした多数の科目を設定。専門を深めるとともに、分野や領域を超えて学び取り組みや、実践力や国際性を養成する副専攻も設け、それぞれの視点と方法によって「人間」と「文化」に深くアプローチしていきます。

人間の営みを見つめ、思考を学び、本質を問う、10専攻4プログラム。



文学部の学びを CLOSE UP !

人文科学の分野を自由に横断。ひとつのテーマを複数の視点から問う。

● テーマリサーチ型ゼミナール

現代社会のさまざまなテーマについて、人文科学の分野・領域を自由に横断しながら研究するゼミナールです。例えば、京都西北地域のガイドブックを作成するゼミでは、数々の専攻・プログラムの学生が集まり、歴史や文化、地理学などの複数の視点から京都を考察。実際に現場へも足を運び、テーマに深く切り込んでいきます。またテーマリサーチ型ゼミナールで取り上げるテーマは毎年変わります。このように文学部なら自由な発想で研究に取り組めるのです。



TOPICS

京都のこころ × ことばのチカラ 2009年4月、文学部に2つの新しいプログラムが誕生

文学部は、80年にわたる歴史の中で、人文科学の多様な専門領域に共通する「人間の最も本質的な部分を見つめる」という精神を堅持しつつ、一方で新しい時代に即応した学問領域を創出してきました。そして2009年4月より、人文総合科学インスティテュート「総合プログラム」を再編し、「京都学プログラム」、「言語コミュニケーションプログラム」（入学定員各60名）を新設することとしました。

この再編は、文学部が進めてきた人文科学の学際化・総合化を目指した学部改革や、文部科学省からグローバルCOEプログラムや教員養成推進プログラム、現代的教育ニーズ取組支援プログラムに選定され、展開してきた教育実践の成果にたって実施するものです。

京都学プログラムでは、日本の文学・歴史・文化を育み、今なおそれらが息づく京都において、その本質を過去・現在・未来にわたり、人文科学の最先端の手法により多角的に学びます。そして、その学習の成果を地域社会に還元することや、マルチメディアを活用して新たな文化の創成や世界へ

の発信をめざします。

言語コミュニケーションプログラムでは、音声表現、文章創作を中心に「ことば」とコミュニケーションを実践的に学び、現代社会のあらゆる場面で必要なコミュニケーション能力を養います。また国際化が日常生活に浸透した現代社会で必要とされる、日本語話者以外への、日本語教育や英語教育を実践する高度な力を身につけます。

このような新しい時代に即したプログラムの再編を通じて、新たな京都学構築の構築、日本文化の世界への発信や、ことばとコミュニケーションに関する学際的研究を進め、社会に貢献しうる人材の育成を目指しています。

また文学部では、これまでの研究成果の社会還元として、昨年度より東京キャンパスで開講した「京都文化講座」を、今秋11月より大阪オフィスでも開講します。

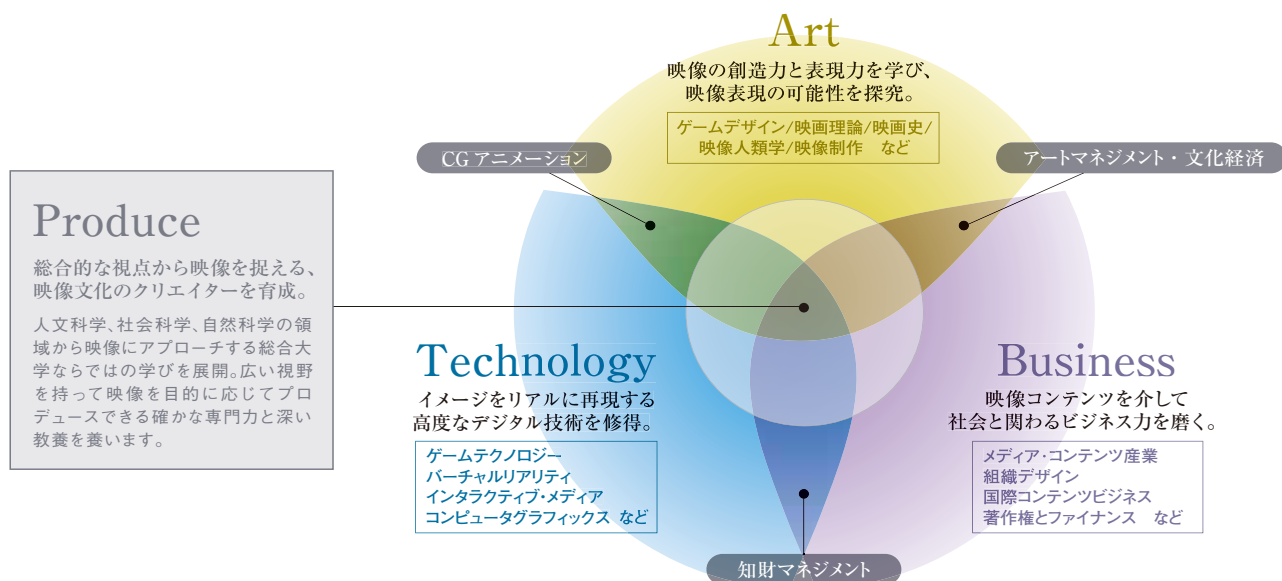
教育システムの改革、社会発信、そして文学部校友会の設立など、教育の充実とその成果の社会還元、文学部出身者のネットワークの形成を通じて、学生をより豊かに育む取り組みを進めています。

映像学部

日本初の映像学部、次代の映像文化をプロデュースする。

先進の技術を駆使して、芸術性の高い映像を生み出し、それをビジネスとして世に出す手段を考える—映像学部は、映像を総合的な視野でプロデュースできる人材の育成が目標です。総合大学ならではの文理融合型カリキュラムを展開し、「アート」「ビジネス」「テクノロジー」の側面から総合的に映像を探究。実践的な学びで、次代の映像文化を生み出す力を養います。

アート・ビジネス・テクノロジー、3領域から総合的に映像を探究。



映像学部の学びを CLOSE UP !

授業で映画上映会を企画し、「社会に映像をどう伝えるか」を学ぶ。

● プロデュース実習

社会における映像の役割を理解し、社会に映像をどう伝えるかを実践形式で学ぶ授業です。「映画」と「ゲーム」をテーマに、前期セメスターでは、映画上映の企画を行います。集客や時代性を考慮した上映映画の選択から、運営するための予算案、広報活動までを学生自らが考えて企画書を作成。映像作品と観客をつなぐ役割を実際に体験します。優秀な企画は京都の映画館で上映し、一般の観客にも公開します。



TOPICS

専門科目に勤しむ学生たち

2007年度に開設した映像学部には1・2回生が在学していますが、2回生に対して本格的な専門科目が開始されつつあります。

例えば、実習科目である「映像制作実習」では、8名前後の班に分かれ、初めての作品作りに取り組んでおり、キャンパスのあちこちでカメラと照明、マイクを構えた学生が、真剣な眼差しで撮影を行っています。制作する作品の長さは3分と短いのですが、たったひとつのシーンを撮るために、どれほど多くの準備をしなくてはならないのか、また、イメージ通りの映像を撮るということ、「よい画(=よい映像)」を撮るということがいかに難しいのか、それらを学生は肌身で感じているようです。



客員教授の山田洋次監督の授業、通称「山田塾」では、最終的に山田監督監修の映画作品を作り上げることを目標としています。大映通り商店街(右京区)の方々の協力を得て、シナリオ作りのための調査活動が始まっています。商店街の方々へのインタビューを通じて、ストーリーを膨らませ、生き生きとした作品にすべく学生は頑張っていますが、山田監督の厳しい指摘を受けることもたびたびだそうです。生半可な考えでは許されない、そんな緊張感が山田監督の授業にはあります。

「映像作品研究」では、「映像」を多面的に捉え直すために、映画のみならず、ゲーム、演劇、ドキュメンタリーなど、様々な映像にかかわる作品を鑑賞し、教員と受講生、あるいは受講生同士がディスカッションを行っています。この授業は6時限目に置かれた授業ですが、ディスカッションに熱が入り、授業終了後も続けて意見交換する姿が見られます。まさしく教員と受講生がその場で創り上げていく、躍動感にあふれた授業になっています。

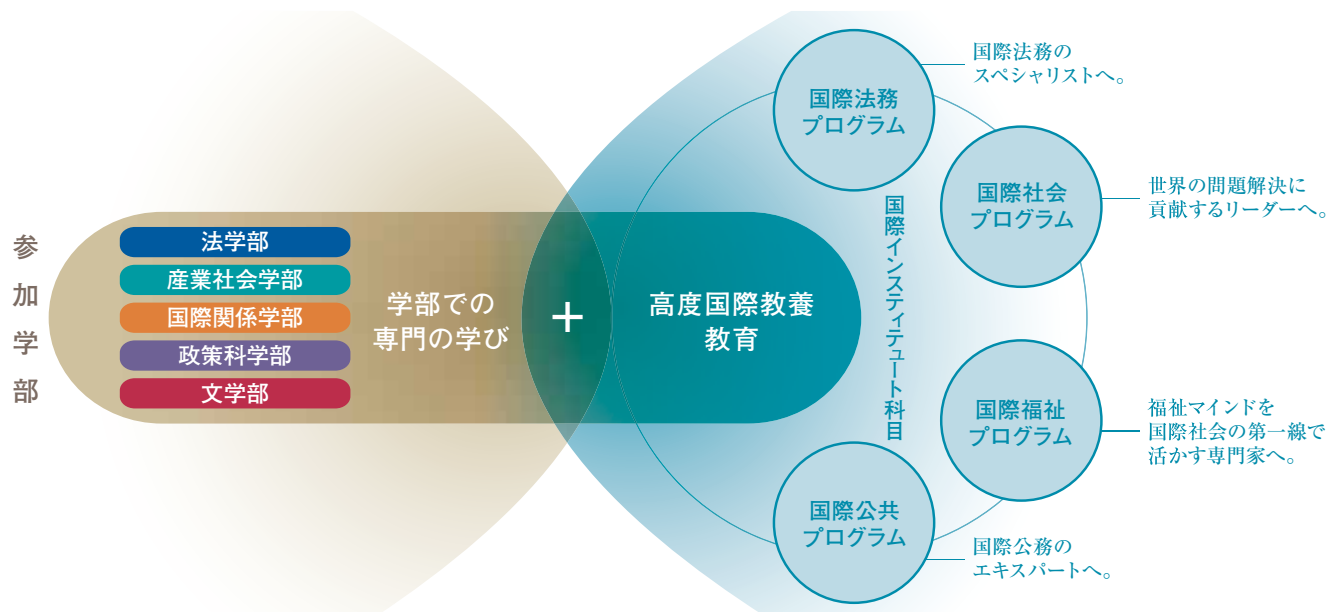
来年度以降、さらに専門的な授業が開講される予定ですが、上記のような学生の積極的な姿を見ると、来年度がますます楽しみです。

国際インスティテュート

グローバルに活躍するプロフェッショナルへ、 専門性と国際性を育むプログラムが進化する。

国際インスティテュートとは、所属する学部での専門の学びに加えて、高度で実践的な外国語能力と国際感覚を磨くことができるプログラムです。さらに英語による専門科目を世界各国の留学生と一緒に受講し、海外留学へ参加できるアドバンストプログラム「JWP」を設置しています。国際社会で活躍できる、グローバルなプロフェッショナルを育てています。

「学部の専門性」と「国際教養」2つの専門性を身につける、新しい国際教育を展開します。



国際インスティテュートの学びを CLOSE UP !

ニューヨーク・国際連合本部で学ぶ、国際公務の現場。

● 海外スタディ（フィールドワーク・国連訪問）

春休みの2週間にニューヨークの国際連合本部を訪問し、国際政治の第一線で働く国連職員から、国連の活動および世界情勢について講義を受けます。事前講義で学習した内容をもとに、職員に直接質問する機会もあります。教員が同行し、1回生から参加することができます。国連訪問以外にも、国際インスティテュートでは、多様な海外スタディを設けています。



TOPICS

国際インスティテュートで学んだ経験をいかして、希望の企業に内定した学生を紹介します。

日本電気株式会社(NEC)内定

角山 美幸 さん

法学部 国際インスティテュート 4回生

これまで世界の貧困問題に関心があり、国際インスティテュート科目でそれらを学ぶと共に、英語で授業が行われるJWP科目で専門的な知識と英語能力を同時に高めてきました。JWP交換留学生として、イリノイ・カレッジ（アメリカ）への留学も経験しました。留学先で得られた知識や経験もあり、日本のものづくりの基盤であるメーカーでの仕事に関心を持ちました。就職後は内定先の企業で法務分野のプロフェッショナルを目指します。



株式会社産業経済新聞社(産経新聞)内定

岡野 祐己 さん

政策科学部 国際インスティテュート 4回生

国際インスティテュートのインターンシップとして、タイにある読売新聞バンコク支局での研修を経験しました。普段読んでいた新聞がどのように制作されているのかを知ったことで、新聞記者を目指したいという将来の志望が固まりました。就職後は、国際インスティテュートで世界各国の留学生と共に学んだことで多彩な価値観と出会えた経験も活かそうです。

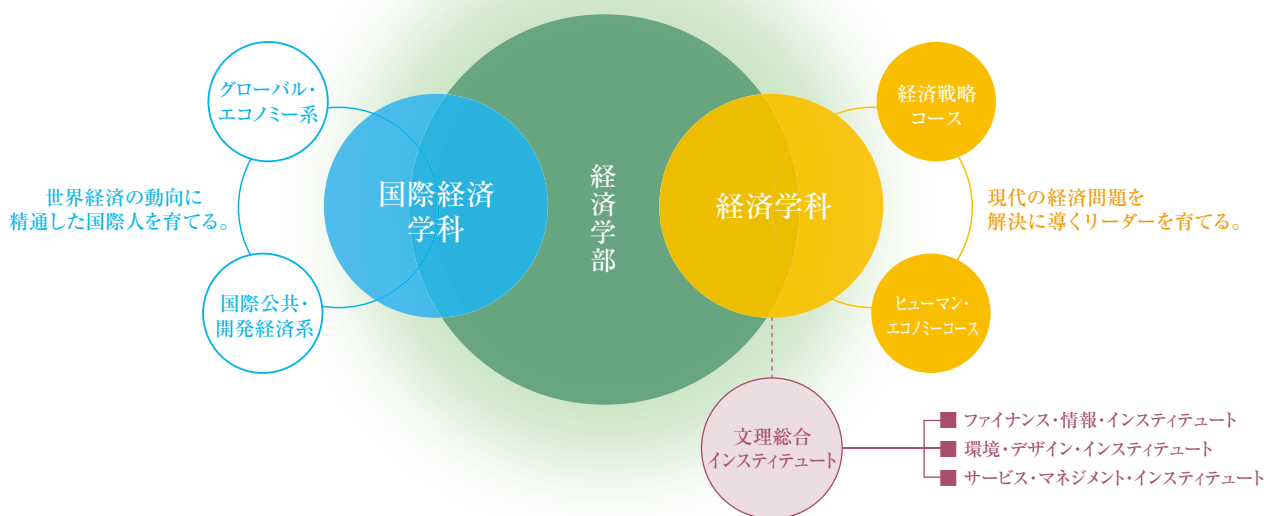


経済学部

世界で起こる経済問題を分析し、解決する力を養う。

経済学部では、グローバルスタンダードの経済学の知識を身につけた、国際社会で通用する人材を育てるため、きめ細かなカリキュラムを編成しています。経済学と外国語の一定水準以上の力を形成するため、小集団クラスによる段階的履修システムを導入。また、成績優秀な学生の能力をさらに伸ばす「オナズプログラム」を開設しているほか、高度な外国語教育の推進にも力を入れています。

世界標準の経済学を学び、世界で活躍できる実践力を磨く2学科。



経済学部の学びを CLOSE UP !

日頃の研究成果を競う経済学部最大のイベント。

●ゼミナール大会

ゼミナール大会は、毎年12月に開催される経済学部最大のイベント。個人やグループ、回生も関係なく、経済学部の学生が日頃の研究成果を発表するコンテストです。2007年度は、国際的な企業の提携・買収、貿易摩擦などから興味のあるテーマを選び、その問題点と解決策について英語によるプレゼンテーションとディスカッションも行われました。このように経済学部では、イベントを通して経済学を学びながら、社会で役立つ問題発見力や課題解決力、プレゼンテーション能力とあわせて外国語運用能力も鍛えることができるのです。



■ TOPICS

経済学部独自の「海外教育プログラム」

経済学部では、毎年夏休みや春休みを利用して、経済学部独自の「海外教育プログラム」を実施しています。海外教育プログラムには、経済学や海外経済事情を学ぶ「海外アカデミックプログラム」と、学んだ経済学の知識を応用して調査・研究を行う「海外フィールドワークプログラム」の2種類があります。今夏は、海外アカデミックプログラムはオーストラリアのサンシャインコースト大学と中国の大連外語学院で2つのプログラムを、海外フィールドワークプログラムはタイのタイ国立開発行政研究院 (NIDA) の協力によるプログラムと中国の東北財経



大学を拠点とする2つのプログラムを実施します。

今夏に実施する海外教育プログラムには、総計63名の学生が参加し、自らの研究テーマを深めながら現地の社会状況や文化に触れる異文化体験を通して海外事情に精通するとともに、外国語運用能力にも磨きをかける予定です。現在、参加する学生たちは、約3ヵ月に亘る事前研修に参加し、現地事情などを調査・学習し、それぞれのプログラムの実施目的に合わせた準備を進めています。また、帰国後には、海外教育プログラムに参加した成果をレポートにまとめ上げたり、外国語の力がどれくらいついたのかを確認するためのテストを受けたりすることで、自らの力量向上を確認します。

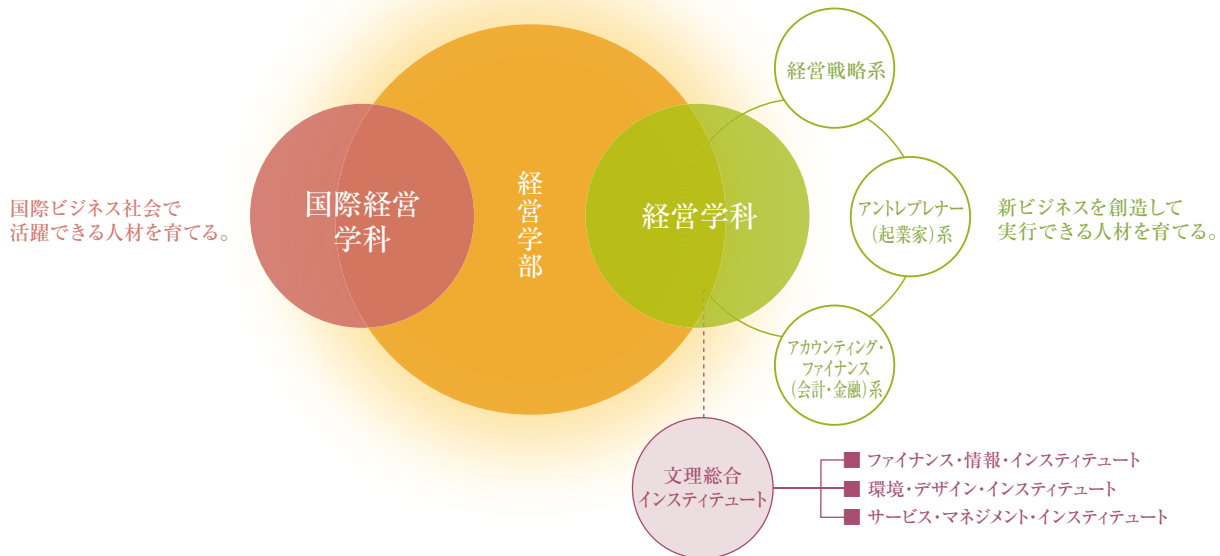
このように、経済学部生は夏期休暇も含めて充実した学生生活を送っておりますので、父母の皆様におかれましては今後ともご支援いただきますようお願いいたします。

経営学部

時代の流れを読み、新ビジネスを創造する力を育む。

私たちを取り巻く社会と経済環境が大きく変化している現代。それは、一方でビジネスのチャンスに満ちた時代でもあります。経営学部では、こうした変化に適応して「ビジネスを発見し、ビジネスを創造する」柔軟な発想力と行動力、さらに高度な国際感覚を育む実践型のカリキュラムを設定。グローバル化が進むビジネス社会で活躍できる人材の育成をめざします。

国際化するビジネスの最前線を学び、発想力と行動力を磨く2学科。



経営学部の学びを CLOSE UP !

1回生が全員参加し、プレゼンテーションを競い合うゼミナール大会!

● ゼミナール大会

ゼミナール大会とは、経営学部が誇る学術イベントで、自分たちの決めたテーマに沿って論文を作成し、その内容をグループ対抗でプレゼンテーションを行う研究発表討論大会で、毎年12月に開催しています。1回生は各基礎演習クラスにおいて夏休み前にグループ分けを行い、各グループで研究テーマを設定し、夏休みから調査・研究を始め、論文を作成します。2007年度の大会では「経営戦略」、「流通」、「広告」、「環境」等、多種多様なテーマが集まり、活発な研究内容のプレゼンテーションが行われました。また、ゼミナール大会で優秀な成績を収めたグループは経営学部長から表彰されることになっています。このゼミナール大会を通して、同じグループの仲間と学ぶ重要性、論文作成やプレゼンテーション方法を学び、大学で「研究」を実感する機会になっています。



TOPICS

Business Studies Abroad(BSA) 結団式举行

7月14日(月)、海外留学プログラム Business Studies Abroad(BSA)の結団式を行いました。97名の学生がこのプログラムによって、ニュージーランド(マッセイ大学)、アメリカ合衆国(ウエスタンミシガン大学)、中国(对外経済貿易大学・大連外国語学院)、ストックホルム(ビジネススクール)、イギリス(レディング大学)、フランス(ロベール・シューマン大学)等、各国へ出発します。本プログラムは、海外体験を通して国際ビジネスへの意識を高めるとともに、高度な外国語運用能力を磨くことを目的として実施しています。

経営学会学生委員会による学術講演会開催

また、学生たちによる積極的な活動として、経営学会学生委員会が企画する学術講演会が挙げられます。この講演会は、大学生活における「学術的なサポート」を目的に毎年企画しており、今年は7月10日(木)に株式会

社アサツー ディ・ケイより、資生堂ヘアケアブランド『TSUBAKI』のテレビCMプランナーを講師としてお招きし開催されました。約250名の学生が参加し、熱心に講演に聞き入っており、正課授業とは異なった視点から刺激を得る機会となったようです。

経営学会学生委員会は、立命館大学経営学部公認の学生団体で、授業だけでは学べない様々なことを学生に経験してもらうため、講演会や企業見学など数多くのプロジェクトを企画・運営しています。3回生から始まるゼミ選択の円滑化のために教授陣との交流を目的とした「ゼミ選択のための懇親会」を開催し、一方、経営学部の学生が自主設定したテーマに沿って論文を書き、それを基にグループ対抗でプレゼンテーションを競う「経営学部ゼミナール大会」の全体運営など、授業の正課カリキュラムの進行にも大きな役割を果たしています。

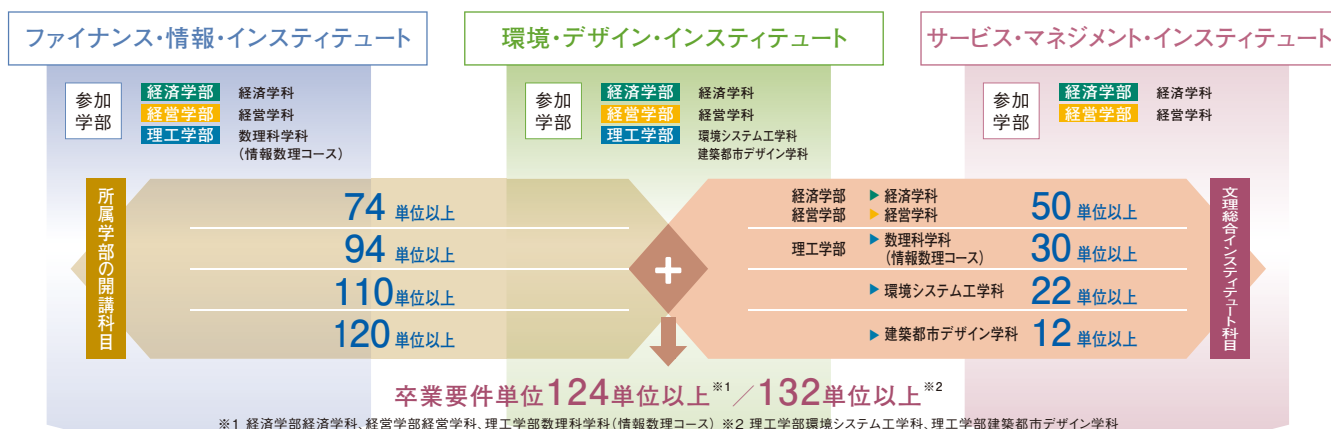
このように、経営学部では教職員と学生が一丸となって、全ての学生が快適な学生生活を送れるように多方面からサポートしています。

文理総合インスティテュート

文系・理系をクロスして学び、新しい発想で、現代的課題に応える知を磨く。

文理総合インスティテュートとは、経済・経営・理工の3学部が連携し、「ファイナンス・情報」「環境・デザイン」「サービス・マネジメント」の3つの領域を追究した、文系と理系を横断的に学ぶことができるプログラムです。経済・経営・理工のいずれかの学部にも所属し、その学部が参加しているインスティテュートにおいて所属する学部の専門分野を基礎として学びながら、実習・演習、フィールドワークなど少人数・双方向型の実践教育を重視し、文理総合の学びのなかで既存の学問分野では対応できない現代の問題に多面的な視点からアプローチし、解決できる力を養います。

専門分野にプラスして学ぶ、現代テーマに応える3インスティテュート。



資金の運用・投資・借入れといったファイナンスの諸問題について、世界経済や企業活動、法制度、政策、数理科学、情報学など、さまざまな視点から捉える手法を学びます。金融諸現象、ファイナンスに関わる経済活動、金融機関や企業のマネジメント、政府や国際通貨当局の金融政策など、広くファイナンスを経済学的視点・マネジメント的視点から解明することをめざします。また、「スチューデントサイバーディーリングルーム」などの最先端の設備を利用して学習できます。

進路イメージ

- 証券アナリスト、ファイナンシャルプランナー
- アクチュアリー(保険数理士)
- 金融機関、企業の財務部門 など

「地球環境問題」と「心の満足を得られる環境づくり」という、21世紀の2つの課題。その解決には、工学的知識のある経営者、社会経済問題を理解できる技術者が求められています。「環境・デザイン」とは狭義の環境に加えて、アメニティー、快適性、感性に領域を広げた「デザイン」や製品の計画・設計を含む意味であり、所属学部の専門知識に加え、これらを結び総合的な知識を、講義や実験・実習・演習を通じて学びます。

進路イメージ

- 環境コンサルタント、公務員
- メーカーの環境関連・商品企画部門
- 建築・建設・デザイン系企業 など

モノではなく、満足を提供する「サービス」。スポーツや観光といったサービスを、新たな発想でヒューマンウェルネスとは何かを理解するとともに、それを達成するためのサービス事業において、サービスの質的向上を追求することができるマネジメント能力を養います。「スポーツ・健康」、「レジャー・観光」、「医療・福祉」の3領域を中心に学び、サービスに関わる経済分析や経営管理、マーケティングなど企業経営の科学的な方法論を身につけます。

進路イメージ

- 旅行代理店、ホテル、テーマパーク
- スポーツ関連企業
- 福祉サービス企業 など

文理総合インスティテュートの学びを CLOSE UP !

社会が直面する諸問題現場に赴き、解決策を探る。

● フィールドワーク

今日の社会や企業で起こる課題の解決をめざす文理総合インスティテュート。そのため、単に理論を学ぶだけでなく、現代の「知」に触れながらの「学び」を展開する体験型かつ課題解決型の講義が充実しています。そのひとつが、フィールドワーク。地元滋賀県の商店街の街おこし提案、琵琶湖の水質調査、京都の町家調査など、実際の現場を知りその解決策を探ります。また、東証アローズ見学など、キャリア形成につながる取り組みも積極的に実施しています。



■ TOPICS

「琵琶湖で学ぶMOTTAINAI共生学」スタート

環境・デザイン・インスティテュートの環境教育プログラム「琵琶湖で学ぶMOTTAINAI共生学」が今年度よりスタートしました。このプログラムは平成19年度文部科学省現代的教育ニーズ取組支援プログラム(現代GP*)に「持続可能な社会につながる環境教育の推進」分野で選定されました。文理総合学習、琵琶湖で学ぶ、地域連携、国際的視野の養成を4つの柱とし、地域の環境問題解決のための政策提案や環境マネジメント事業の中心となって活躍できる人材の育成を目標としています。



ワンガリ・マータイ氏によって世界的な用語となった「MOTTAINAI」は環境保全において基本的で大切なマインドとして認識されており、環境教育の導入部において有効かつ重要な意義を持った概念です。しかし、「それは本当にMOTTAINAIのか? 誰にとってMOTTAINAIのか?」を判断するためには、自然法則の理解、物や貨幣の循環

や収支解析など多様な知識と考察力が必要となることから、このプログラムでの学習を通じ、「MOTTAINAI」の真の理解を目指します。

2008年度以降入学の学生をプログラムへの参加対象とし、カリキュラムとしては新規に開講する「琵琶湖環境学入門」「MOTTAINAI共生学入門」の単位取得に加え、社系14科目、理系15科目の専門科目群から一定数の科目を単位取得し、国内インターンシップ、海外スタディプログラムや立命館アジア太平洋大学(APU)との共同企画などの国際プログラムへ参加した学生に対しプログラム修了証を授与します。

今年度は5月にエコデザインの専門家である東京造形大学の益田文和教授を招いての講演会、6月に近江八幡市と琵琶湖博物館を訪ねる見学会を実施したほか、9月にはキャンパスに身近な琵琶湖を教材とした夏期集中講義「琵琶湖環境学入門」を開講し、環境問題に対する興味・関心を深め、環境を学ぶ上での基礎を身につける導入教育を行います。

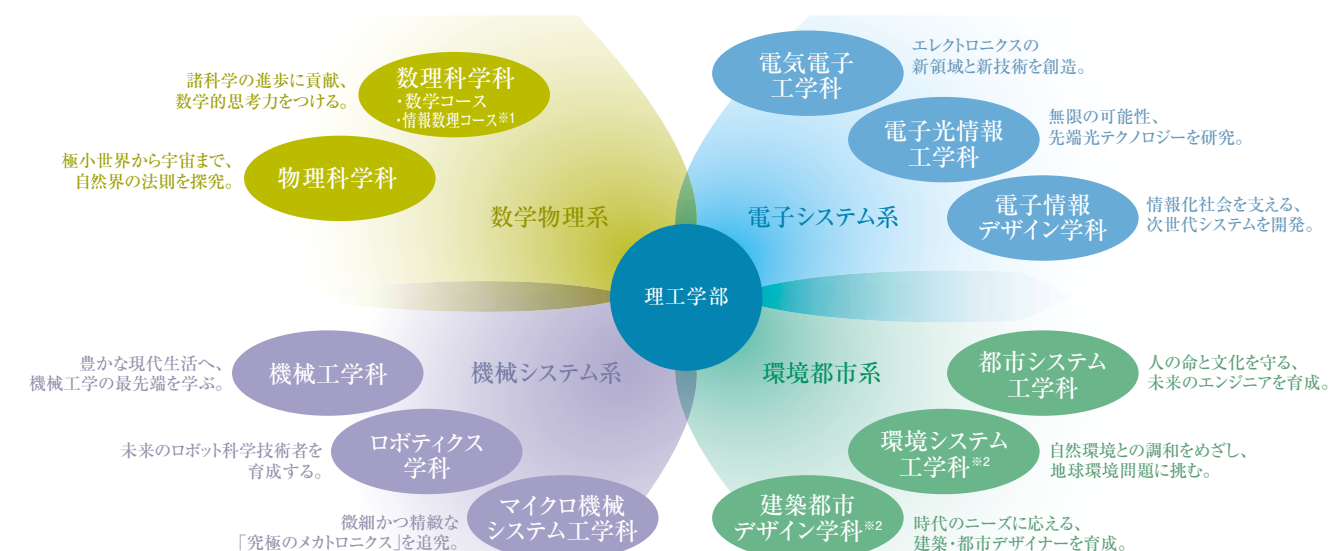
*現代GPとは、現代社会の課題に応える優れた教育プログラムとして文部科学省から選定された取組です。

理 工 学 部

最高水準の環境で、最新テクノロジーを生み出す。

4学系11学科からなる理工学部。国内の大学で最高水準の施設・設備を最大限に活用し、産業界とも連携しながら世界的な研究プロジェクトを多数推進しています。理工学部の特徴でもある、理学と工学のそれぞれの専門性を活かし、刺激しあいながら、科学技術の新領域の開拓と未来社会を支えるエンジニア・研究者の育成をめざしています。

科学技術のスペシャリストを育てる4学系・11学科。



※1 数理科学科 情報数理コースは、文理総合インスティテュート ファイナンス・情報・インスティテュートに対応したコースです。

※2 環境システム工学科及び建築都市デザイン学科は、文理総合インスティテュート 環境・デザイン・インスティテュートに対応した学科です。

理工学部の学びを CLOSE UP !

次世代内視鏡への応用が期待されるマイクロマシンの先端研究。

MEMS技術の医療応用

現在、MEMS (Micro Electro Mechanical Systems [微小電気機械システム]) の応用分野はITや自動車、精密機器にとどまらず多岐にわたっています。例えば最近研究が進んでいるLSIチップ上での遺伝子解析や化学合成は、バイオ・化学分野とMEMSの融合です。応用分野が広がる中、小西聡教授が重視しているのはナノテクノロジーやバイオテクノロジー、ロボティクス技術との融合による医療応用です。我々がこれまでアプローチしにくかった極小の世界との接触を可能にしてくれる小西教授のマイクロハンドロボット。柔らかく、そして安全なこのマイクロアクチュエーターが、いま次世代内視鏡の研究などに活かされています。



小西 聡 教授
理工学部
マイクロ機械
システム工学科

TOPICS

物理科学科で十年以上続けている特色ある教育の試み

物理科学科では、1回生は様々な科目でほぼ全ての専任教員から、物理学とは、また、研究とは何かを聞きます。私の科目では、入学したての新入生は、まず、後述する先輩達の大活躍振りとして彼らの近未来像であるという話を聞きます。そして、非常に簡単な数式がサインカーブや他の色々な関数に瞬間で変わるといって『数式のマジック』を見ます。種明かしを聞くことによって1回生達は高校で学んだ数式や微分が物理学で密接に関連していることを理解し、計算機シミュレーションを「わかった!できる!」と実感します。その後は2〜3回生で学ぶ内容を少しだけ先取りし自然現象をどのように見るかを学び、3年後に先輩達と同様に大活躍できるという話を再び聞いて前期の講義を終えます。さらにその後は、1、2回生の伝統的な物理の講義・実験科目で地力をつけつつ、数人単位のグループセミナーで経験の幅を広げます。

3回生後期に卒業研究配属が決まり、様々な研究会や研究グループ会議に参加したり、就職活動をしたりすると、4回生の前期に自分の視野が飛躍的に大きく広がり近未来像もかなりしっかり見えてきます。今年もこれから夏休みですが、3〜4割を占める大学院志望の4回生にはこの秋に初めての学会発表に挑戦する者もいます。また、大学院生は学位論文や秋の国際学会発表に向けてほぼ毎日大学に出てきてとても一所懸命に研究を行い、非常に忙しい時期になります。私は欧米とも連携しながら国際産学協同研究として南アフリカ金鉱山の地下2〜3kmで地震発生を至近距離で観測しており、学生達は国内外の優れた研究者達とも共同研究を行います。卒業生は多方面で活躍しており、最近学生達が出した研究成果が新聞にとりあげられることもありました。

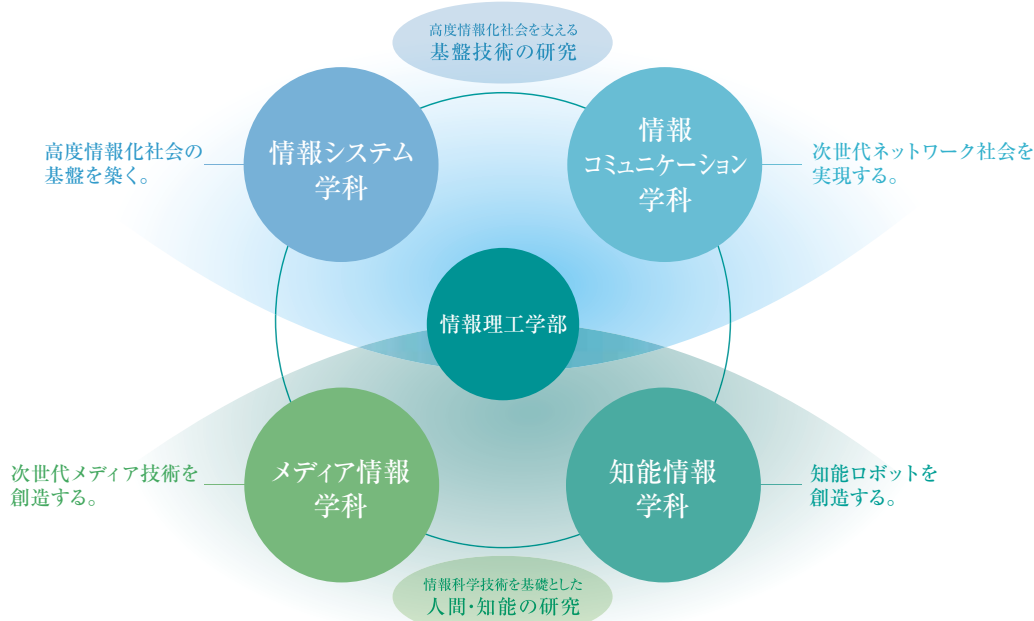
学生達の1回生からの大きな成長と活躍を見続けることができるのは私にとって大きな喜びです。
(物理科学科教授 小笠原 宏)

情報理工学部

次なる社会を創造する情報科学技術に挑む。

理学と工学の両面からIT(情報技術)にアプローチする情報理工学部には、理工系の学部だからこそ学べるものがあります。情報科学技術を基盤として発展を続けるこの社会において、その環境に適した高度IT人材を育成することが目標です。産業界や国家プログラムとの連携も含めて最先端かつ実践的技術を身につけるほか、IT大国インドなどへの海外研修を行うことにより、国際社会で活躍できるスキルも修得していきます。

高度情報化社会において、先端テクノロジーを創造する4学科。



情報理工学部の学びを CLOSE UP !

ソフトウェア開発を体験。企業の技術者に学び、実践力を磨く。

● 企業連携プログラム「組み込みシステム」開発講座

自動車や携帯電話など多くの機器に搭載される、最新IT産業の応用技術「組み込みシステム」。企業連携プログラムでは、企業の技術者による指導のもと、ソフトウェアの設計から実装、テストまでを行い、さらには要求仕様や予期せぬ事象にチームワークで解決する組み込みシステム開発の全工程を体験します。このように、専門知識だけでなく、ものづくりのマインド、現場が求める実践力も磨いていきます。



TOPICS

留学生交流会を開催

情報理工学部はグローバルコモンセンスを持つ国際的な人材の育成を教学理念のひとつとしています。この理念に沿ってこれまでにJDS留学生を含む国際産業特別コース留学生、アジア人財資金構想プロジェクト、ベトナムIT人材育成プロジェクト、APU-RU連携プログラム、日墨交流プログラムなどを通じて、博士課程前期・後期課程を中心に多くの留学生を受け入れています。今年度は学部生20名を含め留学生が70名を越す状況にあり、日本人学生との交流も盛んになってきています。また、学部主催の短期留学プログラムへの参加者の増加という効果も上がってきています。



一方で、多様な留学形態が存在するために、留学生相互の交流が少ないという課題を抱えています。そこで今回、初めての試みとして、留学生による留学生のための交流会を開催しました。交流会は4名のコアメンバーによる準備を経て、6月25日(木)の夕方に学部教授会会議室で開催され、参加者は留学生20名、教員は学部執行部を中心に8名、職員5名でした。ベジタリアンやモスリムに配慮したスナックと飲み物を囲み、英語と日本語の入り混じった自己紹介をして、改めて多様な国から多様な人材を受け入れていることを実感しました。日本に来てから驚いたことを紹介しあって、日本に生まれ育った人間にとっては当然のことが、世界から見れば驚きの対象になりうることを再認識できました。当日に誕生日を迎えた女性もいて、皆でお祝いの歌を歌って大いに盛り上がりしました。

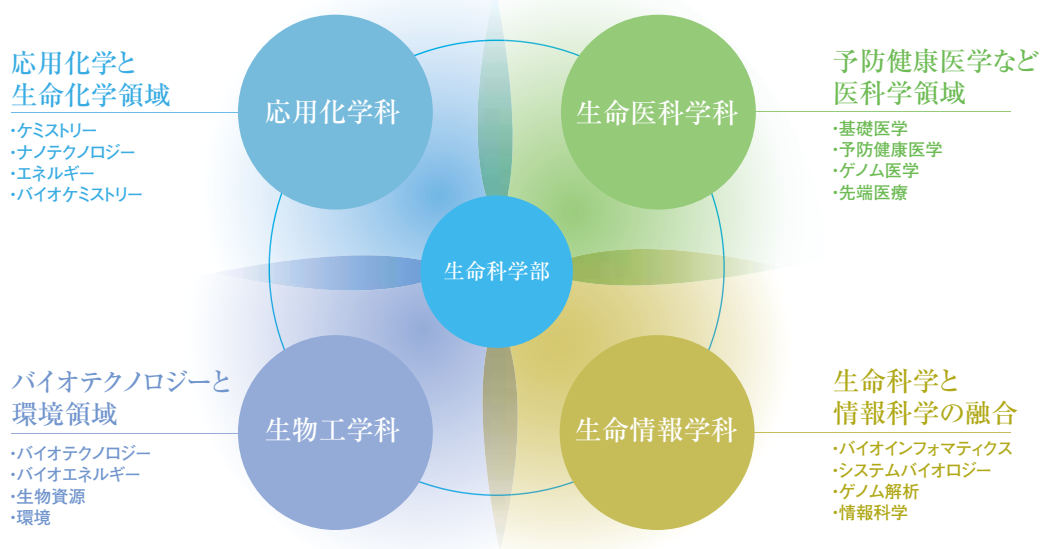
留学生の熱心な向学心や、母国語、英語に加えて日本語までも学ぼうとする姿勢は、日本人学生のよい模範となるものです。今後は留学生と日本人学生との交流も促進していきたいです。

生 命 科 学 部

未来に貢献するライフサイエンスを創造する。

人類永遠のテーマである生命のメカニズムの解明、そして、エネルギーや環境などの地球的課題に挑むのが、生命科学部です。医科大学や産業界、本学薬学部とも連携し、総合大学ならではの多様なカリキュラムを展開。新たなライフサイエンスを創造し、人々の豊かな生活や持続可能な社会の実現に貢献する人材を育成します。

エネルギー、環境、食糧、医療、健康分野へ応用、多角的に生命科学を探究する4学科。



生命科学部の学びを CLOSE UP !

ライフサイエンス分野で国際的に活躍するための英語力を養成。

● 英語教育

科学技術分野、特にライフサイエンス分野は、国際化が最も進んでいる分野であり、激しい国際競争が展開されています。将来、国際規模のプロジェクトに参加し、成果を発信していくことができるよう、生命科学部では「プロジェクト発信型英語プログラム」を用意しています。プログラムは「プロジェクト」と「スキルワークショップ」の2本の柱、さらに自学自習を促進するオンラインアクティビティーから構成されています。「英語が苦手」という人も心配は要りません。「プロジェクト」では、まず「自分の興味ある分野」のテーマからスタート。最終的には「ライフサイエンス分野」において、リサーチ、ディスカッションを経て、自分が伝えたいメッセージを発信します。もう一つの柱である「スキルワークショップ」が、発信のための「聞き、話し、読み、書き」の訓練の場となります。このプログラムを開発したのは鈴木佑治教授。鈴木教授が2007年度に担当した立命館大学理工系大学院生のためのクラスでは、3ヶ月でTOEIC®-IPスコアが平均約60点(最高220点)アップしています。



TOPICS

「生命科学部・薬学部開設記念式典」を開催

去る5月17日(土)、滋賀県・大津プリンスホテルにおいて「立命館大学生命科学部・薬学部開設記念式典」が開催され、関係者ら約200名が新学部の開設を祝いました。式冒頭、立命館総長・川口清史より「ライフサイエンスの世紀といわれる21世紀、社会の持続的な発展に貢献できる高い技術力と倫理観を持った学生の育成に努力していきたい。」との決意が述べられました。続いて、臨席頂いた来賓を代表し、



文部科学副大臣・池坊保子氏、厚生労働省医薬担当審議官・黒川達夫氏、滋賀県副知事・澤田史朗氏より、祝辞を頂きました。式典を通じ、本学関係者一同、生命科学部・薬学部に寄せられる熱い期待を実感し、地域社会および国際社会のニーズに応えるべく、ライフサイエンス分野の教育・研究の発展に貢献する決意を新たにしました。

式典に引き続き、同ホテルにて「開設記念祝賀会」を開催しました。生命科学部長・谷口吉弘の挨拶に続いて、日本薬剤師会副会長・寺脇康文氏ならびに滋賀医科大学学長・馬場忠雄氏より祝辞を頂いた後、生命科学部・薬学部の発展を祈念して乾杯しました。両学部の紹介ビデオが流れる中、和やかな雰囲気の中で参加者が歓談し、式典に臨席頂いた来賓の方々と本学関係者との交流を深めました。

薬学部

先端医療を支える医薬品のエキスパートへ。

薬学部では、薬剤師国家試験受験資格が得られる6年制のカリキュラムを展開。医療・医薬技術が急速に進歩し、ゲノム創薬やテーラーメイド医療が現実になりつつある現在、薬学部ではこれまでに立命館大学が培ってきた自然科学系研究を背景とした質の高い教育を推進しています。さらに生命科学部と連携し、ハイレベルな医薬品の専門家を育てます。

生命科学部と連携した学び、総合大学だからできる学びを展開。

薬学部では、生命科学部と連携・融合したカリキュラムを編成し、先進的で総合的なライフサイエンス教育を展開しています。また、「学部横断アドバンスト科目」を設けるなど、総合大学の利点を活かし、専門を深めるだけでなく幅広く知識を身につけることができます。

学部横断アドバンスト科目

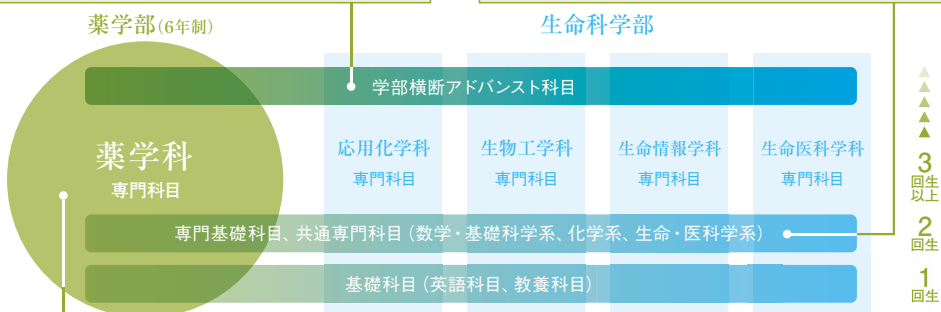
学部・学科を横断して学ぶ。

総合大学の強みを活かし、「医療経営論」「医療経済論」「医療倫理」など、社会科学系や人文科学系学部・研究科と連携した科目を配置。医療をめぐる社会的環境と、社会のつながりから生じる倫理的、社会的視点を養成しつつ、医療経営の基礎知識も身につけることができます。

共通専門科目

生命科学や医学の基礎を修得。

生命科学の学びのベースとなる化学・生物学の基礎知識を修得するほか、基礎医学に関する科目を学びます。また、生命に関わる科学技術の社会的責任を学ぶ生命倫理教育も実施しています。



専門科目

バランスよく薬学を学ぶ。

化学系・生物系薬学から医療系薬学までバランスのとれた教育を展開。時代の要請に応え、チーム医療の現場で、また医薬品開発の最前線で広く活躍できる、薬学の専門家を育てます。

化学系薬学

・医薬品製造学
・有機分子解析法
・天然物化学

生物系薬学

・薬理学
・病態生化学
・生物薬剤学

医療系薬学

・調剤学
・臨床薬剤学
・薬物治療学

総合大学ならではの多様な学び

12学部2インスティテュートを擁する立命館大学では、人文、社会、自然科学のみならず文理の学問を統合した領域にまで学びのフィールドが広がっています。また、豊富な海外留学プログラムや語学・IT・資格などに対応したエクステンション講座など、さまざまな学びのニーズに応える環境が整っています。

薬学部の学びを CLOSE UP !

薬剤師実務家教員が指導、医療現場を重視した実習が充実。

● 実習プログラム

6年制薬学教育では、5年生時に約5ヶ月間の病院および薬局での実務実習が必修となります。この実習に先立ち、「薬学共用試験」に合格し、実務実習に不可欠な知識・技術を修得する必要があります。また、4回生後期には模擬薬局内で行う「実務前実習」も実施。実務家教員および医師免許を有する教員を中心に、薬剤師としての行動・倫理、あるいは病院内でコメディカルの一員としての薬剤師の役割をしっかりと学びます。



TOPICS

薬学部・生命科学部棟「サイエンスコア」が誕生

立命館大学の第11および12番目の学部として、今春、薬学部・生命科学部が開学し、それと同時に、両学部の教育・研究拠点となる新棟「サイエンスコア」が、びわこ・くさつキャンパス(BKC)に誕生しました。

「サイエンスコア」には、臨床薬剤師の育成に欠かすことのできない「模擬薬局」、「調剤薬局実習室」、「模擬診察室」、ライフサイエンス分野の最先端の教育・研究を支える「培養実験室」や「クリーンルーム」、さらには最新の研究機器を備えた共同利用機器



室や卒業研究室など、充実した設備・機器が配備されています。本棟は、薬学部・生命科学部の学生が実験・実習を通して真に社会が求める高度専門職へと育つための人材育成の場であるとともに、ライフサイエンス分野における最先端研究を推進する施設として世界に向けた研究成果の発信拠点となります。

また、「サイエンスコア」は屋上緑化や日照調整フィルムなどにより、省エネルギーにも配慮した設計になっています。さらに、広い中庭の中央には、DNAを模した「生命と光のモニュメント」が薬学部・生命科学部のシンボルとして設置され、その周りのベンチは学生たちの憩いの場となっています。



豊かな人間関係の中で伸びゆく学生たち

立命館大学学生部副部長 白石 晴樹（生命科学部教授）

二〇〇八年度が開講してから、早くも四ヶ月以上が過ぎようとしています。

今春本学に入學した新入生は、四月一日に京セラドーム大阪で開催された入学式を皮切りに、履修登録や各種手続き、学内におけるルールなど様々な情報を入手する「新入生オリエンテーション」、新入生全員が参加する「新入生歓迎祭典」、クラスの懇親を深め、大学での学び方などを知る「クラス合宿」などの取り組みに参加されてきました。

多様な個性が響きあい、 成長する学生とキャンパス

入学当初に一回生が参加する取り組みは、新入生が大学での学びを中心とした学生生活環境にスムーズに適応することを支援するとともに、友人関係を築くことを目的としています。これらの取り組みは、在校生の約半数が近畿地区以外の出身者で占められる全国型大学である本学において、とりわけ重要な意味をもつと考えます。

また、本学には現在、約六百五十の自主活動団体があり、全学部学生の半数にあたる約一万八千名が様々な活動をおこなっています。学生部では、正課授業での学びを重視するとともに、クラブ・サーク



ル活動をはじめとする課外活動が学生の成長につながる学びの重要な要素の一つであると捉えています。そのため、学生の課外活動への参加を促すために、「課外活動ガイダンス」を開催するとともに、オリエンテーション期間中に学生自身が企画・運

営する「サークルフェスティバル」や「さくら祭り」などのクラブ・サークル紹介・部員募集企画を積極的に支援しています。

課外・自主活動を通じて 社会で生きる力を培う

「新入生アンケート（学生の自治組織である学友会が実施）」の結果によれば、課外活動に参加している学生は何事にも積極的に取り組み、大学への帰属意識も高いことが示されています。課外活動が充実した学生生活を送るための重要な要素であると言えます。

本学が二〇〇二年に行った「就職や進路で顕著な結果を得た」学生へのヒアリング調査によれば、これらの学生たちの共通点は、入学当初は明確な目的意識を有していた訳でも、特段にモチベーションが高かった訳でもなく「ごく普通の学生」として大学生活を始めたが、以下のような「きっかけ」によって、「伸びる瞬間」を体験し大きく成長したことが分かりました。

◆責任ある立場（厳しく緊張感のある場）を経験したとき

◆目標を持ったとき、目標を達成したとき



- ◆ 考え悩み・落ち込んだとき
- ◆ (目的や目標を) やり遂げたとき・完成させたとき
- ◆ 人に喜ばれたとき、活動が評価されたとき
- ◆ 勝ったとき・負けたとき
- ◆ 刺激(協力・競争)しあえる仲間(先輩・後輩含む)や、優秀な人に出会ったとき
- ◆ 他分野(学部・学科・社会)の団体や個人と接したとき、知的高まりを感じたとき
- ◆ 尊敬できる教員に出会ったとき、顔を覚えてもらったとき
- ◆ 学ぶ必要性を理解したとき

学生の成長を支える 学生、教職員

また、「伸びる瞬間」を体験するには、①教職員・仲間と積極的にコミュニケーションが図られていること、②自らのフィールドが確立されていること、などが共通した基本要素であることも分かっています。換言すると、「伸びる瞬間」を学生生活において体験するためには、課外活動への参加が最も効果的であると考えます。充実した学生生活をおくっている学生の多くは様々な課外活動に参加しており、正課と課外活動を両立させ、さらにそのことが相乗効果を生んでいることがアンケート結果からも推測できます。

ピア・ラーニングを通した 成長の新しいかたち

本学では、これら従来型の課外活動に加えて、様々な形態で活動がおこなわれています。例えば、学生同士の相互援助型活動として、上回生が新入生の学生生活を支援するオリター・エンター制度、進路支援にかかわって、内定を得た四回生が、これから就職活動に取り組む学生をサポートするジュニア・アドヴァイザーなどがあります。また、学生参加型活動として、学外でのボランティア、インターンシッププログラムに加え、大学の教育プログラムのアシスタントや学園の諸行事、プロジェクトの企画・運営要員なども募集しています。これらの活動については、学生の皆さんが自身の生活設計や学習計画にあわせて在学中のどの段階からでも参加す

ることが可能です。学生の皆さんには、これらの制度を活用し、人生において極めて重要な時期である大学生活を充実したものにしていただきたいと思います。

最後にご父母の皆様へのお願いです。是非とも夏休み期間中にお子様とじっくりと話をする機会を設けていただき、学生生活の様子を確認いただくとともに、学生生活を充実させるために何をすべきかについて共に語り合っていたいただきたいと思います。

本学では、学生の皆さんひとりひとりが学生生活を一層実りあるものとし、社会で活躍できる人間として大きく成長されるよう支援します。今後とも大学の取り組みへのご父母の皆様のご理解とご協力をお願いします。

***ピア・ラーニング (Peer は同じ立場の仲間の意)**

***オリター・エンター (Orientation conductor の略語)**
新入生が大学での学びに慣れるようサポートしたり、クラスをまとめる手伝いをする上回生。新入生が楽しく有意義な大学生活を送れるように、様々なイベントの企画・運営なども行つ。

立命館大学学生イベント&スポーツ

<http://www.ritsumei.ac.jp/acd/st/student/info/>

RSWeb 私の選んだ+

<http://www.ritsumei.ac.jp/mng/gl/koho/rs/plusr/index.html>

1 回生の半年間

衣笠にて

「自分らしい」学生生活を楽しむ

産業社会学部1回生 矢田志織さん 山口県出身

一人になってみたら
何とかできた

実は、実家を離れて暮らすことが心配だったんです。朝、起きられるかどうか特に。でも一人になってみたら、案外何とかできました。食事も、なるべく頑張って自分で作るようにしています。もちろん、不安ばかりではなく、大学生活への期待も大いにありました。何しろ周りに誰も知り合いがいなくて、ところからのスタートですから、そのぶん新しい出会いが楽しみです。

多様な授業に満足
授業は結構忙しいです。基礎演習という、三十数名で一クラスの授業があります。熱心な先生のご指導で、一回生にして早くもフィールドワークやプレゼンテーションを経験できました。四人でグループを組んで、私たちと同年代なのに全く違う日常を送っている舞妓さんたちの生活や意識の調査をさせていただきました。



お茶屋さんにお願
いしてインタビューに伺いまし
たが、とても緊張
し、舞妓さんが私
たちより精神的に
ずっと大人である
ことに驚きもしま
した。ゆくゆくは
社会調査がしっか
りできるように、
調査・統計の専門

知識を身に付けたいと思っています。

一回生にとっては、この基礎演習が基本のクラスです。ここに上回生のエンターさんが四人入って、学習面から何から、いろいろと面倒を見てくれます。四月の「新歓祭典」では、みんなでベビーカーの模擬店を出し、その準備をしながらすぐに仲良くなりました。

講義を聞くことが中心の授業もありますが、最終的には自分なりのものの考え方をしっかりと持てるようになります。大学で、覚えるだけの勉強をしているにはあまり意味がないですね。

やるるときに、やってみる！

正課の勉強以外にも何かやろうと、フットサルサークルに入りました。週一回、楽しく身体を動かそうという私にはちょうどいいサークルです。

次に、産社のエンター団が企画した、「LINCC(リンク)」というイベントにスタッフとして参加しました。これは、大学には入ったけれど、何をしたらいいのか戸惑っているという一回生のための企画です。在学中に起業したり、海外へ出ていったりするアグレッシブな先輩を呼んでお話を聞き、自分たちの可能性を広げようという趣旨で、私自身にとっても大変勉強になりました。産業社会学部では学生が自主的に行う行事が特に多いそうです。これから機会をみつけて参加したいです。



基礎演習の仲間とともに(新歓祭典にて)

こんなふうに、入学してからの日々はあっという間に過ぎました。この調子だと、大学四年間はとても短い。やれるときに何でもやっておかないと...と思います。将来のことも考えますが、大学でいろんなことを知ると、あの道もこの道も良さそうに思えて、まだ一つには絞れません。今はそれでいいと思っています。

もうすぐ試験、そして夏休みです。今年は友達との楽しい時間をたっぷり持ちたいと思います。来年は海外に行ってみたくので、お金を貯めるためにそろそろアルバイトも始めようかな...。母のほうも私の一人暮らしに慣れたようなので(笑)、私も安心して自分の学生生活を存分に送れそうです。

(*) エンター 41ページ参照

「週七日間フル活動」

草津市にやってきたばかりの頃は、生活圏内のどこに何があるのかさっぱりわからず、戸惑いましたが、今は慣れました。一人暮らしはいいですね。全部自分でしなければならいけれど、逆にやりたいことは何でもできます。料理は子供の頃から好きだったので、時間さえあれば自炊も苦になりません。

平日には授業と勉強、それにRBC（立命館大学放送局）の活動をして、土曜日に部屋の片付けや洗濯をしています。そして日曜日はフリーということにしたいのですが、いまは授業で出される課題に取り組み日にあてています。大学生には時間がたくさんあると思っていました。忙しくなってきました。好きな勉強、自主的な活動をしているので、充実感がありますが、もう少しだけのおんびりしたいと思うのは欲張りかな（笑）。

「さまざまに支え合って」

まず授業ですが、週に十二コマ受けています。初めは、語学の授業でずっと英語で話し通される外国人の先生の姿に、



新鮮な感動を覚えたりもしました（笑）。先輩が授業に入ってフォローしてくれるので助かります。^{*1}オリターさんは、僕たち一回生に大学生活に必要な情報を教えてくれる人たちです。いま一番係わりがあるのは、^{*2}TAや、^{*3}ESの先輩です。「プログラミング演習」の授業では、つくったプログラムのチェックをしていただくなど、先生と同じくらいお世話になっています。「数学演習」にもそういう先輩がいて、分からないところがあれば、教えてもらえるので、心強いですよ。

クラスの三十三人の仲間とは、同じ授業を受ける機会が多いこともあり、

かなりの時間を一緒に過ごし、密度の濃い付き合いをしています。「プログラミングを教える」と僕の部屋にやってきて、夜中まで一緒に勉強するような友達もいます。

高校までと比べると、同級生の価値観や人間性、興味関心の幅が格段に広くて、驚くこと、刺激を受けることがよくあるんです。みんなそれぞれの方向を向いて、それでいてまとまっていく。大学ならではの面白さだと思います。

「活躍の場がいろいろと」

五月下旬から約一ヶ月間は、RBCの活動で忙しかったです。校舎が閉まる夜十時まで大学にいた日も多く、入部したての仮局員から正規局員になるための「研修番組」を制作していました。入ってすぐに教えてもらえる基礎的なことを覚えたか、番組がきちんとできたか、それぞれにポイントが加算され、一定のポイントに達していれば晴れて正規局員になれるんです。僕は「音声技術部」の一員です。音声のない番組はまずないので、責任重大。頑張ります。もうひとつ、最近^{*4}レインボースタッフ

フとしての活動を始めました。こちらが初めは研修生なんですけど。仕事はパソコンなどの情報機器を使う学生を手伝ったり、それらの機器の管理をしたりすることです。

というわけで、もう十分忙しいんです（笑）。アルバイトをする暇は当分なさそうですね。

夏休みは、実家には帰らないかもしれませんが。両親からも「無理に帰らなくていいよ」と言われています。RBCの合宿、友達とのキャンプ、情報処理のスキルアップなど、やりたいことを全部やりたい。だからやつぱり、もっと時間が欲しいです（笑）。

（*1）オリター 41ページ参照
（*2）TA ティーチングアシスタント。授業補助や履修相談にあたる大学院生。
（*3）ES 教育サポーター。当該科目を履修済みの3回生以上の学部生が務める。
（*4）レインボースタッフ パソコンの知識が豊富な学生が務める。



RBCの仲間たちと

やりたいことがたくさん！
成長している自分を実感しています

学生部による 父母教育後援会だより

誌上相談室

学生部に寄せられるご相談のなかから、よくある内容を類型化してお伝えします。
お子さまとのコミュニケーションのお役に立てば幸いです。

Q

最近、子どもが授業の準備やサークルで忙しいようで、携帯電話に連絡しても、メールを出しても反応がありません。きちんと授業に出られているか心配です。

A

特に大学に入ってから一人暮らしを始めたお子さまをお持ちの父母の方が、「親元を離れて一人でちゃんとやっていくのかしら?」と心配なさるお気持ちはよく分かります。ただ、これはお子さまが自立するためのきっかけの一つと考えてください。

ちよつと寝坊した……、という失敗を経験することもあります。「自分でやったことの責任は自分で取る」ということが大人への第一歩。でも、ここで気をつけていただきたいのは「何度も連絡しているのに、なんで出ないの?!」とイライラなさらないことです。「ちゃんと寝ている? ご飯は食べている?」と、会話のきつかけをつくってみてください。逆に「何かあったらいつでも連絡してきなさい」といつでも味方でいるよ」というメッセージを送るほうが効果的です。

学生が自立するためには、親御さんとの関係のつくりなおしが必要なのです。大学の授業には、一回生の基礎演習(研究入門)、外国語や三回生演習(ゼミ)など、

出席していなければ単位を落としてしまうというハードルがある授業もあります。単位取得が少ない場合や欠席が続いている場合は、各学部で面談の案内を行うなど、早めのケアを行っています。

学生サポートルームからひとこと

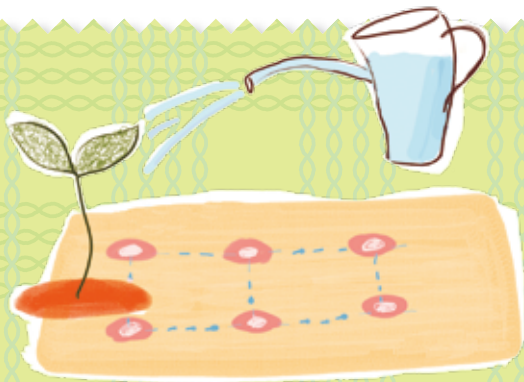
子供が大学生になって一人暮らしを始める、と、親としては多くの心配を抱えているにもかかわらず、子供は親の心配をどこ吹く風かのように「無視」します。ご父母のみなさまが今のお子さまと同じ年頃でいらしたころには、現在のように携帯電話が普及していなかったこともあり、自分の希望と意志で一人暮らしを始めたにもかかわらず、それに慣れるまではホームシックにかかっていた方もいらっしゃったと思います。

現在は携帯電話のおかげで、気軽に、またすぐに連絡をつけることが可能です。そういった点では、人と人とのコミュニケーションは簡単にできるようになったと言えます。しかし、最近巷で言われていることは、コミュニケーションが希薄になったのではないかと

いう懸念です。言葉が記号のように行き交うのに、真意を伴う情緒の円滑な流れが損なわれているのではないかとこの懸念です。このことについて詳細を説明するのは、話が長くなりすぎますので省略しましょう。

結論から申し上げます。ここでの心配は当たり前のことです。しかし、親がその心配を納めて安心することが大切なのではありません。親子の間で解決される問題なのです。つまり、親が心配なことを子供に直接伝えること、そして子供がその心配にどう対応するのかは子供の判断によるということ、親の思いと子供の思いとの折り合う落としどころを親子間の直接のやりとりで探るといことが大切なのです。これこそ、あるべき親子関係であり、情報の取得だけではなく、それ以上の情緒のやりとりが両者の間に成立することになるのです。人間ですから、気持ちは変わります。一旦、解決したかにみえたものでも、気が変わってまた子供に直接問い質したり、問い質されたりということも当然あっていいことなのです。

子供に対しての気持ちで、どうしても解決したいと思う気持ちがあれば、直接子供とのやりとりでその解決点を探るべきであるということ。今日の状況を考えると、むしろ子供と関わる材料とすべきであると考えられます。



Q

低回生の親ですが、早くも進路・就職のことが気になっていきます。子どもはなかなか話してくれないのですが…。

A

実際に学生が進路を決定する時期は、一人ひとりさまざまで、高

校時代から大学院まで多岐にわたります。大学に入ってからやりたいことをさがすという学生も増えてきています。

高校までのように決められたことをこなしているだけでは、自分がどのように生きていくかという道をみつめることはできません。まずは、しっかりと大学で勉強し学生生活を送る基礎となる力をつけることが大切です。その力とは、自分で時間を管理する力、自分にあつた勉強のしかたを含めた勉強の計画が立てられる力、勉強への意欲などです。本学では、学生が安心してしっかりと学ぶ環境をつくるために、一回生の基礎演習や三回生のゼミなど小集団の学習環境を用意しています。先生、友だち、先輩など多くの人たちからたくさんのことを学び、さまざまなハードルを越えて成長していきます。

進路はその延長線上にあります。進路情報は、大学の「キャリアオフィス」のホームページ、学部でのガイダンスなどで提供されています。しかし、「進路相談Ⅱキャリア



オフィス」と狭く考える必要はありません。お子さまは、時には自分が何をしたいのかわからなくなってしまうこともあります。そんな時には、担当の教員、所属学部事務室、学生オフィス、学生サポータールーム（カウンセラー）を頼っていただければよいのです。どこでも、どんな相談でも大丈夫です。

また、お子さまが進路を決める際には、本人が自分自身について深く考えることになり、あらゆる情報が飛び交い、悩んだり苦しんだりすることもあるでしょう。そういう時に親があせって子供からいろいろと聞きだそうとすることは逆効果です。

むしろご自身のことを語って聞かせてあげてください。普段は無口なお父さまが、人生の先輩としてお子さまに経験を語って

いただく絶好の機会です。ぜひ、お試しください。お子さまは、ご両親の背中をしっかり見えています。

キャリアオフィスからひとこと

キャリアオフィスでは、「学生一人ひとりの希望する進路・就職の実現」を目指して、様々な支援をおこなっております。企画を通じて、学生同士や多方面で活躍している本学OB・OGと出会うなかで、学生は自分と向き合い、一人の社会人として自立するために進路を自ら決定していきます。

前述されているように、進路選択に関連する相談やその前段階の相談は、学内各所でお受けすることができますが、キャリアオフィスでは特に、在学中から社会と接点をもつことを重要視しており、世界観・社会観を押し広げるような機会を多くの学生に提供しています。講演会・パネルディスカッション・個別卒業生との懇談、合宿、グループワークなど多様な形態で実施し、例年のべ二万人余りの在学生が参加しています。生き方・働き方を考えるためのセミナーや交流会も企画しており、学生たちに「自分で考え行動する大切さ」に気づいてもらうよう努めています。

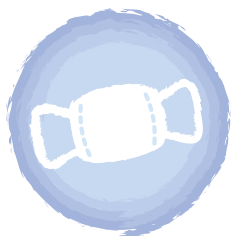
キャリアオフィスが学生を支援するにあたっての基本的な考え方は、本誌50〜51ページをご覧ください。

育後援会より財政援助をいただきましたので、1月と4月に2回にわたり無料予防接種を実施し、12,692名が接種を受けました。また、無料接種の対象に含まれなかった大学院生や新入生を対象に3月と6月に有料予防接種を実施し2,776名が受診しました。これらの結果、2008年度学部在籍者の49.4%が予防接種を済ませ、接種率50%をほぼ達成することができました。感受性者を半減させたことにより、学内で万一麻疹が発生しても大きな流行は起こらないと期待されます。

今年も京都市内の大学では複数例の麻疹の発生が確認されています。しかし、幸いなことに立命館大学では麻疹は一例も発生していません。予防接種の効果が出ているものと考えられます。来年度以降は、高校3年生時に定期予防接種を受診できる学年が入学しますので、学内の集団予防接種を行う必要性はないと考えています。もしまだ、お子様が予防接種を受けておられなければ、保健センターに相談に行くようにご指導下さい。

今年は百日咳が大流行？

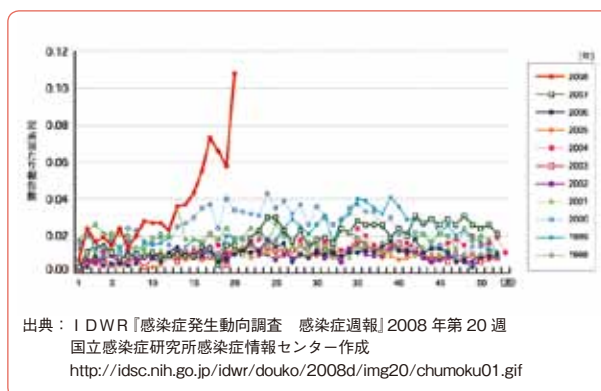
今年になり、全国的に成人の間で百日咳が流行っています(図2)。百日咳はもともと子供に多い病気ですし、DPT(ジフテリヤ・百日咳・破傷風)三種



混合ワクチンが乳幼児期に4回定期接種されます。それなのに何故？と思われるかも知れません。百日咳ワクチンは不活化ワクチンですのでその効果は5～10年しか持続しません。麻疹の場合と同様、流行の原因は大学生や成人で百日咳への免疫が低下しているためだと考えられています。我が国の定期予防接種ではDT(ジフテリヤ・破傷風)のみが12歳時に追加されますが、諸外国では百日咳を含んだDPTワクチンを追加接種しているそうです。

立命館でも学生・教職員に注意を呼びかけ、1～2週間以上長引く咳の症状がある場合は受診して検査を

● 図2: 百日咳の年別・週別発生状況(1998～2008年第20週)



受ける事を勧めています。これまでに100人以上が保健センターを受診しています。検査の結果、約15%は百日咳が強く疑われ、約65%以上が百日咳の可能性が否定できないという結果でした。成人の百日咳は症状が軽く百日咳に特徴的な連続咳などを伴わない事が多い上に、一回の血液検査だけでは正確な診断を下すことができません。百日咳の疑いが否定できない場合には抗生物質を投与しています。麻疹と異なり重症化することはありませんが、乳幼児への感染源になる点で放置できません。長引く咳の症状がある場合、医療機関にかかるようにご指導下さい。

新型インフルエンザがやってくるのは時間の問題

10年前は学生の健康管理課題で、結核以外の感染症が問題になったことはほとんどありませんでした。しかし、ここ数年、AIDS、O-157、SARSなどの新興感染症だけでなく、ノロウイルス、麻疹、百日咳などの復興感染症も次から次へと人類に挑戦を挑んでいきます。次の試練は、間違いなく新型インフルエンザでしょう。我が国だけでも200万人以上の死者がでると予測されています。現在の感染症対策が、来るべき新型インフルエンザ対策への試金石として役立つことを願いつつ、今後も皆様方のご理解とご協力をお願いしたいと思います。

立命館保健センター

<http://www.ritsumei.ac.jp/mng/gi/hoken/medical-j.html>

大学生と感染症

大学ではしかの流行

昨年は、関東の大学を中心に麻疹（はしか）が大流行し、多くの大学が休校措置を行うなど大変な騒ぎになりました。本学においても7

名の麻疹患者を出し、接触した多数の学生に出席停止の措置を行うなど、カリキュラムに甚大な影響を及ぼしました。定期予防接種に組み込まれているはずの麻疹が、何故、今ごろになって流行するのでしょうか？

大学生の約9割は幼児期に麻疹の予防接種を受けています。しかし、麻疹ワクチンは生ワクチンであるにもかかわらず、接種後年数を経るに従い免疫力が低下することがわかってきました。結果的に現代の若者の約20%は麻疹に対する免疫が低下し、麻疹に罹患する感受性があると推測されています（図1）。免疫低下への対策は、2回目の予防接種を追加することで、免疫力の経年低下を補うことができます。このため2006年から、我が国でも欧米と同様に麻疹定期予防接種は幼児期と就学前の2回法に変更されました。

麻疹は肺炎・中耳炎などの合併症を起こしやすく、まれに脳炎を合併して重症化することがあるうえ、感染力が非常に強く、同じ教室で空間共有するだけで空気感染すると言われています。一方、大学生の行動範囲は小中高生とは比較にならないくらい広範囲で、一日に平均500～1,500人と接触します。感受性者を多く残したままでは、大学内で麻疹の流行をコントロー

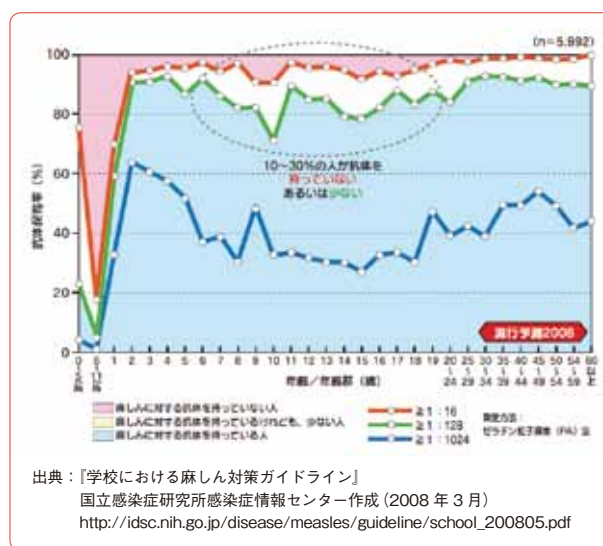


ルすることは不可能と言って良いでしょう。昨年、複数の大学が感染拡大防止のために休校措置をとりましたが、感染拡大に歯止めをかけることはできませんでした。

今年度になっても、大学生の麻疹に対する免疫低下という実情は変わらず、麻疹流行の危機は続いています。麻疹の脅威に脅かされず、安心して勉学に取り組むようにするためには、事前の予防接種で免疫力を高める以外の有効な対策はありません。しかし、厚生労働省が新たに打ち出した麻疹根絶プランは、2008年度から暫定5年間、中学1年生と高校3年生を対象に2回目の定期予防接種を追加するものであり、現役の大学生は全員対象外となってしまいました。

このため、立命館では在学生の麻疹対策として学内集団予防接種を計画し接種を呼びかけました。学内での麻疹流行を阻止するためには、約20%いると推定される麻疹感受性者を10%以下に下げることが必要であり、そのために50%以上の接種率を目標としました。父母教

● 図1：麻疹に対する抗体保有状況（2006年度）



新。五輪出場が予想される選手を対象にした69級の世界ランクで9位に入ることが評価され、女子3人の枠に選ばれた。

＜パラリンピック水泳＞ 江島大佑 選手（'08産社）

50mバタフライ世界ランキング4位の記録を誇る選手であり、水泳日本代表チームのキャプテンとして活動。前回のアテネパラリンピックの男子メドレーリレーで銀メダルに輝いた実績を持ち、今回は50mバタフライ、100m背泳ぎ、200m個人メドレーの3種目に出場が決定している。



文化・芸術

問い合わせ先：学生オフィス
075-465-8167

◎学芸フェスティバル開催

（4月21日～23日 衣笠キャンパス）

音楽・表現・伝統文化系のサークル18団体が集い、展示会や発表会、ワークショップなどを行う学芸フェスティバルを開催した。これまでも冬季にBKCで開催してきたが、春季に10以上の団体が参加しての学芸フェスティバル開催は初の試み。



4月21日には、フェスティバルの一環として、能楽部が第26回新能を行なった。

◎草津宿場祭に能楽部・ 将棋研究会・囲碁研究部・ 放送局が参加

（4月28日～29日）

4月28日・29日の2日間にわたり、草津駅周辺地域で第40回草津宿場まつりが開催された。立木神社の会場では、立ち見が

できるほどの盛況ぶりだった。

29日の当日祭では、宿場おどりや江戸時代の大名行列を再現した「草津時代行列」が行われ、将棋研究会・囲碁研究部・放送局が参加した。将棋・囲碁の対局には宿場まつりに参加した地域の方々も集まり、本学部員と手に汗をにぎる熱戦を繰り広げていた。

放送局はアマチュアダンサー・バンドの祭典の司会を務め、駅前の街道ふれあい広場に活気を呼びこんでいた。

立命館大学からは紹介した課外活動団体だけでなく、宿場祭り実行委員会にボランティアで参加している学生も数多くいる。



◎将棋研究会

第37回全国支部将棋名人戦東西決戦
（5月11日）

▶優勝 古屋皓介（文3）

今大会は、日本将棋連盟が主催し、同連盟の全国の支部会員および個人会員のみので行われるアマチュア将棋の主要な大会の一つ。各都道府県単位の予選を勝ち抜いた代表選手による大会が東西それぞれで行われ、その後東西の優勝者による決戦が行われる。

将棋研究会創部以来初めて、この大会の優勝者となった古屋さんは、「アマチュア一般の全国タイトルを取るという大きな目標が達成できたのでとても嬉しいです。他にもアマチュアや学生の全国タイトルを取りたいです。また将棋研究会としては年末の学生王座戦の優勝奪還を目指しているので、みんなで力をあわせて頑張っていきたいです」と語った。

◎囲碁研究部

朝日アマチュア囲碁名人戦
京都府代表選手決定
（4月26日）

▶高津昌昭（法3）

朝日アマチュア囲碁名人戦の京都府地区予選において、高津昌昭さん（法3）が見事優勝し、京都府代表に決定した。

学生本因坊戦関西代表に 囲碁研究部員5名が決定

（5月11日 アルプス江坂囲碁センター）

学生本因坊戦関西予選において、全国大会への代表7枠のうちの5枠を本学囲碁研究部員が勝ち取った。8月に全国大会が行われる予定になっており、2年連続の本学部員の優勝が期待される。

▶高津昌昭（法3） 野口正樹（産社4）
上條浩平（産社1） 山田紘平（法5）
山崎智仁（営5）

◎ミャンマー・サイクロン／ 中国・四川大地震災害 チャリティイベント

「Potential of Your Voice
～世界に広がる愛がR～」開催
（7月15日～17日、19日 衣笠キャンパス）

このチャリティイベントは、2008年3月に温家宝中華人民共和国首相より招待を受け、中国の大学などにおいて学生交流や研究交流を行い、親交を深めた学生たちが、ミャンマー・サイクロン／中国・四川大地震で被災した現地の復興に向け、「何か自分たちにできることがあるのではないか」という思いから企画・実行した。

チャリティイベントでは、学生団体のパフォーマンスや現地の写真展示、被災者の方への学生からのエールを込めたメッセージカード企画などを行った。また、シンポジウム企画として、外務省国際協力局国際緊急援助室長・小泉崇氏をお招きし、中国四川省における災害状況報告をしていただくと共に学生との意見交換も実施した。



学生のスポーツ & イベ

スポーツ

問い合わせ先：スポーツ強化センター
075-465-7863

◎硬式野球部

関西学生野球六大学春季リーグ戦
(4月5日～5月27日 西京極野球場 他)

▶準優勝



◎卓球部

平成20年度春季関西学生卓球リーグ戦
(5月17日～6月1日 近畿大学記念体育館 他)

▶男子団体 優勝

▶女子団体 優勝

◎バドミントン部

平成20年度関西学生バドミントン
春季リーグ戦
(5月5日～5月16日 龍谷大学体育館 他)

▶女子団体 優勝

◎柔道部

第16回関西学生女子柔道優勝大会
(5月25日 尼崎市記念公園総合体育館)

▶女子団体 優勝

◎ゴルフ部

第31回全国女子大学ゴルフ対抗戦
(6月19日～20日 北海道勇払郡 オークウッドゴルフクラブ)

▶女子団体 優勝

本大会は、出場選手5名のうち上位4名のトータルスコアで順位を競い合う団体戦で、今年は9校が参加した。女子団体戦では、創部42年にして念願の初優勝。通産143ストロークで園田絵里子さん(文2)が最優秀選手に選ばれた。

◎重量挙げ部

全日本女子学生重量挙げ個人選手権大会
(5月16日～18日 羽曳野市立総合スポーツセンター)

▶女子個人 58kg級優勝 谷口亜純(産社3)

▶女子個人 69kg級優勝 大杉星子(法3)

◎弓道部

第52回関西学生弓道選手権大会
(5月18日 グリーンアリーナ神戸)

▶女子個人優勝 四ノ宮明日香(国関4)

◎アメリカンフットボール部

ひょうたんボウル

(4月29日 長浜ドーム)

▶○42-0 神戸大学

フラッシュボウル

(5月11日 EXPO FLASH FIELD)

▶○16-3 京都大学

◎ラグビー部

春の立同戦

(5月17日 宝が池球技場)

▶○45-19 同志社大学

同志社大学に先制を許したものの、立命館大学は着実に得点を重ね、前半のうちに逆転し、45対19で快勝した。

1年生による25分ハーフの試合も行われた。立命館大学の新生入生たちはボックスの展開力を活かして左右にボールを動かし、19対10で快勝した。



◎居合道同好会

第33回 全国各流宇和島居合道大会
(4月20日 宇和島総合体育館)

▶準優勝 菅大輔(法2) 段外の部

▶3位 石橋剛(産社3) 四段の部

◎相撲部

第48回 全国選抜相撲宇佐大会
(5月3日 大分県宇佐市)

▶団体戦 ベスト8

同大会には、全国から選抜された12大学からおよそ100名の選手が出場し、立命館

大学相撲部からは7選手が出場した。

また、立命館アジア太平洋大学(APU)から、インドネシアやオーストラリアなど21カ国・地域からの国際学生約50人が応援にかけつけ、会場には「立命コール」が響き渡った。応援に駆けつけたAPU学生のほとんどが相撲を直接見たことがなく、その試合に非常に感動した様子で、選手と記念撮影を行ったり、相撲について教わるなど、APU学生と相撲部の交流も活発に行われた。



◎北京オリンピック・パラリンピック 出場決定校友

次の3名の方々が、この夏開催される北京オリンピック日本代表選手に選ばれました。

<セーリング49er級> 牧野幸雄 選手('04経済)

卒業後、470級ナショナルチーム、2005年にはレーザー級ナショナルチームに入団。同年、今

回のオリンピック出場種目でもある49er級(2人乗り)を始め、2007年からナショナルチームに選ばれた。49er級はバランスがとりにくく、操縦が難しい競技で、スピードもヨット競技ではトップクラス。



<重量挙げ69kg級> 齋藤里香 選手('06産社)

国内最終選考会を兼ねた4月のアジア選手権で自己新のトータル210kgを挙げ、日本記録を更



キャリアセンター
部長に聞く
就職活動の
本質

就職支援に最も大切なのは 学生の本分をまっとう させることです

平井英嗣
立命館大学キャリアセンター部長

売り手市場と言われたここ一、二年の就職戦線にも、景気の先行き不透明感から変調が見えてきました。

しかし、どのような時代背景にあっても社会が常に求めるのは、充実した学生生活で培われた若者の可能性です。

「就職のための大学生活ではない」と明言する平井キャリアセンター部長に、

就職活動の本質や、進路選択にあたっての親子のコミュニケーション法について伺いました。

進路選択に必要な 内発的動機の形成

就職に大切なものを挙げてみましょう。
まずは、本人の働く意志。それから、基礎学力にプラスされた専門知識と自発的な学習力。社会の規律を守り良心に従って仕事をする姿勢。そして、「この企業で働きたい」という情熱と、自己実現を果たすための目標も必要です。

これらのものはすべて、大学生活において積極的に学び、活動し、新しいものを創造していくなかで培われると考えます。そして、さまざまな経験を通して、「なぜそ

うするのか、そうしたいのか」という内発的動機を学生自身に形成させることが肝心です。私たちは、これがひいては進路・就職支援につながると考えています。

学生のほとんどは、大学での学びや生活に対する明確なビジョンがないまま入学してきます。そこで立命館大学では、入学時に「キャリアチャート」を配布し、回生ごとに学びと学生生活の目標を書き込み、随時見直すよう指導しています。また、学部と連携して大学での学びに必要な基礎力を身につけさせるとともに、少し先の将来を展望しながらも、まずは勉強や課外活動に関する身近な目標を定めさせることで、学生が目的意識を持って大学生活を送れるようにサポートをしています。

学生一人ひとりの目標達成を支援するために、立命館大学は多彩な教育プログラムを用意しています。海外留学やボランティア活動、インターンシップなどにもチャレンジできる環境がありますし、難関試験合格や資格取得をめざす学生にはエクステンション講座があります。しかしこれらは「就職のための」ツールではありません。私たちはこれらの環境を用いて、学生が進路決定に至るまでのナビゲーションをしたいと思っています。特に低回生では、正課や課外活動をはじめとした多様な活動を通して自分の世界観をかたちづくることが重要であり、就職のことは三回生になってから考えさせようというのが、立命館大学の基本的な考え方です。進

路の決定、就職に、付け焼刃のような「対策」があるわけではないことをご理解いただきたいと思います。

課外活動や各種教育プログラムに単に参加するだけでは十分とは言えません。意欲を持って取り組み、苦労や困難を乗り越えることで人は成長するのですから、いろいろな体験を通して、考え、悩み、自分の答えを出すというプロセスを繰り返すことが大切です。

とはいえ、まだはつきりした目標がない段階では、まずはいずれかの活動、プログラムに加わって、その環境に身を置いてみるということでもよいでしょう。やって初めて初めて興味が湧く場合もあるからです。面白いと思えばエンジンがかかり、内発的動機を形成することも可能です。

ただ、ここで忘れてはいけないことは、資格を取得したり、高い語学運用能力を得るに越したことはありませんが、それよりも積極的に学ぶ力そのものを身につけて



いる人材を、社会や企業は求めているという事です。

企業が学生に求めるのは ポテンシャル(可能性)

雇用情勢について少し申し上げます。二〇〇七、二〇〇八年度と求人数は伸びているものの、二〇〇八年度に入ってから、景気後退感が強まってきたことから、雇用状況は二〇〇七年度をピークにして後退期に入ったと思われます。しかし、少子化が進み、若者の数が減っていく日本においては、依然として新規大卒が最大の採用マーケットです。

この状況のもとで、企業はどのような観点から採用活動を行うのでしょうか。あらゆる業界・企業を網羅する言い方をしますと、それは「ポテンシャル採用」です。その学生が、将来どれだけ成長の可能性を秘めているか。これを重要な尺度としているのです。企業が採用時に見ているのは、学生生活において自ら考え、アイデアを出し、実行して得た経験を、いかに自分のものにできているかということなのです。このような生の体験を通して身につけた力が、企業で働く際にも必要だからです。加えて、社会が急速に変化するなかで、自ら学び続けることができ、そこから新しい価値を生み出せる質の高い人材が求められますから、学生はその真価を問われることになります。

子どもとの 「コミュニケーション」は 「問いかけ」から

ここで、立命館大学体育会アメリカンフットボール部で長年指導者を務めてきた経験を交えて、学生とのコミュニケーションのとり方についてお話ししたいと思います。勉強、生活、就職などあらゆる面で、わが子に対し、「何がしたいのだろう」「どうしたいのだろう」と心配される父母のみならず多いかと思えます。そういう時のコミュニケーションのポイントとは、「問いかけ」ということです。答えを出さずに、本人の決定を促すような問いかけを心掛けてください。それでも返答がない場合は、答えられるように問いの方向を変えてみます。忍耐が必要ですが、本人が少しずつ成長するのを待つのです。問いを深めるなかで、自己決定させ、責任を持たせてください。親が答えを出してしまうのは、最も好ましくな

就職活動

期を迎え、そして終えるまでの間、学生には相当のストレスがかかります。志望動機や業



キャリアデザインセミナーの様子

界・企業分析に加えて、自分自身の性格や能力、どんな大学生活を送ってきたかということを一つひとつ問われるわけですから、就職活動は子どもにとっても初めての体験で、相談相手が必要としています。父母のみならずその一人として、働くことについてのご自分の経験や、客観的な意見を伝えてください。初めは、「そろそろ就職活動の時期だが、聞きたいことがあればいつでも聞くように」と、ドアを開けておくだけでもいいのではないのでしょうか。しかし、活動の細かな部分についての、例えば「エントリーシートは書いたのか?」といった言葉がけは、なるべく控えていただきたいと思えます。

最終的には本人が決めることが重要です。自己決定させることが、子どもの長い人生を考えた時に一番のサポートであると思えます。

卒業後まで見据えた 立命館大学の就職支援

私たちの就職支援のコンセプトは、「考え抜かせる」ことです。人からいろいろな考えを聞いて、自分はどうしたいのかを考え抜くこと。それが可能なプログラムを開発しています。特に、同世代の考えを知ることが刺激になるので、「J A (就職内定者) 窓口相談」「C A (若い卒業生) 懇談会」「就職合宿」など、交流の場を数多く設けています。

また、キャリアセンターでは就職内定をゴールとは考えず、社会に出た後のキャリアアップも視野に入れた支援をしています。在学生だけでなく、C A を中心とした就職してまもない卒業生も参加できる「キャリアデザインセミナー」を実施するなど、キャリア形成を長い目でサポートしています。刻々と変化する社会に即したプログラムを用意し、一人ひとりの成長に応じて学べる機会を、これからも積極的に提供していきたいと考えています。情報は随時キャリアオフィスのホームページに掲載しますので、ご覧下さい。

立命館大学キャリアセンター

キャリアオフィス・エクステンション事業課から構成され、学生の進路・就職に係る支援を行っています。

◎キャリアオフィス

<http://www.ritsumei.jp/career/index.html>

◎エクステンション事業課

<http://www.ritsumei.jp/extension/index.html>

インターンシップ

学生が在学中に将来のキャリア構想に関連した就業体験を行うこと。立命館大学では、多様なニーズに応じたインターンシッププログラムを用意し、学生を支援しています。

<http://www.ritsumei.ac.jp/acd/er/career/sakunai/index.html>

エクステンションセンターの各種講座

正課の授業とは別に、難関国家試験の受験対策講座や、専門職・キャリアアップを目指すための講座を、キャンパス内で開講しています。

J A (ジュニア・アドバイザー)

就職内定を得た在学生。経験に基づき、後輩への援助・助言を行います。

C A (キャリア・アドバイザー)

就職後数年程度の若手OB・OG。後輩へアドバイスを行います。

【司会】

建山和由 先生

(理工学部教授・教務部長・父母教育後援会幹事長)

【学生】

安田 敏樹 さん

(理工学研究科博士課程前期課程2回生・三菱電機 株 内定)

喜多 郁森 さん

(国際関係学部4回生・麒麟麦酒 株 内定)

中西 麻依子 さん

(産業社会学部4回生・株 東芝 内定)

粕淵 夕貴 さん

(経営学部5回生・株 ジェイアール東海高島屋 内定)

濱田 大地 さん

(法学部4回生・株 産業経済新聞社 内定)

「大学生生活で「がんばった!」 と言えること」

建山 これから、みなさんが大学生生活で培った力と、それによって拓かれる将来について、一緒に話をしたいと思います。就職の内定は、企業がその学生に魅力を感じ、是非メンバーに加わって欲しいと評価することによって出されるものです。その魅力は、充実した大学生生活を送り、成長する中から生まれるのではないのでしょうか。まずは、みなさんが大学生生活で「これはがんばった!」と言えることを聞かせてください。

粕淵 私の大学生生活のキーワードは、「編入学」「ゼミ活動」「卒業研究」の三つです。経営と、建築やインテリアデザインの両方に興味があった私は、経営を学びながら建築に関する勉強もしたいと思い、三回生で他大学から経営学部の環境・デザ

就職内定者
座談会

大学生生活で培う “進路を切り拓く力”

正課、課外活動、インターンシップ、海外留学、アルバイト……

学生時代に熱心に取り組んだことから得た経験や、それによる成長は、未来を切り拓く力になります。

今回は、就職活動を行って見事に希望の内定を手にした学生5名に、大学生生活で何を感じ、考え、どのように成長したのか、また、身につけた力を今後どう生かしたいのかをお話いただきました。

イン・インスティテュートコースに編入学しました。周囲が大学生活を楽しんでいるなか、立命館への編入学の道を選ぶことに葛藤はありましたが、合格できて自分に自信ができました。編入後はコミュニティを研究するゼミに入り、リーダーとして悪戦苦闘しながらもメンバーをつなぎ、一丸となることができました。卒業研究でもコミュニティの研究を続けると同時に、理工学部の研究室にも所属して、人が楽しく集えるような空間について勉強をしています。

喜多 私が力を入れたのは、「居酒屋のアルバイト」と「海外バックパック旅行」です。アルバイトは社会勉強のつもりで始めました。初めは叱られてばかりでしたが、辞めずに続けることで心の成長ができました。常連さん中心の小さな店で、コミュニケーションも密にとれ、女将さんと板前さんは第二の両親のようで感謝しています。

旅行についてですが、私は国際関係学部で興味・関心のおもむくままに世界中の問題・課題について勉強しました。するとそれらを自分の目で見たいという欲求が湧き上がって、昨年はヨーロッパを二度訪れ、合わせて三カ月かけて十三カ国を周遊しました。なかでもポーランドのアウシュビッツ強制収容所が印象に残っています。ひどくショックを受けましたが、自分で貯めたお金と自分自身の行動力によって目的地に到達できた達成

感は素晴らしいものでした。

中西 私は「立命館・UBCジョイントプログラム」でカナダに約二年間留学しました。知らない世界を見てみたい、新しい世界で自分がどう生きていけるのか知りたいと思ったからです。英語ができるほうではなかったのですが、くじけそうになりましたが、一緒に留学した仲間や現地できた友人、両親など、たくさんの人に支えられて乗り越えることができました。また、世界中にはいろんな人がいて、多様な価値観があることを肌で感じ、チャレンジする力や新しいことに目を向ける姿勢を培うことができました。

安田 附属校出身の私は、高校時代の延長のような感じで大学生活をスタートしました。そして、バスケットボールチームをつくって社会人リーグに参加するなど、スポーツ活動に熱中しました。大切な友達と出会えたのはよかったのですが、学業がおろそかになり留年してしまいました。周りの友達が一足先に就職や進学を決めるなか、このままの自分では社会に通用しないと痛感しました。

五回生の時に画像処理の研究室に入り、初めて専門的な研究に取り組みました。そこで「医療画像の研究」に楽しみを覚え、大学院へ進んでからはいっそう研究に努力して、留年という挫折を強みに変えることができたと思います。

濱田 三回生の時、私は半年間かけて、「コーオプ演習」というインターンシップ

に参加しました。これは、学部生と院生がチームを組んで、企業が抱えている課題の解決に取り組むというものです。マスコミ志望の私は、京都新聞社の「新聞離れをどうするか」という課題に取り組みました。この体験を通して、私はチームのサブリーダーとして参謀的な役割を演じることが得意なのだと気付きました。自分を的確に分析できて、貴重な経験になりました。

種々の経験を通じて どのように成長したか

建山 みなさんの経験は、実にバラエティーに富んでいて、今日は楽しい座談会になりそうです。それではそれらの経験を通して、自分がどのように成長できた、あるいは、変わったと思いますか。

喜多 アルバイト先の女将さんやお客さんとの係わりや、海外旅行先で拙い英語でコミュニケーションしながら友人をつくった経験によって、人を思いやるようになったと思います。もともと親からはそのように教育されていましたが、その気持ち磨かれたのは大学時代だと思います。

粕淵 いつも周りの人に支えられ、励ましてもらったおかげで、さまざまな局面を乗り越えることができました。ここ一番の粘り強さと実行力が身についたと思います。自分の人生を主体的に生きたい。そのためには有言実行、やるしかない



頑張りました。今度は自分が人のために役立ちたいと思っています。ゼミの活動で様々な年齢や職業の方と交流したことで、相手や状況に合わせた応対をしようと気を配るようになりました。

中西 私も、目標に向かって辛くても努力する姿勢と根性を得ることができました。また、留学中に現地で知り合った人から「自分で限界を決めてしまったら、その先の可能性までなくなってしまうよ」という言葉をかけてもらったことで、諦めてはいけない、頑張ってみようと思いました。世界には様々な人、自分より優れた人もたくさんいるけれど、引け目を感じる必要などなくて、その人たちから刺激を受けることによって自分の良いところを伸ばそうと思えるようになりました。

安田 研究室での話しですが、専門性の高い研究ですから、教授の意見で研究を進めることが多いのです。しかし、だんだん自分にも専門知識が身について理解が深まると、教授とは異なる手法の提案ができるようになりました。また、先輩にも自分の経験を伝えてアドバイスするようになりました。後輩が困っている時は率先してサポートするなどして、研究室の雰囲気を変えるように心がけています。これによって私自身も成長できました。

濱田 インターンシップの経験もさることながら、大学では学部の異なる人と係わったり、他学部の授業を受けたりする



喜多 郁森さん
国際関係学部 4 回生・麒麟麦酒(株)内定

こともできたので、私の専門の法律学の視点だけでなく、社会学や文学などの見地から多角的・大局的に物事を考えられるようになり、また視野も広がったと思います。これが私にとっての大学での学びの意義ですね。

中西 視野が広がるということは、自分の思い通りにならない局面でも、例えば就職先が第二、第三志望になったとしても、そこで新たな可能性や希望を見出せるようになることだと思います。大学時代に頑張ったこと、考えたことは、決して無駄にはならないということです。

豊かな経験があつてこそ 満足のいく進路決定ができる

建山 なるほど。では、いま話して下さった経験や成長が、進路を決定する上でどのように役立ったかを教えていただけますか。

安田 私は教授から推薦をいただき、学校



粕淵 夕貴さん
経営学部 5 回生・(株)ジェイアール東海高島屋内定

推薦で応募して、比較的早く内定をいただきました。それも、スポーツ活動を通してできた友達や研究室の仲間から、早く就職活動に意識を向けるようにとの助言があつたおかげなので、感謝しています。企業の選択にあたつては、困難な状況でも同僚から笑顔が出るような職場環境で働きたいと思っていたので、働く人たちの様子に注目しました。OBの方のお話しや事業所訪問で、三菱電機の雰囲気がとても良いと感じたことが決定打となりました。

粕淵 私は文系の女子であることに加え、留年という要素があつて苦労しました。編入した三回生の時に就職活動を始めましたが、勉強したくて立命館に入ったのに、それが十分満たされない状態で活動することに気が乗らず、もっと勉強したいと留年を決めました。でもそれがどう評価されるか不安でした。しかしどうしても百貨店に入りたかった。接客という、



濱田 大地さん
法学部 4 回生・(株)産業経済新聞社内定

人と係わるソフト面と、売場空間づくりというハード面の両方に携わる仕事ができ、自分の専門性を生かせる職場だからです。他の学生と同じ土俵で戦うためにはどうしたらいいかと考え抜き、熱い思いで今年の活動に臨みました。また、エントリートシート対策、面接対策では、キャリアアセンターを積極的に活用しました。

もし就職のことだけを考えると勉強していたら、つまらない学生生活になったと思います。自分自身がやりたいことを貫いて、それを百貨店の人事担当の方が理解して下さったのが嬉しかったです。

中西 どの企業で働きたいとは限定せず、海外の人たちと係わりたいた、海外で仕事したいという気持ちで動いていました。それから、自分が成長できるフィールドがありそうな企業を探しました。留学から帰国したのが三回生の一月で、就職活動のことや自己アピールの仕方がよくわからず、戸惑いましたが、本来の自分を素

直に出すことで乗り切りました。自分が大事にしている経験や思いがまずあつて、就職活動はその後についてくるものなんです。就職のためにいろんな活動をするという考えでは寂しいと思います。

喜多 やはり海外旅行での経験が大きいです。スペインのユースホステルで日本のビールが話題になったので、みんなに飲んでもらいたいと思い、翌日私は街で日本のビールを探し回りました。ただ一つ見つかったのが麒麟ビールでした。就職活動開始にあたつてまず思い浮かべたのもビールです。ビールに係わるアルバイトでいい経験をし、ビールを通じて外国人の友達もできた私は、コミュニケーションツールとしてのビールの可能性を信じています。なかでも国際的な仕事ができる麒麟ビールは魅力的でした。

建山 濱田さんは早くから対象をマスコミに絞っていたようですね。就職活動で苦労したことなどはありますか。



安田 敏樹さん

理工学研究科博士課程前期課程2回生・三菱電機(株)内定



中西 麻依子さん

産業社会学部4回生・(株)東芝内定



建山 和由先生

理工学部教授・教学部長・父母教育後援会幹事長

私たちが抱く 将来の夢、希望

濱田 マスコミ業界は試験が難しく、特別な対策が必要です。私も大学のエクステンションセンターが実施しているマスコミ講座などに参加しておけばよかった、そして早い時期に情報交換や相談ができるマスコミ志望の仲間をつくれればよかったと思っています。それから、マスコミ業界は東京に本社がある会社が多いので、交通費がかさんで大変でした。親からの経済的な支援に感謝しています。進路決定については、親は最終的に私に任せてくれました。自分の能力を活かしたいという私の意見を尊重してくれましたね。

喜多 将来の希望は「仕事の喜び」と「家庭の喜び」をとにも得ることです。仕事で実現したい夢は、海外でのキリンビールの市場拡大に貢献することです。そして、両親、兄妹、祖父母、これから持つ自分の家族を大切に、ビールを通じてたくさん家族の団欒に役立ちたいと考えています。

粕淵 ジェイアール名古屋タカシマヤを、ワクワクできるテーマパークのような、顧客満足度ナンバーワンの店にしたいと思っています。そのために、商品と接客と空間をトータルでプロデュースできる人材になりたいです。またその仕事を通じて、人の生活や心の豊かさに貢献することが将来の目標です。

中西 就職がゴールだとは思っていないので、人生の夢をつくり続けられる人になりたいです。大学時代のように、いろいろなことに体当たりで取り組みながら日々の生活を充実させ、世界中をフィールドに、自分ができることの幅を広げていきたいです。

建山 みなさん、どうもありがとう。みなさんのお話から、大学生活には自分を磨く機会や方法がたくさんあることがよく分かりました。みなさんが共通して語ってくれたのは、「人との出会い、係わりを大切にしたい」「人の役に立ちたい、幸せ

にしたい」ということでした。このことは、進路・就職を考えるうえでとても大事なことですし、この気持ちを持っていれば、いい仕事ができると思います。社会に出て今の気持ちを大切に頑張ってください。

* インタビュ

* エクステンションセンターの各種講座

51ページの注をご覧ください。

* コーオプ演習

インターンシップを基本とした、半年間に及ぶ長期で高度な産学連携による学習プログラムです。
<http://www.ritsumei.ac.jp/acd/cr/career/gakunai/int/index.html>

* 立命館・UBCジョイント・プログラム

立命館大学とカナダのブリティッシュ・コロンビア大学(UBC)が共同で開発した海外留学プログラム。学力・語学力の向上とともに、国際人としての成長を目指したプログラムです。

http://www.ritsumeijp/cger/cger02-01_11.html

教育

山形大学と「包括的協力協定」を締結しました

立命館大学は、山形大学と「包括的協力協定」を締結しました。



山形大学は「学生が主役の大学づくり」を行動計画として掲げ、質の高い人材育成を行っています。その取り組みは、学生相互の学び合いを重視し、「学習者を中心とした教育」を掲げる立命館大学の精神と共通性を持ちます。

一方で両大学は、その設置形態、立地、規模等において全く異質の大学であり、連携・協力することによって、新たな教育創造を目指します。

この協定に基づき、今後次の三点を進めます。

●両学長による講演会の実施

協定の意義・目的を共有するために、両学長がお互いの大学において講演会を実施します。

●学生交流

「学生中心」の大学づくりを進めるために、双方の大学が抱える課題や特徴を、学生が正課・課外の両面から分析・調査して、それぞれの学長にプレゼンテーションを行います。

●職員交流

両大学の若手職員が、大学が共通して抱える現代的課題について共同の作業グループを編成し、検討します。そして学長に改

善提案を行います。また、職員の派遣、受け入れ等も検討します。

二〇〇八年度 国家公務員採用 I 種試験に三六名が合格しました

六月二十四日(火)、国家公務員採用 I 種試験の合格発表が行われ、立命館大学からは三六名が合格しました。合格者数は全国の私立大学で四位です。また、昨年度の合格者は三二名でした。

なお、全国の合格者数は前年度より三六名少ない一五四五名でした。

研究

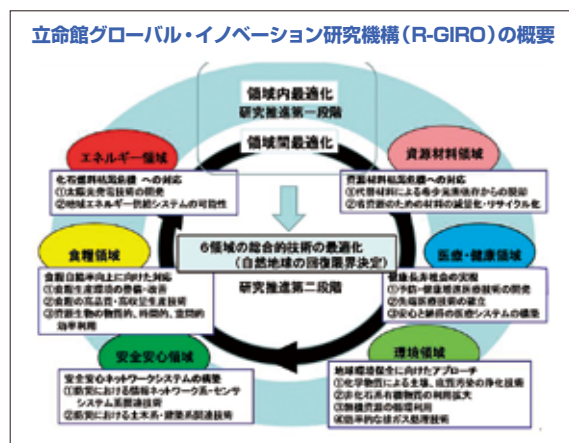
立命館の英知を結集した研究機構「立命館グローバル・イノベーション研究機構(R-GIRO)」を設置しました

二十世紀は科学技術の進展とともに、自然破壊や貧富差の拡大等の「負の遺産(影の部分)」も残しました。二十一世紀の自然科学、人文・社会科学はその清算を加味して発展していかなければなりません。

そこで、影の部分の抑止とともに、二十一世紀の日本の理想像(自然共生・自然順応立国)の構築に向けて、立命館学園の組織的な研究の取り組み姿勢を明示すべく、本年四月、環境や医療・健康など二十一世紀の課題解決のための研究組織「立命館グローバル・イノベーション研究機構(R-GIRO)」を設置しました。

立命館としては R-GIRO を「地球市民の要請に応える研究のシンボル」として位置づけ、立命館学園の中核的研究組織として研究の高度化と社会貢献を進めていきます。

当初は、びわこ・くさつキャンパス(BKC)を拠点とし、理工、生命科学など理系四学部に経済学部などからも研究者が加わり組織を発足します。今後は文系学部が立地する衣笠キャンパスや、立命館アジア太平洋大学にも拠点をつくることを予定。外部資金も積極的に獲得しながら研究をすすめ、プロジェクト型研究を通して次代を担う若手研究者の育成も進めます。



文部科学省「グローバルCOEプログラム」に歴史都市を守る「文化遺産防災学」推進拠点が採択されました

文部科学省「グローバルCOEプログラム」に、立命館大学から、歴史都市を守る「文化遺産防災学」推進拠点が採択を受けました。

文部科学省「グローバルCOEプログラム」は、二〇〇二年度から文部科学省において開始された「21世紀COEプログラム」の評価・検証を踏まえ、その基本的な考え

方を継承しつつ、我が国の大学院の教育研究拠点を一層充実・強化し、世界最高水準の研究基盤の下で世界をリードする創造的な人材育成を図るために、国際的に卓越した教育研究拠点の形成を重点的に支援し、国際競争力ある大学づくりを推進することを目的とする事業です。

歴史都市を守る「文化遺産防災学」推進拠点(中核となる研究センター・立命館大学歴史都市防災研究センター/中核となる専攻等名・理工学研究科総合理工学専攻・理工学研究科フロンティア理工学専攻・政策科学研究科政策科学専攻・文学研究科人文学専攻/拠点リーダー・大窪健之 大学院理工学研究科・総合理工学専攻・教授は、歴史都市京都を主な対象として防災研究を進め、文化財防災のための課題の抽出と基礎的研究を実施してきました。今プログラムではその成果の上に立ち、文化遺産防災技術の研究開発、若手研究者などの人材育成、文化遺産防災学教育および研究における国際貢献を行います。

文部科学省「産官学連携戦略展開事業」に採択されました

立命館大学は、文部科学省の平成二十年度新規事業「産官学連携戦略展開事業」において、「戦略展開プログラム」の「特色ある優れた産官学連携活動の推進(原則五年間)」区分に採択されました。

本学はこの産官学連携活動を通じて大学発の研究成果を事業化し、地域イノベーションの創出に貢献することを目指します。

国際化

中国との交流

立命館学園は、「世界に開かれたアジア太平洋地域の教育・研究拠点」となること



を「二〇一〇年の立命館 中期計画2007-2010」で目標として掲げ、グローバル社会で通用する人材育成に向けた様々な取り組みを行っています。これらを前進させるものとして、立命館大学の学生・教職員が訪中するなど、様々な活動を展開しています。

二〇〇七年四月、中国の温家宝首相が来学した際に、本学の学生百名を中国に招待いただくご提案を受けました。同年末、温家宝首相と福田康夫首相との会談によって、日中平和友好条約締結三十周年である二〇〇八年を「日中青少年友好交流年」とすることが決定され、中国と日本の両政府がそれぞれ千名の青年・学生を招待しあうことになりました。温家宝首相による本学の学生百名の招待は、中国政府が招待する千名の中に位置づけられました。

◆立命館大学訪中団が中国訪問

三月十五日(土)、「日中青少年友好交流年開幕式典」が北京で実施され、本学のチアリーダー部・吹奏楽部の約百二十名が日本を代表して出演しました。その日程に合わせた形で、三月一日〜一五日にかけて北京大学、北京航空航天大学、上海交通大学、立命館大学において、学生・学術フォーラム・研究



フォーラム・学生フェスティバル等を行い、日中の学生や研究者たちが交流を深めました。

また、「ALL立命館Party in 北京」も開催され、立命館大学・立命館アジア太平洋大学の校友・父母、立命館大学で行っている中国の大学管理運営幹部特別研修への参加経験者、教職員など約四百四十名が集いました。

今回の本学訪中団の規模は、学生・教職員総勢三〇八名であり、日本の大学としても、また受け入れた中国側にとっても、単独の大学からの訪問としては史上最大の規模となりました。

◆北京大学現代日本研究センター 訪日研究団が来学

五月二十六日(月)、北京大学現代日本研究センター博士第三期生の学生らが朱雀キャンパスを訪れ、本学学生との交流会が開催されました。これは、北京日本学研究センター事業の一つとして北



京大学経済学院内に設置されたプログラムの一環であり、本年四月には、樋原伸彦経営学部准教授が北京大学現代日本研究センターで講義を行っています。

馬書根理工学部教授(びわこくさつキャンパス国際センター長)の歓迎の挨拶の後、北京大学訪日団の団長である王仰麟北京大学研究生院常務副委員長より「昨年、温家宝総理が来学されたことから、立命館大学のことはよく知っています。今回を機に、交流を深めたい」と挨拶がありました。また、「日本に到着してから、皆さんに四川の地震についてお見舞いの言葉を頂き、感謝しています」と語りました。

交流会の後半では、北京大学の学生と立命館大学の学生がいくつかのグループに分かれて、日本の学生生活などについて話す姿が多く見られました。

キャンパス環境等

BKC(中書島間)バス路線 開設 片道三十分で運行

立命館大学は本年四月、京阪バスグループ(京阪宇治バス株式会社・京阪京都交通株式会社)の協力により、京阪中書島(びわこくさつキャンパス(BKC))間高速バス路線を開設しました。

約一万八千人の学生が学ぶBKCへは、京阪神方面等からの学生約八千人が、JR琵琶湖線南草津駅を利用して通学しています。今回の高速バス路線の開設により、京阪中書島(BKC)間が片道三十分で直結され、京都南部、大阪北部の京阪沿線からの通学所要時間が三十分から一時間短縮されました。これにより、現在通学している学生の利便性が向上するとともに、自宅通学可能なエリアが広がるなどの効果が期待

されます。バスは中書島駅から第二京阪・京滋バイパス、名神を経てBKCまでを結びます。平日は十五往復、土曜は五往復し、大学が休みのときは運休します。料金は片道六百円です。

西日本大学初進出 BKCに サンドイッチ・チエーン店「サブウェイ」がオープン

六月二四日(火)、びわこくさつキャンパス(BKC)内に、サンドイッチ・チエーン店の「サブウェイ」がオープンしました。西日本エリアの大学キャンパス内としては、初の出店となります。



これは増加する学生数とそれに伴う食堂施設の混雑などにより、多様な食事の提供を求める声が多くなってきたことに応えたものです。

同店は、学生のニーズに合わせた低価格でヘルシーな立命館オリジナルメニューを用意し、昼食時の混雑緩和に貢献するとともに、豊富な野菜を使った健康的な食の提供を通じて、学生および教職員の満足度の向上を目指しています。

またBKC店限定メニューとして、草津市産の水菜を使ったサンドイッチやモニングセット、ランチセットが登場する予定です。

取扱い窓口のご紹介

さまがお悩みの際には以下の取扱い窓口に行くようご助言ください。

事 項	内 容 例	取 扱 い 窓 口	摘 要
事故・事件・ トラブルなどの 相談は	交通事故、訪問販売、 盗難、災害などのトラブルに 見舞われたとき	学生オフィス 【衣笠／BKC 両キャンパスにあります】	秘密厳守でお子さまの相談にのります。
からだや こころの相談は	けが、病気になったとき	保健センター 【衣笠／BKC 両キャンパスにあります】	保健センターは診療所を併設していて診療や応急手 当を行っています。診察には保険証が必要です。
	こころとからだに 悩みがあるとき		どんな小さな問題でも相談に応じます。他の病院へ の紹介もします。
	悩みや相談があるとき	学生サポートルーム 【衣笠／BKC 両キャンパスにあります】	スタッフがお子さまの立場に立って一緒に考えま す。秘密は厳守いたします。サポートルームを直接訪 ねるか、学生オフィスで予約をしてください。
その他	落とし物をした・ 落とし物をひろった	キャンパス インフォメーション 【衣笠／BKC 両キャンパスにあります】	毎日、非常に多くの落とし物があります。所持品の管理 には十分で注意いただくようお子さまにご助言くだ さい。学生証の再発行は各学部事務室で手続きが必要 です。
	父母が本学の図書館を 利用したい	【衣笠】衣笠図書館 【BKC】メディアセンター メディアライブラリー	父母教育後援会会員であることを条件に、図書館の 利用が可能です。利用手続等については、衣笠図書館 またはメディアセンター・メディアライブラリーへ お問い合わせください。

各 窓 口 連 絡 先 （ 電 話 番 号 ）

衣笠キャンパス		びわこ・くさつキャンパス	
法学部事務室	075-465-8175	経済学部事務室	077-561-3940
産業社会学部事務室	075-465-8184	経営学部事務室	077-561-3941
国際関係学部事務室	075-465-1211	総合理工学院教学課	理工学部 077-561-2625
政策科学部事務室	075-465-7877		情報理工学部 077-561-5202
文学部事務室	075-465-8187		生命科学部・薬学部 077-561-5021
映像学部事務室	075-465-1990	学びステーション 077-561-4972	
学生オフィス (衣笠)	075-465-8168	学生オフィス (BKC) 077-561-2854	
キャリアオフィス (衣笠)	075-465-8171	キャリアオフィス (BKC) 文系担当 077-561-3942	
エクステンションセンター (衣笠)	075-465-8297	キャリアオフィス (BKC) 理工系担当 077-561-2626	
保健センター (衣笠)	075-465-8231	エクステンションセンター (BKC) 077-561-2853	
国際センター (衣笠国際教育課)	075-465-8229	保健センター (BKC) 077-561-2635	
キャンパスインフォメーション (衣笠)	075-465-8144	国際センター (BKC国際教育課) 077-561-3946	
衣笠図書館	075-465-8217	キャンパスインフォメーション (BKC) 077-561-2621	
朱雀キャンパス		メディアセンター 077-561-2634	
財務経理課	075-813-8164	メディアライブラリー 077-561-3943	



こんな場合はここへ ― 各種

お子さまの学生生活について、疑問やご相談にお応えする窓口をケース別にご紹介します。お子

事 項	内 容 例	取 扱 い 窓 口	摘 要
カリキュラムについては	卒業に必要な単位が知りたい	各学部事務室	学部ごとに学則・履修規定で定められています。
	成績について知りたい		年 1 回、ご父母にあてて前年度の成績表をお送りしています（2 回生以上は 5 月、1 回生は 1 0 月に前期セメスターの成績を送付）。
	教員免許状をとるためには（教職課程の履修について）		計画的履修と自主的自発的な努力が必要です。各時期のオリエンテーションには必ず出席するようお子さまにご助言ください。
各種変更届出は	学生の現住所・電話番号などの変更	【衣笠】各学部事務室 【BKC】学びステーション	学生本人が窓口にて所定の変更届を提出してください。保証人のみの情報変更についても、左記の窓口で受け付けますのでご注意ください。
	保証人または学費請求先の変更（住所、姓名など）		
学籍や進路に関する相談は	休学	各学部事務室	病気などやむを得ない理由で就学が困難になったとき、「休学願」を提出して許可を得る必要があります。
	復学		休学中は「復学願」を提出して許可を得る必要があります。
	退学		やむを得ない理由で就学ができなくなったとき、「退学願」を提出して許可を得る必要があります。
	再入学		退学や除籍の後、勉学の意欲が強いとき、2 年以内の「再入学願」の提出に基づき、許可されることがあります。
	転学部・転学科・転コース・転学系		2・3 回生進級前に出願すれば、選考の結果許可されることがあります。
	海外留学したい	国際センター 【衣笠／BKC 両キャンパスにあります】	留学プログラム、海外ボランティアの相談窓口です。募集要項の配布、協定校の情報提供をしています。
	卒業後も勉学を続けたい	各学部（研究科）事務室	大学院進学相談・資料請求ができます。また、聴講生・科目等履修生の制度もあります。
	就職について相談したい	キャリアオフィス 【衣笠／BKC 両キャンパスにあります】	回生にかかわらず、適宜相談してください。
	難関国家試験・資格試験等に備えたい	エクステンションセンター 【衣笠／BKC 両キャンパスにあります】	各種試験対策講座や、スキルアップのための講座を開講しています。
学費や経済的な相談は	学費納入方法についての問い合わせ	財務経理課	郵送される「学費案内」に同封の振込用紙で銀行からお振込ください。納入期限にご注意ください。
	学費納入が困難なとき	学生オフィス 【衣笠／BKC 両キャンパスにあります】 または各学部事務室	お早めにご相談ください。
	奨学金を受けたい	学生オフィス 【衣笠／BKC 両キャンパスにあります】	日本学生支援機構奨学金をはじめ、学内奨学金その他民間奨学財団奨学金等があります。
課外活動について	課外活動上の問題など	学生オフィス 【衣笠／BKC 両キャンパスにあります】	入・退部や練習・合宿などの日常の問題はキャプテンまたは先輩などに相談してください。相談しにくい問題は部長・顧問の先生または学生オフィスやスポーツ強化オフィスにご相談ください。

RITSUMEX'08 立命館オープンキャンパス in TOKYO

立命館大学と立命館アジア太平洋大学を東京で体感できるオープンキャンパスを開催します。立命館の魅力や、入試に役立つ内容が盛りだくさんの1日です。高校生はもちろん、在学生父母の皆さまや一般の方々のご参加をお待ちしております。

- 2008年9月23日(火・祝) 11:30開場
- 東京ドームプリズムホール *JR中央線他「水道橋」駅から徒歩2分
- 入場無料

*当日のプログラム等詳細はホームページ[RitsNet] <http://www.ritsumei.ac.jp/ritsnet/>をご覧ください。
*トークセッションなど、一部のプログラムは事前申込が必要です。

【お申込・お問合せ先】

- ☐立命館大学入学センター TEL:075-465-8351
- ☐立命館アジア太平洋大学 (APU) アドミッションズ・オフィス TEL:0977-78-1120



オール立命館校友大会2008

立命館で学んだ人、学ぶ人、教え働く人…すべての立命館人に開かれた集いの場、オール立命館校友大会。今年は京都を会場に、現役生や校友によるステージなど父母の皆さまや一般の方々にも「オール立命館」を体感していただける多彩なイベントを繰り広げます。

- 2008年11月1日(土)
- 京都駅ビル イベントスペース「室町小路広場」「駅前広場」他、ホテルグランヴィア京都

*企画の詳細は、校友会ホームページ<http://www.ritsumei.ac.jp/mng/al/index.html>をご覧ください。

【お問合せ先】立命館大学校友会事務局(校友・父母課) TEL:075-813-8216

FRESH BOOK 2008

立命館大学入学記念アルバム 2008

入学時の貴重な思い出が詰まった 父母教育後援会監修による保存版アルバム

- ◎ 価 格: 10,000円(消費税・送料込み)
- ◎ 発 行: 立命館生活協同組合
- ◎ 協 力: 立命館大学広報課
- ◎ 掲 載 内 容: 学長の祝辞、入学式、衣笠・BKCキャンパス風景、
入学式会場付近での喜びのスナップ写真、
2008年度新入生クラス集合写真、立命館大学の歴史など
- ◎ 申込み締切: 8月29日(金)

お申し込み・
お問合せ先

立命館生活協同組合 購買部
〒603-8577 京都市北区等持院北町 56-1 TEL.075-465-8282



(写真は2007年度版)

立命館大学夏期一斉休暇のお知らせ | 8月13日(水)～8月19日(火)は夏期一斉休暇のため、事務室を閉室いたします。

父母教育後援会ホームページのご案内

<http://www.ritsumei.ac.jp/mng/fubo/index.htm>

立命館大学のホームページアドレスからは
保護者の皆さまへ▶立命館大学父母教育後援会をクリック

最近、立命館や、関係団体等の名前を利用した悪質なビジネス等が横行しております。父母教育後援会は、会員の照会をいかなる団体にも一切行っておりませんので、くれぐれもご注意ください。

本誌は学部に登録された学生の保証人住所に送付しています。住所を変更された場合は、学生本人から学生証を持って各学部事務室(BKCは学びステーション)まで届け出ていただきますようお願いいたします。